

平成24年度

図書館情報専門学群 開設授業科目シラバス

(24年9月5日修正)

筑波大学
図書館情報専門学群

目 次

時間割	ii
学年暦	iv
開設授業科目一覧	v
科目シラバス	1
索引	
教員一覧（教員名索引）	103
科目名索引	105

図書館情報専門学群時間割（平成 24 年度） 1 限 8:40～9:55, 2 限 10:10～11:25, 3 限 12:15～13:30, 4 限 13:45～15:00, 5 限 15:15～16:30, 6 限 16:45～18:00

1 学期

集中：P42 知識形成論（武者小路）7A104

	月	火	水	木	金
1	P42 情報サービス経営論（池内）7A205	P41 レファレンスサービス論（大庭）7A104 P41 情報組織化演習-1（呑海・阪口）7C102	P41 知識論（横山）7A104 P42/52 テキスト処理（佐藤）7A101/7C103 P41 情報組織化演習-2（呑海・鈴木 ^伸 ）7C102 P21 基礎数学入門（鎮目）7A205	P41 学術情報流通論（松林）7A205 P41 公共図書館特論（葉袋）7A104	P52 ネットワークメディアシステム（阪口）7A101/7C103 P42 メディアリテラシー（鈴木 ^佳 ）7A104 P21 情報検索論（岩澤）7A205
2					
3	P42 図書館建築論（植松）7A101 P42/52 図書館文化史（呑海）7A104 P21 データベース（手塚）7A205/7C102	P42/52 メタデータ（鈴木 ^伸 ）7C103 P42 テキカルコミュニケーション論（三波）7A102/7C102 P42/52 コンテンツ表現と形成の技術（西岡）7A106		P42/52 情報サービスシステム（松村）7C102/7B206 P42 ネットワーク情報法（石井 ^夏 ）7A104 P21 図書館経営論 I（大庭）7A205 P52 マンマシンインタラクション（井上）7A106	P42/52 知識資源の分析（緑川）7A102 P41 図書館情報法制度論（市川）7A207 P21 情報表現法（小高）7A106
4	P42/52 専門外国語 III-2B（若林）7A103	P21 図書館情報学概論（宇陀）7A205 P42/52 専門外国語 III-2C（松縄・村井）	P42/52 専門外国語 III-2C（松縄・村井）		① ②
5	P21 知識発見基礎論（中山）7A205 P52 音声メディア処理（田中）7A106/7C202	P13 心理学（平賀・森田）7A104		P42/P52 情報メディアの活用（大澤）7A106/7C102 P21 情報組織化論（鍋田）7A205	P13 代数学（森継）7A105
6					

① P42/52 コンテンツプロデュース論（鈴木誠）春日講堂

② P42/52 専門外国語 III-2A（芳鐘・上保）7A103

2 学期

集中：P42/52 経営情報システム（岩丸）7A208

	月	火	水	木	金
1	P42/52 読書と豊かな人間性（鈴木 ^佳 ）7A205 P51 マークアップ言語（永森・杉本）7A106/7C202	P42 計量情報学（真栄城）7A101/7C103 P42/52 学習指導と学校図書館（平久江）7A104 P42 レファレンスサービス演習-1（原・芳鐘）7A102/7C102 P21 情報システム論（佐藤）7A205 P13 解析学（平賀）7A105 P52 知能ロボット（三河）7A106	P42/52 クラスタリング（中山）7A106 P51 データ構造とアルゴリズム（森継）7A204 P42 レファレンスサービス演習-2（原・辻）7A104/7C102 P21 基礎数学 II（ ）7A205	P42 大学図書館論（逸村）7A104 P21 プログラミング演習 I-1（松村・時井）7C102	P51 情報検索システム（関）7A104 P42 教育文化政策（溝上）7A101 P42 社会調査法（歳森）7A205 P21 プログラミング演習 I-2（松村・時井）7C102
2					
3	P52 量子情報処理（鎮目）7A207/7C103 P42 中国図書館学（松本 ^浩 ）7A104 P51 ネットワークコミュニケーション（阪口）7A205	P52 先端データベース技術論（森嶋）7C102 P42 医療情報論（岩澤）7A105/7C103 P11 哲学概論（横山）7A205		P42/52 デジタルトキメント（松村・宇陀）7A106 P42 知的財産権論 A（村井）7C102 P21 生涯学習論（吉田）7A205	③
4	P42/52 専門外国語 III-2B（若林）7A103	P12 社会学（後藤）春日講堂 P42/52 専門外国語 III-2C（松縄・村井）	P42/52 専門外国語 III-2C（松縄・村井）		④
5		P52 知覚情報処理（森田）7A104		P42 統計情報と研究（田村）7A106 P42 質的調査法（川澄）7A205 P52 プログラミング言語処理系（中井）7C102	
6					

③ P21 記録資料入門（白井）7A206, P42 漢文購読（松本^浩）7A207

④ P42/52 専門外国語 III-2A（芳鐘・上保）7A103, P42 古文獻購読（綿抜）7A206, P21 西洋図書館史概論（原）7A207

3 学期

	月	火	水	木	金	
1	P41 コレクション形成論（吉田）7A205	P42/52 学校図書館メディアの構成（三波）7A205 P42/52 グラフィックデザインⅠ（金）7A106/クラブ P12 法律学（石井夏）春日講堂 P42/P52 データマニング（長谷川）7A101/7C103	P42/52 レファレンスサイエンス（上保）7A204 P51 プログラミング法（手塚）7A201/7C103 P13 幾何学（鎮目）7A106/7C202	P42 コミュニティ情報論（歳森）7A105 P21 プログラミング演習Ⅱ-1（真栄城・松村）7C102	P51 マルチメディアシステム（松本 ^清 ）7A101 P42/52 学校経営と学校図書館（平久江）7A104 P41 情報行動論（松林）7A205 P21 プログラミング演習Ⅱ-1（真栄城・松村）7C102	
2						
3	P41 情報評価（芳鐘）7A106 P42 日本図書学（綿拔）7A104 P42/52 多変量解析（田村）7A103 P52 画像メディア処理（小高）7A105	P42/52 情報デザイン（時井）7A101/7C102 P21 知的財産権論（松縄・村井）春日講堂 P21 基礎数学Ⅰ（森継）7A104 P42 特許情報論（岩澤・阪上）7A102/7C103		P42/52 学術情報システム（宇陀）7A105 P42 知的財産権論Ⅱ（松縄）7A206/7C103 P12 経済学（池内）7A205	P42/52 用語管理論（辻）7A102 P42/52 メディア論（後藤）7A205	⑤
4						⑥
5	P42 アーカイブ論（白井）7A106	P21 図書館論（栗袋）7A205		P41 パブリックガバナンス論（野本）7A106 P21 自然言語処理（関）7A205		
6						

⑤ P21 記録資料入門（白井）7A206, P42 漢文購読（松本^清）7A207
⑥ P42 古文獻購読（綿拔）7A206, P21 西洋図書館史概論（原）7A207

平成24年度学年暦カレンダー

(学群関係)

第 1 学 期									第 2 学 期									第 3 学 期									
曜日 月	日	月	火	水	木	金	土	備 考	曜日 月	日	月	火	水	木	金	土	備 考	曜日 月	日	月	火	水	木	金	土	備 考	
4 月	1	2	3	4	5	6	7	春季休業 4.1～4.7	8 月				1	2	3	4	第2学期入学式 8.27	12 月							1	第3学期授業開始 12.3	
	8	9	10	11	12	13	14	入学式 4.9		5	6	7	8	9	10	11			2	3	4	5	6	7	8		
	15	16	17	18	19	20	21	新入生履修ガイダンス 4.10		12	13	14	15	16	17	18			9	10	11	12	13	14	15		
	22	23	24	25	26	27	28	新入生オリエンテーション 4.11～12		19	20	21	22	23	24	25			16	17	18	19	20	21	22	※18日は月曜日の授業を実施	
	29	30						第1学期授業開始 4.13		26	27	28	29	30	31				23	24	25	26	27	28	29	※26日は金曜日の授業を実施	
5 月			1	2	3	4	5	※1日は木曜日の授業を実施	9 月							1	第2学期授業開始 9.3	1 月			1	2	3	4	5	※16日は月曜日の授業を実施 センター試験 1.19～1.20	
	6	7	8	9	10	11	12			2	3	4	5	6	7	8	6		7	8	9	10	11	12			
	13	14	15	16	17	18	19	春季スポーツデー 5.19～5.20		9	10	11	12	13	14	15	13		14	15	16	17	18	19			
	20	21	22	23	24	25	26			16	17	18	19	20	21	22	※19日は月曜日の授業を実施		20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31					23	24	25	26	27	28	29			27	28	29	30	31				
6 月						1	2	第1学期授業終了 6.26 第1学期期末試験 6.27～7.3	10 月		1	2	3	4	5	6	開学記念日 10.1 ※4日は金曜日の授業を実施 学園祭 10.6～10.8 秋季スポーツデー10.20～10.21 筑波キャンパス電気設備点検 (全学停電)10.27～10.28	2 月							1	2	※28日は月曜日の授業を実施
	3	4	5	6	7	8	9			7	8	9	10	11	12	13	3		4	5	6	7	8	9			
	10	11	12	13	14	15	16			14	15	16	17	18	19	20	10		11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23			21	22	23	24	25	26	27	17		18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30			28	29	30	31				24		25	26	27	28					
7 月	1	2	3	4	5	6	7	夏季休業 7.4～8.31	11 月					1	2	3	第2学期授業終了 11.15 第2学期期末試験 11.16～11.22 秋季休業 11.26～11.30	3 月							1	2	第3学期授業終了 3.1
	8	9	10	11	12	13	14	4		5	6	7	8	9	10	3	4		5	6	7	8	9	第3学期期末試験 3.4～3.8			
	15	16	17	18	19	20	21	11		12	13	14	15	16	17	10	11		12	13	14	15	16	春季休業 3.9～3.31			
	22	23	24	25	26	27	28	18		19	20	21	22	23	24	17	18		19	20	21	22	23	卒業式 3.25			
	29	30	31					25		26	27	28	29	30		24	25		26	27	28	29	30	(医学類の卒業日は3.8)			
授業 日数		10	10	10	10	10		1～2時限 3時限以降	授業 日数		10	10	10	10	10		1～2時限 3時限以降	授業 日数		10	10	10	10	10		1～2時限 3時限以降	

- (注) 1. 太字は、国民の祝日に関する法律による休日(振替え休日含む)を示す。(ただし、春分の日は予定である。)
2. 入学式、新入生履修ガイダンス、新入生オリエンテーション及び卒業式は|||||||で示す。
3. 期末試験日は、≡≡≡で示す。
4. 休業日は■で示す。
5. 1月18日(金)及び1月21日(月)の授業はセンター入試の関係で全日臨時休業とする予定、2月22日(金)は前期試験関係で全日臨時休業とする予定であり、試験日程決定後、改めて周知することとする。
6. 学園祭の実施に伴い、10月5日(金)、10月9日(火)の授業は、臨時休業とする。
7. 医学類に係る卒業日は平成25年3月8日とし、卒業式は上記日程に従い実施する。

開設授業科目一覧

(1) 専門基礎科目

図書館情報基礎科目(人文系)

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P110301	哲学概論	2.0	2	2学期	火3,4	7A205	横山幹子	西洋哲学の歴史を概観し、哲学史に関する基礎的な知識を習得することを目指す。論理学の基本的な考え方にも触れる。そして、それらを学ぶことを通して、「考えること」の意味と重要性について考える契機を与える。	GE10201と同一。	1

図書館情報基礎科目(社会系)

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P120101	法律学	2.0	1	3学期	火1,2	春日講堂	石井夏生利	情報化社会における法制度や情報モラル向上に必要な基礎知識を習得することを目指すため、現行の我が国の法制度の基礎を学び、ネットワーク社会における法整備の現状について講義する。	GA10101と同一。	2
P120601	経済学	2.0	2	3学期	木3,4	7A205	池内淳	社会と経済学との関係を考察し、代表的な経済学の学説を学ぶ。	GE21601と同一。	3
P120701	社会学(社会と経済)	2.0	2	2学期	火3,4	春日講堂	後藤嘉宏	メディア研究の基礎としての社会学を学ぶ。哲学の一分野として出発した社会学が、社会調査等で日常生活の具体像に向き合うのはなぜか、その問題意識や方法を考察する。具体的には、ウェーバー社会学の方法を学び、人々の意識や行動を捉える社会調査が、どのように人々の意味世界に迫るか論じる。	GC20101, GE21401と同一。	4

図書館情報基礎科目(自然・数学系・その他)

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P130401	心理学	2.0	2	1学期	火5,6	7A104	平賀譲 森田ひろみ	人間の認知過程を探究する学際的領域としての認知科学を概観し、様々なアプローチからの研究を通じて人間の認知の様々な側面を探る。「人間の要因」は情報メディアやコンテンツを考えていく上でも重要な基礎となる。	GC16101と同一。	5
P130601	幾何学	2.0	2	3学期	水1,2	7A106 7C202	鎮目浩輔	幾何学を、コンピュータグラフィックスの基礎となる部分を中心として説明する。曲線、曲面の数式での表現から始め、曲線座標系、ベクトルの利用、affine変換までが主な話題。余裕があれば微分幾何学の入門的な話題に入る。	GC21301と同一。	6
P130701	代数学	2.0	2	1学期	金5,6	7A105	森継修一	整数および多項式を題材とした代数をアルゴリズムの観点から講義する。数式処理システムを利用した問題の解法を意識しながら、プログラム例を交えて解説する。最終的には、数式処理に固有のアルゴリズムを示すことまでを目標とする。	GC21201と同一。	7
P130801	解析学	2.0	2	2学期	火1,2	7A105	平賀譲	「解析I」の内容を受けて、多変数関数(主として2変数関数)の解析を、演習も交えて講義する。内容は点列・多変数関数の基本的な性質(極限、連続性)、偏微分、(全)微分、重積分、線積分など。	「解析I」を履修していること。 GC11201と同一。	8

図書館情報科目

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P210601	図書館情報学概論	2.0	1	1学期	火3,4	7A205	宇陀則彦	総合科学としての図書館情報学の全体像を概説し、知識情報学への発展における基礎的な視点について論じる。	GE10101と同一。	9
P210701	図書館論(図書館情報社会論)	2.0	1	3学期	火5,6	7A205	葉袋秀樹	図書館とは何かについて概説し、これからの図書館の在り方を考える。図書館の現状、構成要素と機能、社会的意義、成立の歴史、館種別図書館と利用者のニーズ、図書館職員の役割と資格、関係機関・関係団体、図書館の課題と展望等について解説する。	GE22001と同一。	10
P211001	図書館経営論I(図書館情報センター経営論)	2.0	2	1学期	木3,4	7A205	大庭一郎	図書館の経営や情報システムの構築のための経営概念、経営管理、意思決定、組織、人間行動等についての基礎を学ぶ。	GE21501と同一。	11
P211101	情報組織化論	2.0	2	1学期	木5,6	7A205	鴫田拓哉	知識資源の効果的かつ効率的な利用を目的として行われる、情報の分析、記述に基づく知識資源の組織化に関する基本的な考え方を学ぶ。	GE21001と同一。	12
P211201	情報検索論	2.0	2	1学期	金1,2	7A205	岩澤まり子	情報探索のための情報の蓄積・更新、情報探索の基本的な方法・理論および情報探索のプロセスについて、利用者の探索行動の特性および情報要求と関連づけながら学ぶ。	GE20601と同一。	13
P211301	生涯学習論	2.0	2	2学期	木3,4	7A205	吉田右子	生涯学習の意義を理解し、学習生活を効果的に援助する方法について学ぶ。	GE21701と同一。	14
P211501	知的財産権論	2.0	2	3学期	火3,4	春日講堂	松縄正登 村井麻衣子	知的財産に関する法制度を主要な概念や法理に基づいて学ぶ。著作権法、特許法を中心に、不正競争防止法、商標法など、知的財産諸法についての基礎的な知識を身につけ、知的財産法の法技術的な特色を踏まえた上で、情報化社会における望ましい制度のあり方について考察し、情報の保護と利用についてのバランス感覚や、問題解決能力を身につけることを目的とする。	GA10201と同一。	15

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P211912	プログラミング演習(プログラミング言語演習)I-1	2.0	1	2学期	木1,2	7C102	松村敦 時井真紀	コンピュータプログラミングの基礎を学習する。具体的にはプログラミング言語と幾つかの基本的なアルゴリズム、処理の流れを習得する演習を行う。最終的にはプログラムが自力で書けることを目標にする。	知識1,2クラス対象 GE10612と同一。 知識学類生に限る	16
P211922	プログラミング演習(プログラミング言語演習)I-2	2.0	1	2学期	金1,2	7C102	松村敦 時井真紀	コンピュータプログラミングの基礎を学習する。具体的にはプログラミング言語と幾つかの基本的なアルゴリズム、処理の流れを習得する演習を行う。最終的にはプログラムが自力で書けることを目標にする。	知識3,4クラス対象 GE10622と同一。 知識学類生に限る	16
P212012	プログラミング演習(プログラミング言語演習)II-1	2.0	1	3学期	木1,2	7C102	真榮城哲也 松村敦	実践的プログラミング技術を身につける。ファイル入出力、テキストデータやマルチメディアの処理など実データを扱うプログラムを作成する。最終的に問題解決手段としてのプログラム能力を得ることを目標にする。	知識1,2クラス対象 GE10712と同一。 知識学類生に限る	17
P212022	プログラミング演習(プログラミング言語演習)II-2	2.0	1	3学期	金1,2	7C102	真榮城哲也 松村敦	実践的プログラミング技術を身につける。ファイル入出力、テキストデータやマルチメディアの処理など実データを扱うプログラムを作成する。最終的に問題解決手段としてのプログラム能力を得ることを目標にする。	知識3,4クラス対象 GE10722と同一。 知識学類生に限る	17
P212201	データベース	2.0	2	1学期	月3,4	7A205 7C102	手塚太郎	データベース技術の基礎概念を学ぶ。具体的には、データベースの定義と種類、データモデリングの考え方、リレーショナルモデルの基礎、データベース管理システム(DBMS)の基本機能、データベース設計と管理などを、講義と演習を通じて学ぶ。	GE21101と同一。	18
P212301	情報表現法	2.0	2	1学期	金3,4	7A106	小高和己	情報とは何かから起こし、種々の情報表現技術について講義する。具体的には、情報量、コミュニケーションに相応しい情報の表現法、コンピュータ処理に相応しい情報の表現法などについて説明する。	GC24201と同一。	19
P212401	情報システム論	2.0	2	2学期	火1,2	7A205	佐藤哲司	情報化社会を迎えて、私たちは様々な形のコンピュータに取り囲まれている。本講義では、1台のコンピュータの構成、複数のコンピュータを接続するネットワーク、様々な生活の場面で活用されている社会情報システムを概観し、そこで実現されている機能や役割を理解する。 情報システムを理解し説明するためには、様々な専門用語を必要とすることから、個々の用語について歴史的な経緯を含めて、それが示す概念を深く理解する。	講義で使用するレジュメは http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~sato/index-j.html からたどれるようにしますので、各自で所定の様式に印刷して持参してください。詳細は第1回に説明します。 GE20101と同一。	20
P212501	自然言語処理	2.0	2	3学期	木5,6	7A205	関洋平	人間の日常言語の内容を計算機で解析する自然言語解析は、機械翻訳、情報検索における索引付け、音声認識、仮名漢字変換などで実用的な成果をあげている。本講義は、自然言語処理の概要、言語モデル、統計的言語処理など自然言語解析の基礎理論を講義する。	GE21301と同一。	21
P212601	基礎数学I	2.0	1	3学期	火3,4	7A104	森継修一	線形代数の初歩を講義する。内容は、連立一次方程式、階数(ランク)、行列式、一次変換、固有値と固有ベクトルなどである。	GE20301と同一。	22
P212701	基礎数学II	2.0	1	2学期	水1,2	7A205	未定	解析学の初歩を講義する。内容は、関数、関数の特徴、数の体系、無限と連続、極限、1変数関数の微積分などである。	GE20201と同一。	23
P212801	統計	2.0	1					数理統計学の基礎を講義する。内容は、統計の意味、確率、二項分布、正規分布、統計的仮説検定、推定の考え方などである。	知識学類編入生及び再履修者に限る。 GE10921と同一。 2012年度開講せず。	
P214001	基礎数学入門	2.0	1	1学期	水1,2	7A205	鎮目浩輔	ベクトルと行列、集合と論理を講義する。内容は、ベクトルと行列の和差積、単位行列、逆行列、集合と写像、真理値、命題論理、述語論理、論理演算、ブール代数などである。	GE10801と同一。	24
P214101	知識発見基礎論	2.0	2	1学期	月5,6	7A205	中山伸一	ヒューリスティックスを利用して知識や問題を発見する技法である創造性開発技法を実践的に学ぶ。	GE20901と同一。	25
P214202	西洋図書館史概論	2.0	2	2・3学期	金4	7A207	原淳之	テキストの解釈を通じて、言語および意味の視点から、メディアの読解に関する基礎的なトレーニングを行う。	GE21842と同一。	26
P214302	記録資料入門	2.0	2	2・3学期	金3	7A206	白井哲哉	テキストの解釈を通じて、言語および意味の視点から、メディアの読解に関する基礎的なトレーニングを行う。	GE21812と同一。	27
P219908	卒業研究	8.0	4	通年	集中		未定			

(2) 専門科目

図書館情報管理

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P410201	コレクション形成論	2.0	2	3学期	月1,2	7A205	吉田右子	図書館におけるコレクション形成の意義と方法について、図書館資料全般の特質、出版と流通、選書と廃棄、選書ツール、保存管理などの面から学ぶ。	GE80901と同一。	28

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P410301	レファレンスサービス論(情報サービス論1)	2.0	2	1学期	火1,2	7A104	大庭一郎	広義のレファレンスサービスを対象として、その目的、構成、方法、多様なメディアに対する知識情報探索のツール(レファレンスツール)とその整備、知識情報の探索方法と探索支援体制等について学ぶ。	GE80801と同一。	29
P410501	学術情報流通論	2.0	2	1学期	木1,2	7A205	松林麻実子	学術コミュニティを対象として、情報の生産・流通・利用に関する学術情報流通モデル、学術情報メディア等を総合的に学ぶ。	GE60801と同一。	30
P410612	情報組織化演習(目録情報システム論演習)-1	2.0	2	1学期	火1,2	7C102	呑海 沙織 阪口哲男	メタデータ(図書館目録、ダブリンコアなど)の作成と検索システムの構築に関する演習を行う。	知識1,2クラス対象。履修希望者が75名を超える場合は初回に受講調整GE11012と同一。	31
P410622	情報組織化演習(目録情報システム論演習)-2	2.0	2	1学期	水1,2	7C102	呑海 沙織 鈴木伸崇	メタデータ(図書館目録、ダブリンコアなど)の作成と検索システムの構築に関する演習を行う。	知識3,4クラス対象。履修希望者が75名を超える場合は初回に受講調整GE11022と同一。	31
P410801	知識論	2.0	2	1学期	水1,2	7A104	横山幹子	知識の哲学の観点から、「知識」についての問題を取り扱う。知識の哲学における「知識」のとなえ方の歴史を踏まえた上で、「知識」についての現代の多様な考え方の一部を紹介する。	GE60501と同一。	32
P410901	情報行動論	2.0	2	3学期	金1,2	7A205	松林麻実子	情報の獲得と発信に関連する認知的、行動的、社会的諸要素の理解と、情報獲得のための行動様式等について学ぶ。	GE20801と同一。	33
P411001	情報評価	2.0	3	3学期	月3,4	7A106	芳鐘冬樹	情報の生産、流通、蓄積、提供、利用の諸側面における情報評価の意義と方法論について、学術情報を中心としつつ広い視点から学ぶ。また、情報検索や図書館等における情報評価の実際の問題についても幅広く学ぶ。	GE61301と同一。	34
P411101	パブリックガバナンス論	2.0	2	3学期	木5,6	7A106	野本祐二	公共経営の在り方、特に近年における地方自治を取り巻く環境の変化を踏まえた、自治体経営の在り方を取り扱う。地方自治制度、地方税財政制度の基本的理解を踏まえた上で、地方分権、市町村合併、NPMの考え方や地方行革などを取り上げる。	GE80701と同一。	35
P411201	図書館情報法制度論	2.0	2	1学期	金3,4	7A207	市川恵理	公立図書館は教育機関の一つとして様々な法規と関わりをもって活動している。ここでは、公立図書館を中心に、社会教育・類縁機関や教育委員会制度等などの関係法規、審議会答申と施策、現状と課題などに触れるとともに、図書館と関わりの深い部分の情報法制度について事例も交えて講義していく。	GE81601と同一。	36
P411301	公共図書館特論	2.0	2	1学期	木1,2	7A104	葉袋秀樹	公共図書館を中心に、わが国の図書館の基本的な問題点や課題について概説する。重要なテーマについて、社会的な観点から、さまざまな考え方を示し、これまでの「通説」を批判的に検討する。	GE80201と同一。	37
P420101	アーカイブ論	2.0	3	3学期	月5,6	7A106	白井哲哉	日本アーカイブズ学の概説を論じる。記録資料(古文書・公文書・企業等の組織文書)の具体相、その保存利用施設(文書館・公文書館)の諸機能につき、情報とメディアの観点を踏まえ、それらの歴史及び現在を学ぶ。	平成23年度までの「古文書論」に相当GE82201と同一。	38
P420212	レファレンスサービス演習(情報サービス論1演習)-1	2.0	3	2学期	火1,2	7A102 7C102	原淳之 芳鐘冬樹	情報や文献の探索に関する実践的演習を行うとともに、パスファインダーやサブジェクトゲートウェイなどを作成して探索方法を人に伝える方法についても学ぶ。	知識1,2クラス対象。履修希望者が75名を超える場合は初回に受講調整GE11112と同一。	39
P420222	レファレンスサービス演習(情報サービス論1演習)-2	2.0	3	2学期	水1,2	7A102 7C102	原淳之 辻慶太	情報や文献の探索に関する実践的演習を行うとともに、パスファインダーやサブジェクトゲートウェイなどを作成して探索方法を人に伝える方法についても学ぶ。	知識3,4クラス対象。履修希望者が75名を超える場合は初回に受講調整GE11122と同一。	39
P420501	図書館建築論	2.0	3	1学期	月3,4	7A101	植松貞夫	図書館の構成要素をどのように捉え、組み立てていくかという図書館建築計画の実際を通じて、図書館建築が図書館のサービスや利用者の行動に与える影響とそれら行動を踏まえた計画論を学ぶ。	GE61101と同一。	40
P420601	コミュニティ情報論	2.0	3	3学期	木1,2	7A105	歳森敦	数量的なモデル・分析を通じて共同体における知識・情報の利用とそれにもとづく様々な活動について学ぶ。	GE61001と同一。	41
P420801	メディアリテラシー	2.0	3	1学期	金1,2	7A104	鈴木佳苗	メディア・リテラシーや情報モラルなどの育成に注目し、国内外のメディア教育の実践や教材、教育の効果や課題などについて概説する。(司書科目「児童サービス論」相当の履修希望者はGE4 0401を受講すること。)	GE81101と同一。 平成21年度までの「メディア教育と発達」に相当	42
P420901	大学図書館論	2.0	3	2学期	木1,2	7A104	逸村裕	大学における教育研究活動と学術情報流通のしくみを踏まえ、大学図書館の役割・機能、大学図書館の諸活動、ネットワーク、経営管理等について総合的に学ぶ。	GE80301と同一。	43
P421001	特許情報論	2.0	3	3学期	火3,4	7A102 7C103	岩澤まり子 阪上晃庸	知的財産権制度と特許制度、特許権の獲得と管理、特許情報の特性、研究と特許、特許情報の流通と探索、技術移転、組織経営における特許の意義、パテントマップ等について学ぶ。	西暦偶数年度開講。 GE60401と同一。	44
P421101	知識資源の記述(目録情報システム論)	2.0	3					知識資源の組織化を目的としたメタデータの構成と設計法、そして作成と提供のシステムや体制などについて学ぶ。図書館目録をはじめとする各領域の代表的なメタデータを取り上げる。	GE71301, P520101と同一。 2012年度開講せず。	

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P421201	知識資源の分析(分類論)	2.0	3	1学期	金3,4	7A102	緑川信之	知識資源の分類と索引に関し、主題分析法、分析ツール、分析結果の表現に関する理論と技術について学ぶ。	GE71201, P520201と同一。	45
P421301	用語管理論	2.0	3	3学期	金3,4	7A102	辻慶太	用語の統制方法、シソーラスの構成と利用、テキスト中の用語や索引語の重み付けとその利用等を具体例として、情報検索において用いられる用語の体系化と管理の考え方と手法について学ぶ。	GE71401, P520301と同一。	46
P421601	日本図書館学	2.0	3	3学期	月3,4	7A104	綿拔豊昭	我が国の古典籍の種類、形態、印刷・出版、蒐集、保存、和書の目録法などについて学ぶ。また、主要な古典籍所蔵館と古典資料の電子化の現状と課題、その意義についても学ぶ。	GE82101と同一。	47
P421702	古文文献講読	2.0	3	2・3学期	金4	7A206	綿拔豊昭	テキストの解釈を通じて、言語および意味の視点から、メディアの読解に関する基礎的なトレーニングを行う。	GE21832と同一。	48
P421801	中国図書館学	2.0	3	2学期	月3,4	7A104	松本浩一	漢籍の種類、形態、印刷・出版、蒐集、保存、漢籍の目録法などについて学ぶ。また、我が国の主要な漢籍所蔵館と漢籍の電子化の現状と課題、その意義についても学ぶ。	GE82001と同一。	49
P422002	漢文講読	2.0	3	2・3学期	金3	7A207	松本浩一	テキストの解釈を通じて、言語および意味の視点から、メディアの読解に関する基礎的なトレーニングを行う。	GE21822と同一。	50
P422101	メディア論	2.0	3	3学期	金3,4	7A205	後藤嘉宏	人間相互の結びつきを媒介するメディアが、その結びつきのあり方と、人間の知覚、認識、思考のあり方、さらには社会のあり方などにどのように関わり、メディアの展開が人間と社会のあり方にどのような変容をもたらすかについて学ぶ。	GE81701, P520501と同一。	51
P422401	図書館文化史(図書館文化史概論)	2.0	3	1学期	月3,4	7A104	呑海 沙織	図書等を含む情報メディアの歴史、図書館の歴史的発展、およびその文化的意義等について学ぶ。	GE81901, P520801と同一。	52
P422801	統計情報と研究	2.0	3	2学期	木5,6	7A106	田村肇	情報財の経済的特性と情報サービスに関する経済分析を扱う。	GE80601と同一。	53
P422901	教育文化政策	2.0	3	2学期	金1,2	7A101	溝上智恵子	教育政策・文化政策について日本のみならず国際比較の視点から総合的に学ぶ。	GE81001と同一。	54
P423201	ネットワーク情報法	2.0	3	1学期	木3,4	7A104	石井夏生利	ネットワーク社会において新たに発生するようになった法的諸問題に接しながら、法学の体系に関する主要な概念や法理に基づいて習得し、ネットワークにおいて現実に発生している諸問題の現状と法的対応について講義する。	GE81301と同一。	55
P423401	知識形成論	2.0	3	1学期	集中	7A104	武者小路澄子	「知識」とはどのように形成されていくのかについて、これをとらえる様々な立場や研究領域ごとの相違を整理しつつ、知識形成の過程やそこに関わる現代的な問題点を概説する。	7/10-7/13に開講。初日は8:40に春日エリアの情報メディアユニオン3F共同研究会議室Iに集合。GE60601と同一。	56
P423701	社会調査法	2.0	3	2学期	金1,2	7A205	歳森敦	質問紙調査の企画、標本抽出の方法、調査票の設計、調査の実施、作表とグラフ化、クロス集計と仮説検定など、質問紙調査と分析のための知識を講義する。	GE20401と同一。	57
P423801	質的調査法	2.0	3	2学期	木5,6	7A205	川澄厚志	人文学、社会科学における調査手法としての質的調査法の基本的考え方とフィールド研究の方法を学ぶ。具体的には、インタビュー調査、参与観察、エスノグラフィー等について学ぶ。	GE20701と同一。	58
P423901	計量情報学	2.0	3	2学期	火1,2	7A101 7C103	真栄城哲也	情報の発信と利用に関する諸現象を計量的に調査・分析するための手法、および分析結果の情報サービスへの応用などについて学ぶ。	GE61401と同一。	59
P424001	テクニカルコミュニケーション論	2.0	3	1学期	火3,4	7A102 7C102	三波千穂美 平湯あつし	専門情報を正確にわかりやすく伝えることを意図した、文書の企画・構造設計・表現設計等に必要とされる知識・技術・考え方を、マニュアル作成を題材に学ぶ。	履修希望者が36名を超える場合は初回に受講調整 GE60201と同一。 平成23年度までの「テクニカルコミュニケーション論」に相当	60
P424101	学校経営と学校図書館	2.0	3	3学期	金1,2	7A104	平久江祐司	教育・学習情報の生産、流通、利用と学校図書館の全般について解説し、学校教育における学校図書館活動の在り方を考える。学校図書館については、その現状と経営についての基本的事項を解説し、学校教育と学校図書館活動の有機的な連携の在り方を考える。	GE81201, P520901と同一。 受講者多数の場合、初回に受講調整	61
P424201	学習指導と学校図書館	2.0	3	2学期	火1,2	7A104	平久江祐司	学校図書館と学校図書館メディアを効果的に活用する学習指導計画の立案、指導、評価及び教師や児童・生徒に対する支援の在り方等の基本的事項について解説し、学校図書館における情報リテラシー育成のための学習指導の在り方について理解を図る。	履修希望者が90名を超える場合は初回に受講調整 GE40201, P521001と同一。	62
P424301	学校図書館メディアの構成	2.0	3	3学期	火1,2	7A205	三波千穂美	学校図書館が提供する情報メディアについて、発生・蓄積・提供・検索・分析及び活用法について学ぶ。	履修希望者が100名を超える場合は初回に受講調整 GE40301, P521101と同一。	63

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P424401	読書と豊かな人間性	2.0	3	2学期	月1,2	7A205	鈴木佳苗	児童・生徒の読書の現状や、認知・社会性などへの読書の影響について理解し、発達段階に即した読書教育の理念と方法について学ぶ。	履修希望者が100名を超える場合は初回に受講調整(初回に欠席する場合は、必ず事前に連絡してください。) GE40401, P521201と同一。	64
P424501	情報メディアの活用	2.0	3	1学期	木5,6	7A106 7C102	大澤文人	活字メディア、視聴覚メディア、教育用ソフトウェア、ネットワーク上の情報資源等多様な情報メディアの特性を踏まえて、それらを教育現場で活用していく方法について学ぶ。	GE40501, P521301と同一。 受講者多数の場合、初回に受講調整	65
P424622	専門外国語III-2A	2.0	3	1・2学期	金4	7A103	芳鐘冬樹 上保秀夫	専門科目や卒業研究に必要な英語読解力を専門書の講読等を通じて習得する。	P525722と同一、GE50112, GE50212と一部共通。	66
P424642	専門外国語III-2B	2.0	3	1・2学期	月4	7A103	若林啓	図書館情報学に必要な語学力を専門書の講読等を通じて修得する。英語について展開する。	P525742と同一、GE50122, GE50222と一部共通。	67
P424652	専門外国語III-2C	2.0	3	1・2学期	火4	7A103	松縄正登 村井麻衣子	専門科目や卒業研究に必要な英語読解力を専門書の講読等を通じて習得する。	P525752と同一、GE50132, GE50232と一部共通。	68
P425001	医療情報論	2.0	3	2学期	火3,4	7A105 7C103	岩澤まり子	専門家、市民など多様な立場から、医療情報の発生・蓄積・流通、医療情報の特徴、医療情報の探索と利用、医療情報に関連する倫理等を学ぶ。	GE60301と同一。	69
P425501	メタデータ	2.0	3	1学期	火3,4	7C103	鈴木伸崇	XMLなどの文書データの表現と処理について概説する。具体的にはXMLデータとそのスキーマ言語、メタデータの基礎とRDFの記述方法などのデータ表現、XPathやXQueryによるXMLデータの検索・加工、Web Servicesによるデータ交換などの処理方法を説明する。	GE70801, P522601と同一。	70
P425601	コンテンツ表現と形成の技術	2.0	3	1学期	火3,4	7A106	西岡貞一	本講義ではメディアとしてのコンピュータが取り扱うコンテンツ(情報の中身)を産業的な視点から議論する。映画、放送や展覧会の事例を基にコンテンツの企画や制作について概説する。ゲーム、ケータイに続くデジタルコンテンツを創造するための技術として、バーチャルリアリティ、ユビキタス・コンピューティング等を取り上げる。	GC14201, GC24401, P522701と同一。 平成23年度以降の入学者対象。	71
P425701	経営情報システム	2.0	3	2学期	集中	7A208	岩丸良明	企業や組織を効率的に運営するための情報システムと電子政府のための情報システムについて学ぶ。	9/1, 8, 15, 29に開講。 GE72101, GE80401, P522801と同一。 図情生はP425701またはP522801, 知識情報システム専攻生はGE72101, それ以外の学生はGE80401を履修すること	72
P425801	情報サービスシステム	2.0	3	1学期	木3,4	7C102 7B206	松村敦	高度情報化社会の情報提供サービスの将来像に関して、求められる情報サービスと技術を、オリジナル情報提供者、キャリア、利用者など各々の立場から学ぶ。	GE70201, P522901と同一。	73
P426101	学術情報システム	2.0	3	3学期	木3,4	7A105	宇陀則彦	文献の電子化の歴史的発展と技術的展開、今日の電子媒体による多様な情報メディアとそのネットワークによる流通の全体像及び諸活動の情報流通のあり方に対するそれらの影響等について学ぶ。	GE70401, P523201と同一。	74
P426201	テキスト処理	2.0	3	1学期	水1,2	7A101 7C103	佐藤哲司	テキスト、すなわち、文章を計算機で処理する様々な例に基づき、その有用性、処理アルゴリズムなどを学ぶ。	GE71701, P523301と同一。	75
P426401	情報デザイン	2.0	3	3学期	火3,4	7A101 7C102	時井真紀	実験結果はグラフや画像で可視化すると、データに潜む情報が直感的に読み取れる。機器の操作にはアイコンやメニューによるGUIがわかりやすい。人とマシン間の情報の取得と提供をスムーズに行うための、データ可視化技術や直感的なGUI作成法について、講義と実習を通じて学ぶ。	GE71001, P524201と同一。	76
P426501	デジタルドキュメント	2.0	3	2学期	木3,4	7A106	松村敦 宇陀則彦	デジタルドキュメントは図形・画像処理、マルチメディア表現、インターネットを介した配布等、従来に無い機能を持つ情報メディアである。本講義ではその構成と機能を説明し、これらの機能がどのように実現されるかを、HTML, XML, PostScript, PDF, SVG, Flash等を例に講義と実習を行う。	GC53401, GE70301, P524301と同一。 創成学類生はGC53401を、図情生はP426501またはP524301を、それ以外の学生はGE70301を履修すること	77
P426701	多変量解析	2.0	3	3学期	月3,4	7A103	田村肇	データ解析の基礎として、重回帰分析や主成分分析、因子分析など基礎的な多変量解析手法を演習付きで講義する。	GE20501, P524801と同一。	78
P426801	クラスタリング	2.0	3	2学期	水1,2	7A106	中山伸一	知識を発見したり抽出したりするための方法として、図表表示法や探索的データ解析、クラスタリングなどについて学ぶ。	GE61201, P524901と同一。	79
P426901	データマイニング	2.0	3	3学期	火1,2	7A101 7C103	長谷川秀彦	大量のデータから未知の規則性を探し出すための手法として、相関ルール抽出、帰納学習などのデータマイニングの典型的な考え方と方法について学ぶ。	GE61501, P525001と同一。	80

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P427001	コンテンツプロデュース論	1.0	3	1学期	金3	春日講堂	鈴木誠一郎	映画、放送、アニメーション、写真など様々なメディア、表現手段におけるコンテンツの変遷からコンテンツのプロデュースに関する基礎を学びます。又、様々なコンテンツの原点をもうべき芸術領域(絵画・音楽・パフォーミングアートなど)についても考察し、コンテンツへの理解を深めます。	GC52401, P526001と同一。	81
P427101	グラフィックデザインI	2.0	3	3学期	火1, 2	7A106 クリラボ	金尚泰	グラフィックデザインの観点から情報デザインを捉え、コンテンツとオーディエンスの間にどのようなやり取りが行われるかを考察しグラフィックデザイン手法に基づいた制作プロセスを学習する。	GC24101, P526101と同一。 受講人数は20人を上限とする	82
P427201	情報サービス経営論	2.0	3	1学期	月1, 2	7A205	池内淳	情報サービス組織における経営計画、組織管理、サービス評価やマーケティングについて学ぶ。	GE80501と同一。	83
P427301	レファレンスサイエンス	2.0	3	3学期	水1, 2	7A204	上保秀夫	This course is concerned with the phenomenon of guiding. Guiding is a common form of knowledge sharing that can be found in our every-day life. This course introduces Reference Science and studies the theories and applications relevant to effective guiding.	GE60701, P526201と同一。 英語で授業。	84
P427401	知的財産権論A	2.0	3	2学期	木3, 4	7C102	村井麻衣子	ネットワーク社会における著作権を中心に、特許等の知的財産権全般について学ぶとともに、図書館活動や各種の情報活動の観点から、知的財産権が持つ意義について学ぶ。	GE81401と同一。	85
P427501	知的財産権論B	2.0	3	3学期	木3, 4	7A206 7C103	松縄正登	知的財産権の中でも特許法を中心に、国内外や周辺の法制度を概観するとともに、特許権を中心とする知的財産権の管理、利用と法制度の関係について学ぶ。	GE81501と同一。	86

図書館情報処理

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P510201	ネットワークコミュニケーション	2.0	2	2学期	月3, 4	7A205	阪口哲男	コンピュータシステムとネットワークについての基本構成と動作原理を学ぶ。ハードウェア、ソフトウェアの各構成要素、システム間のデータ送受の基本的な手順と通信規約の役割を概説し、最後にコンピュータシステムとネットワークの組み合わせ事例を示す。	GE21201と同一。	87
P510301	データ構造とアルゴリズム	2.0	2	2学期	水1, 2	7A204	森継修一	高速な検索の基礎となるファイル構造と探索アルゴリズムについて講義する。	GE71801と同一。	88
P510401	プログラミング法	2.0	2	3学期	水1, 2	7A201 7C103	手塚太郎	規模の大きいソフトウェアを設計・構築するためのソフトウェア開発方法論とその基礎となるオブジェクト指向について講義する。	GE72001と同一。	89
P510601	マークアップ言語	2.0	2	2学期	月1, 2	7A106 7C202	永森光晴 杉本重雄	データ交換のための表現形式として様々な分野で活用されているXML (Extensible Markup Language) の基礎とXSLT (XML Stylesheet Language Transformations) 等の操作言語について取り上げる。また、理解を深めるために受講者が自ら実験できるようなプログラム例やアプリケーションソフトウェアの利用例も必要に応じて紹介する。	GC51901, GE71901と同一。 受講人数は70人程度を上限とする	90
P510701	情報検索システム	2.0	2	2学期	金1, 2	7A104	関洋平	本講義では、文書データベースを対象にした情報検索システムについて講義する。具体的には、情報検索の基本原理、システムの実装方法、評価方法、設計と管理、応用事例についての講義と実習を行う。	GE70501と同一。	91
P510801	マルチメディアシステム	2.0	2	3学期	金1, 2	7A101	松本紳	マルチメディア工学の基礎、デジタル情報の編集加工、マルチメディア表現などを講義と実習を通じて学ぶ。また、技術面だけでなくマルチメディアサービスと社会の関連についても学ぶ。	GE70701と同一。	92
P520101	知識資源の記述(目録情報システム論)	2.0	3					知識資源の組織化を目的としたメタデータの構成と設計法、そして作成と提供のシステムや体制などについて学ぶ。図書館目録をはじめとする各領域の代表的なメタデータを取り上げる。	GE71301, P421101と同一。 2012年度開講せず。	
P520201	知識資源の分析(分類論)	2.0	3	1学期	金3, 4	7A102	緑川信之	知識資源の分類と索引に関し、主題分析法、分析ツール、分析結果の表現に関する理論と技術について学ぶ。	GE71201, P421201と同一。	45
P520301	用語管理論	2.0	3	3学期	金3, 4	7A102	辻慶太	用語の統制方法、シソーラスの構成と利用、テキスト中の用語や索引語の重み付けとその利用等を具体例として、情報検索において用いられる用語の体系化と管理の考え方と手法について学ぶ。	GE71401, P421301と同一。	46
P520501	メディア論	2.0	3	3学期	金3, 4	7A205	後藤嘉宏	人間相互の結びつきを媒介するメディアが、その結びつきのあり方と、人間の知覚、認識、思考のあり方、さらには社会のあり方にどのように関わり、メディアの展開が人間と社会のあり方にどのような変容をもたらすかについて学ぶ。	GE81701, P422101と同一。	51
P520801	図書館文化史(図書館文化史概論)	2.0	3	1学期	月3, 4	7A104	呑海 沙織	図書等を含む情報メディアの歴史、図書館の歴史的発展、およびその文化的意義等について学ぶ。	GE81901, P422401と同一。	52
P520901	学校経営と学校図書館	2.0	3	3学期	金1, 2	7A104	平久江祐司	教育・学習情報の生産、流通、利用と学校図書館の全般について解説し、学校教育における学校図書館活動の在り方を考える。学校図書館については、その現状と経営についての基本的事項を解説し、学校教育と学校図書館活動の有機的な連携の在り方を考える。	GE81201, P424101と同一。 受講者多数の場合、初回に受講調整	61

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P521001	学習指導と学校図書館	2.0	3	2学期	火1,2	7A104	平久江祐司	学校図書館と学校図書館メディアを効果的に活用する学習指導計画の立案、指導、評価及び教師や児童・生徒に対する支援の在り方等の基本的事項について解説し、学校図書館における情報リテラシー育成のための学習指導の在り方について理解を図る。	履修希望者が90名を超える場合は初回に受講調整 GE40201, P424201と同一。	62
P521101	学校図書館メディアの構成	2.0	3	3学期	火1,2	7A205	三波千穂美	学校図書館が提供する情報メディアについて、発生・蓄積・提供・検索・分析及び活用法について学ぶ。	履修希望者が100名を超える場合は初回に受講調整 GE40301, P424301と同一。	63
P521201	読書と豊かな人間性	2.0	3	2学期	月1,2	7A205	鈴木佳苗	児童・生徒の読書の現状や、認知・社会性などへの読書の影響について理解し、発達段階に即した読書教育の理念と方法について学ぶ。	履修希望者が100名を超える場合は初回に受講調整 (初回に欠席する場合は、必ず事前に連絡してください。) GE40401, P424401と同一。	64
P521301	情報メディアの活用	2.0	3	1学期	木5,6	7A106 7C102	大澤文人	活字メディア、視聴覚メディア、教育用ソフトウェア、ネットワーク上の情報資源等多様な情報メディアの特性を踏まえて、それらを教育現場で活用していく方法について学ぶ。	GE40501, P424501と同一。 受講者多数の場合、初回に受講調整	65
P521701	プログラミング言語処理系	2.0	3	2学期	木5,6	7C102	中井央	コンパイラの構成の仕方を通し、ソフトウェアの構成方法について講義を行う。 また、実習室において実際にコンピュータを使用してソフトウェアの構成についての実習も行う。	GC52701, GE71601と同一。	93
P521901	ネットワークメディアシステム	2.0	3	1学期	金1,2	7A101 7C103	阪口哲男	インターネットでは、Webの機構を用いて様々な情報提供や取引、人や組織間のコミュニケーションが行われている。Web上で情報提供やコミュニケーションの機能を実現するための、サーバー側プログラミングの基本原理と実際、セキュリティ問題などを解説し、事例を紹介する。実習を含む。	GE70601と同一。	94
P522201	量子情報処理	2.0	3	2学期	月3,4	7A207 7C103	鎮目浩輔	遺伝的アルゴリズム、量子計算、ニューラルネット等の新しい計算パラダイムの概観及び技術的基礎を学ぶ。	GE61601と同一。	95
P522601	メタデータ	2.0	3	1学期	火3,4	7C103	鈴木伸崇	XMLなどの文書データの表現と処理について概説する。具体的にはXMLデータとそのスキーマ言語、メタデータの基礎とRDFの記述方法などのデータ表現、XPathやXQueryによるXMLデータの検索・加工、Web Servicesによるデータ交換などの処理方法を説明する。	GE70801, P425501と同一。	70
P522701	コンテンツ表現と形成の技術	2.0	3	1学期	火3,4	7A106	西岡貞一	本講義ではメディアとしてのコンピュータが取り扱うコンテンツ(情報の中身)を産業的な視点から議論する。映画、放送や展覧会の事例を基にコンテンツの企画や制作について概説する。ゲーム、ケータイに続くデジタルコンテンツを創造するための技術として、バーチャリアリティ、ユビキタス・コンピューティング等を取り上げる。	GC14201, GC24401, P425601と同一。 平成23年度以降の入学対象。	71
P522801	経営情報システム	2.0	3	2学期	集中	7A208	岩丸良明	企業や組織を効率的に運営するための情報システムと電子政府のための情報システムについて学ぶ。	9/1, 8, 15, 29に開講。 GE72101, GE80401, P425701と同一。 図情生はP425701またはP522801, 知識情報システム専攻生はGE72101, それ以外の学生はGE80401を履修すること	72
P522901	情報サービスシステム	2.0	3	1学期	木3,4	7C102 7B206	松村敦	高度情報化社会の情報提供サービスの将来像に関して、求められる情報サービスと技術と、オリジナル情報提供者、キャリア、利用者など夫々の立場から学ぶ。	GE70201, P425801と同一。	73
P523201	学術情報システム	2.0	3	3学期	木3,4	7A105	宇陀則彦	文献の電子化の歴史的発展と技術的展開、今日の電子媒体による多様な情報メディアとそのネットワークによる流通の全体像及び諸活動の情報流通のあり方に対するそれらの影響等について学ぶ。	GE70401, P426101と同一。	74
P523301	テキスト処理	2.0	3	1学期	水1,2	7A101 7C103	佐藤哲司	テキスト、すなわち、文章を計算機で処理する様々な例に基づき、その有用性、処理アルゴリズムなどを学ぶ。	GE71701, P426201と同一。	75
P523601	マンマシンインタラクション	2.0	3	1学期	木3,4	7A106	井上智雄	人間とコンピュータとの相互作用、およびコンピュータを媒介とした人間同士の相互作用について学ぶ。情報の取得・提示手法などの基礎、インタラクション設計の原理や指針、インタラクションの分析や評価手法について、具体的事例を交えて議論する。	GC52901と同一。	96
P523701	音声メディア処理	2.0	3	1学期	月5,6	7A106 7C202	田中和世	情報伝達メディアとしての音声の性質を明らかにし、音声生成過程の仕組みと知覚特性を解説する。また、音声のデジタル信号処理(音響特徴分析、符号化技術)、音声合成、音声認識の基礎について講義する。	GC50901と同一。	97

科目番号	科目名	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考	頁
P523801	画像メディア処理	2.0	3	3学期	月3,4	7A105	小高和己	工学的なパターン認識について講義する。パターンとは何か、カテゴリとは何かから起こし、各種認識理論、認識システムの構成法、各種応用まで全般にわたって講義する。机上演習およびデモンストレーションを豊富に取り入れ具体的に説明する。	GC50801と同一。	98
P524001	知覚情報処理	2.0	3	2学期	火5,6	7A104	森田ひろみ	「環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげる」という一連の流れに関連する認知過程について、心理学的現象に基づき解説するとともに、脳の情報処理特性についても考察する。	GC53101と同一。	99
P524201	情報デザイン	2.0	3	3学期	火3,4	7A101 7C102	時井真紀	実験結果はグラフや画像で可視化すると、データに潜む情報が直感的に読み取れる。機器の操作にはアイコンやメニューによるGUIがわかりやすい。人とマシン間の情報の取得と提供をスムーズに行うための、データ可視化技術や直感的なGUI作成法について、講義と実習を通じて学ぶ。	GE71001, P426401と同一。	76
P524301	デジタルドキュメント	2.0	3	2学期	木3,4	7A106	松村敦 宇陀則彦	デジタルドキュメントは図形・画像処理、マルチメディア表現、インターネットを介した配布等、従来に無い機能を持つ情報メディアである。本講義ではその構成と機能を説明し、これらの機能がどのように実現されるかを、HTML、XML、PostScript、PDF、SVG、Flash等を例に講義と実習を行う。	GC53401, GE70301, P426501と同一。 創成学類生はGC53401を、 国情生はP426501または P524301を、それ以外の学生はGE70301を履修すること	77
P524601	知能ロボット	2.0	3	2学期	火1,2	7A106	三河正彦	現在のコンピュータはグラフィカルユーザインタフェース(GUI)が主流で、ユーザはディスプレイに向かって計算機やシステムの操作を行う。一方、計算機もしくは知的システムを現実世界に溶け込ませ、現実世界に対して何らかの作業をさせようとするのが、実世界指向システムである。本授業では、様々な実世界指向システムを紹介するとともに、実世界指向システムを構築するために必要な知識の習得を目指す。現実世界を数学的に表現するための幾何学、現実世界に対して働きかけるデバイスであるロボットを制御するために必要なロボティクス(ロボット工学)、画像や音等の情報から現実世界を知るためのセンシング技術について講義する。	GC51701と同一。	100
P524801	多変量解析	2.0	3	3学期	月3,4	7A103	田村肇	データ解析の基礎として、重回帰分析や主成分分析、因子分析など基礎的な多変量解析手法を演習付きで講義する。	GE20501, P426701と同一。	78
P524901	クラスタリング	2.0	3	2学期	水1,2	7A106	中山伸一	知識を発見したり抽出したりするための方法として、図表表示法や探索的データ解析、クラスタリングなどについて学ぶ。	GE61201, P426801と同一。	79
P525001	データマイニング	2.0	3	3学期	火1,2	7A101 7C103	長谷川秀彦	大量のデータから未知の規則性を探し出すための手法として、相関ルール抽出、帰納学習などのデータマイニングの典型的な考え方や方法について学ぶ。	GE61501, P426901と同一。	80
P525722	専門外国語111-2A	2.0	3	1・2学期	金4	7A103	芳鐘冬樹 上保秀夫	図書館情報学に必要な語学力を専門書の講読等を通じて修得する。英語について展開する。	P424622と同一、 GE50112, GE50212と一部共通。	66
P525742	専門外国語111-2B	2.0	3	1・2学期	月4	7A103	若林啓	図書館情報学に必要な語学力を専門書の講読等を通じて修得する。英語について展開する。	P424642と同一、 GE50122, GE50222と一部共通。	67
P525752	専門外国語111-2C	2.0	3	1・2学期	火4	7A103	松縄正登 村井麻衣子	図書館情報学に必要な語学力を専門書の講読等を通じて修得する。英語について展開する。	P424652と同一、 GE50132, GE50232と一部共通。	68
P525801	先端データベース技術論	2.0	3	2学期	火3,4	7C102	森嶋厚行	データベースシステムを実際に構築する際の諸技術と必要知識について、リレーショナルデータベースを主な対象にして、APIをととしたアプリケーションとの連携、スキーマ定義、インデックスの利用と効果などを、演習を交えながら学ぶ。	GE70901と同一。	101
P526001	コンテンツプロデュース論	1.0	3	1学期	金3	春日講堂	鈴木誠一郎	映画、放送、アニメーション、写真など様々なメディア、表現手段におけるコンテンツの変遷からコンテンツのプロデュースに関する基礎を学びます。又、様々なコンテンツの原点をもいふべき芸術領域(絵画・音楽・パフォーマンスアートなど)についても考察し、コンテンツへの理解を深めます。	GC52401, P427001と同一。	81
P526101	グラフィックデザインI	2.0	3	3学期	火1,2	7A106 クリラボ	金尚泰	グラフィックデザインの観点から情報デザインを捉え、コンテンツとオーディエンスの間にどのようなやり取りが行われるかを考察しグラフィックデザイン手法に基づいた制作プロセスを学習する。	GC24101, P427101と同一。 受講人数は20人を上限とする	82
P526201	レファレンスサイエンス	2.0	3	3学期	水1,2	7A204	上保秀夫	This course is concerned with the phenomenon of guiding. Guiding is a common form of knowledge sharing that can be found in our every-day life. This course introduces Reference Science and studies the theories and applications relevant to effective guiding.	GE60701, P427301と同一。 英語で授業。	84

科目シラバス

P11 0301

哲学概論

Survey of Philosophy

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	横山 幹子	オフィスアワー と研究室	火 5 限 7D405		
授業概要	古代ギリシアに源を発する西洋哲学の歴史を、古代の哲学から現代の哲学まで概観する。また、哲学史を概観するなかで、随時、演繹や帰納、帰謬法などの、論理学の基本的な概念の説明も行う。そして、特に、現代の哲学との関わりにおいて、記号論理（命題論理と第一階の述語論理）の基本的な考え方や表記の方法についても触れる。				
学習・教育目標	- 西洋哲学史に関する基礎的な知識を習得する。 - 論理学の基本的な考えを理解する。 「考えること」の意味と重要性について考える契機を得る。				
授業計画	1) ソクラテス以前の哲学 2) アテナイ期およびヘレニズム期の哲学 3) 中世の哲学とルネサンス 4) 経験論と合理論（および演繹と帰納） 5) カントと啓蒙思想 6) ドイツ観念論・社会主義・実証主義 7) 功利主義・進化論・新カント派 8) 生の哲学・実存主義 9) プラグマティズム・現象学 10) 記号論理の基本的な考えと哲学				
成績評価の方法	出席と学期末の筆記試験による。授業の2／3以上は出席することを前提とする。				
教材・教科書・参考書等	教科書は特に指定せず、資料を配付する。 参考書は授業において、指示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	配布資料の見直しと指示された参考書のうち、興味を引かれたものを読むこと。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限	教室	春日講堂	1 年	2 単位
担当教員	石井 夏生利	オフィスアワー と研究室	火 5 限 7D509		
授業概要	ネットワーク社会における法制度を総合的に学ぶ上で必要な基礎知識を習得することを目指します。ネットワーク社会では、多くの人が利用している情報発信活動や電子商取引などにおいて、著作権侵害コンテンツの流通や個人情報の漏えい、サイバー犯罪をはじめとする新たな犯罪の出現などとの関係において、日々新たな法律問題が発生しています。それに伴い、これらの諸問題に対応すべく新たな法律が制定され、従来の法律も改正されていますが、それらの問題解決に必要な法的枠組みの基本は従来から変わらないものです。そこで、本講義では、法学の世界、憲法、民事法、刑事法、行政法、会社を取りまく法律問題を講義し、現行の我が国の法制度の基礎を学んだ上で、図書館と情報にかかわる問題も可能な限り取り上げます。また、ネットワーク社会における最近の議論を取り上げ、具体的な法的問題をとともに考えていきます。				
学習・教育目標	情報化社会における身近で具体的な法律問題に即しながら、法学の基礎知識と主要な概念や法理を習得することにより、情報化社会において最低限必要な法的知識を身につけます。				
授業計画	1 法学の世界 2 憲法 3 民事法 (1) 4 民事法 (2) 5 刑事法 6 行政法 7 会社を取りまく法律問題 8 ネットワーク社会における最近の法律問題 (1) 9 ネットワーク社会における最近の法的問題 (2) 10 まとめ				
成績評価の方法	定期試験、授業の最後に行う質問用紙への記載により評価する。				
教材・教科書・参考書等	毎回必ず六法を持参することが望ましい。デイリー六法(三省堂)、ポケット六法(有斐閣)等のハンディなタイプで構わない。講義資料は配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	講義資料に記載されている法令の条文について、電子政府の総合窓口 < http://www.e-gov.go.jp/ >の「法令検索」を活用し該当条文の内容を確認しておくこと。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	池内 淳	オフィスアワー と研究室	火 3・4 限 7D413		
授業概要	本講義は、(I) 経済学の概要（第 1 回～第 3 回）、(II) ミクロ経済学（第四回～第七回）、(III) 公共経済学（第八回～第十回）の III 部構成です。(I) では、経済学の学説史的系譜を学習し、経済学の現在的意義を理解します。(II) では、消費者の理論・生産者の理論・市場均衡・余剰分析といったミクロ経済学の基礎的概念について講義と演習を行います。それを踏まえて、(III) では、市場が失敗する諸条件と、その対処法について解説します。				
学習・教育目標	本講義の学習・教育目標は、経済学の基礎から始めて、ミクロ経済学と公共経済学の基本的な概念と方法について学習することです。 これによって、知識や情報を共有するための社会的システム（インターネット、図書館、著作権など）に関わる現代的諸問題にアプローチするための基盤となる知識の習得を目指します。				
授業計画	(1) ガイダンス (2) 経済学の概要とその系譜 (3) 厚生経済学の基礎概念 (4) 消費者の理論と効用最大化行動 (5) 生産者の理論と利潤最大化行動 (6) 需要の弾力性と財の分類 (7) 政策効果と余剰分析 (8) 市場の失敗と政府の機能 (9) 公共財の性質とその最適供給 (10) 外部性とその内部化方策				
成績評価の方法	出席・平常点と学期末試験によって総合的に評価します。				
教材・教科書・参考書等	教科書：なし 参考書：J.E.スティグリッツ『公共経済学 第二版 上・下』藪下史郎訳．東京，東洋経済新報社，2003.				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業は講義中心ですので、授業外では、講義内容をきちんと復習してください。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	春日講堂	2 年	2 単位
担当教員	後藤 嘉宏	オフィスアワー と研究室	木 2 限 7D513		
授業概要	社会学の基礎を学び、それにあわせて情報メディアの比重が大きくなった現代社会を見る目を養おうとする授業科目である。 この授業では、社会現象を捉える際の、社会学的な物の見方（方法論・捉え方）を学ぶ。特に図書館やマスメディア、インターネットを文科系的に研究する際、アンケート調査やインタビュー調査等を行うことが多いと思われる。そういった調査を行う場合の基本的な考え方、背景にあるものの捉え方を学ぶ授業である。 それら社会学的な物の見方の修得を経て、メディア社会といわれる現代社会の根本的な流れを受講生各自が自分なりに捉えることを目指す。				
学習・教育目標	社会学的なものの見方を学ぶことによって、論理的かつ柔軟に社会を見る眼を養おうとするものである。また世の中の動きを斜に構えた視線から眺め、なにものにも騙されない批判精神が身につく。				
授業計画	第1週 1. 社会学とは？－その学際性と固有性（1） 第2週 1. 社会学とは？（2） 第3週 1. 社会学とは？（3） 第4週 2. 行為の意味理解について 第5週 3. 属性的な理解 第6週 4. 性別 第7週 5. 年齢 第8週 6. 学歴 第9週 7. 職業と地位、収入 第10週 8. メディアと現代社会（詳細は情報メディア創成学類の本科目のシラバス参照）				
成績評価の方法	平常点（出席点・質問頻度）と最終試験結果を加味する。最終試験の評価の観点は、授業内容の適切な要約がなされているか否かと、授業内容への批判の鋭さや適切性、あるいはそれらを補足し発展させる際の説明の独自性等である。これらをあわせて評価する。				
教材・教科書・参考書等	教科書は使わない。授業直前に配付資料を http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ にアップするが、あくまでも参考で、基本は板書。後藤は板書魔だ。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特に本科目を受講するに際して、予備知識はいらない。 ただし図書館情報専門学群の「社会調査法」「質的調査法」「メディア論」を履修する人にとって、それらの前提となる（あるいは相互に関連する）科目といえる。 また本科目の前提知識ではないが、「社会学」を将来きちんと学ぶためには、「統計」「多変量解析」あるいは上記「社会調査法」などを履修して、統計的手法に精通するか、「質的調査法」を履修して、質的調査を熟知しておくことが望まれる。				
授業外の学習内容・方法	単位の実質化に向けて次のようなことを想定している。1. 授業で説明した専門用語の簡単な説明のための小テスト。これは必ずしもペーパーテストの形式に限らず、出欠表で任意に当てた受講生に、答えさせる方式も想定できる。2. 授業の進捗状況によっては、配付資料の一定部分を事前に受講生に読んでおいてもらい、受講生数名ずつグループを組んで貰って、配付資料の知識を前提にした新たなテーマについて討論させ、その結果を授業時間内に発表させる時間を用意する。最低限、配付資料等の予習・復習をきちんと行うことで、上記1，2には対応できる。				
備考 講義のホームページ等	「教材・教科書・参考書等」の項にも記したが、本授業科目の配付資料等を http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ （学内のみ）にアップの予定。				

学期曜時限	1 学期 火曜日 5・6 時限	教室	7A104	2 年	2 単位
担当教員	平賀 譲 森田 ひろみ	オフィスアワー と研究室	水 10:00～12:30 7D209 随時 7D402		
授業概要	人間の認知過程を探究する学際的領域としての認知科学を概観し、様々なアプローチからの研究を通じて人間の認知の様々な側面を探る。授業は講義形式を中心に言い、トピックに応じて平賀・森田が分担して講義する。				
学習・教育目標	1. 「人間」という研究対象に対し、様々な側面や観点からの探究のアプローチの概要と、それぞれの特色・相違を理解する。 2. それらのアプローチを融合する学際的研究分野としての「認知科学」の現状を把握し、その進むべき方向について考える。 3. 本科目は概論科目であり、紹介する概要をベースに、専門科目等において、より発展した内容を学んだり、実地に応用したりするための基礎を築く。				
授業計画	1. 認知科学とは 2. 哲学： 人間の認知に対する考え方、研究の方法論（全体論・還元論、機能主義、…） 3. 言語学： チョムスキーと生成文法理論、構文論・意味論・語用論の区分等 4. 人工知能と認知の計算論的モデル（自然言語理解、画像・音声／音響認識、思考や記憶のモデル等） 5. ニューラルネット、脳科学 6. 認知工学： 応用認知科学 7. 知覚の認知心理学 8. 記憶の認知心理学 9. 思考の認知心理学 10. まとめ				
成績評価の方法	レポート及び期末試験により評価する。レポートの評価は、内容の独自性と論理性を重視する。レポートの配点は 50 点未満とする。				
教材・教科書・参考書等	教科書は特に指定しない。授業資料は随時配布する。 参考書等は授業時に案内する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	レポートは、講義時間内に 10 分ほどで作成してもらう場合と、期限までに作成・提出してもらう場合とがある。予習が必要な場合は授業でプリント等を配布し指示する。復習は各自ノートを見て重要事項について文章にまとめ直すなど。				
備考 講義のホームページ等	情報メディア創成学類「G C1 6101 認知科学」と共通。				

P13 0601

幾何学

Geometry

学期曜時限	3 学期 水曜 1・2 時限	教室	7A105 7C202	2 年	2 単位
担当教員	鎮目 浩輔	オフィスアワー と研究室	金 3 限 7D314		
授業概要	幾何学の入門的な講義を，特にコンピュータグラフィックスの基礎となる部分に重点を置いて行う。曲線や曲面という滑らかに曲がった図形を数学的に表現し，回転や拡大縮小などの変換を施す方法が中心となる。ベクトルや行列の掛け算，および曲線座標系などを便利な数学的道具として使用する。また，微分や積分を用いて図形の性質（曲がり方の定量的表現，面積，体積など）を調べる微分幾何学の話題にも触れる。				
学習・教育目標	コンピュータグラフィックスの基礎としては，曲線や曲面の数学的な表現法や変換式というテクニックを身につけること。 幾何学としては，これらのテクニックの導出を通じて，集合，ベクトル，行列（線形変換）の考え方を実践的に身につけること。				
授業計画	第 1 週 曲線や曲面の，点の集合としての表現 第 2 週 基本的な曲線と曲面およびその描画法 第 3 週 曲線座標 第 4 週 ベクトルとその演算（復習と補足） 第 5 週 曲線と曲面のベクトル式表示 第 6 週 Affine 変換 第 7 週 Affine 変換の幾何学的性質 第 8 週 合同変換 第 9 週 曲線の接ベクトルとベクトルの微分 第 10 週 曲線の合同				
成績評価の方法	レポートおよび小テストによる。				
教材・教科書・参考書等	プリントを配付する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	高校数学での幾何学（特に座標系とベクトル），および微積分の予備知識が必要。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 金曜日 5・6 時限	教室	7A105	2 年	2 単位
担当教員	森継 修一	オフィスアワー と研究室	火 18:00～19:30 7D214		
授業概要	整数および多項式を題材とした代数学の基本を講義する。 特にコンピュータ上での実現を念頭におき、数式処理システムを利用した問題解法や数式処理固有のアルゴリズムの解説も視野に入れる。				
学習・教育目標	・代数学における基本的諸概念を理解する。 ・数学的アルゴリズムを理解し、プログラミングができるようになる。 ・数学およびコンピュータサイエンスにおけるレポートのまとめ方を身に付ける。				
授業計画	指定教科書から適宜トピックスを選択する。 1. 整数と複素数 集合と写像・整数における素因数分解とユークリッドの互除法・複素数と複素平面など 2. 多項式 多項式における素因数分解とユークリッドの互除法・多項式の根と代数方程式の解放など 3. 合同関係 整数の合同関係・剰余類・合同式の解法・数論的関数とその応用など 4. 数式処理アルゴリズム 部分終結式算法・グレブナー基底・連立代数方程式の解法など				
成績評価の方法	複数回のレポートの総合点による。 (試験でないからといって単位が保証されているわけではない。)				
教材・教科書・参考書等	『応用のための代数系入門』増田真郎，サイエンス社 『代数学入門第三課』一松信，近代科学社				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	「基礎数学Ⅰ」「基礎数学Ⅱ」の単位取得済みの者を対象とする。				
授業外の学習内容・方法	講義以外に、教科書の演習問題は各自において常に積極的に取り組む必要がある。 また、プログラミング課題（使用言語は任意）を必須とする。				
備考 講義のホームページ等	GC21201「情報数学Ⅱ」（情報メディア創成学類）と共通なので、線形代数・微積分・離散数学などについて、同学類2年次生と同等の知識を有していることを前提とする。				

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A105	2 年	2 単位
担当教員	平賀 譲	オフィスアワー と研究室	水 10:00～12:30 7D209		
授業概要	情報メディア創成学類：「解析 I」（及び図書館情報専門学群「基礎数学 II」）の内容を受けて、多変数関数（主として2変数関数）の解析を講義する。内容としては点列や多変数関数の基本的な性質（収束と極限、連続性）、偏微分、（全）微分、重積分、線積分などを取り上げる。余裕があれば、微分方程式の初歩も扱う。				
学習・教育目標	2変数関数を範例に、多変数関数に特有の概念や、それらの微分・積分の理論的基礎を理解する。微積分（偏微分・重積分）等に関する基礎的な計算力や技術を身につける。それらを具体的な問題解決に結びつける応用力を養う。 授業内容と連動して、Mathematica, Matlab 等の数学ツールの利用方法を習得する。				
授業計画	第 1～2 週 多変数関数の基礎 （以下も含め、実際の講義では2変数関数を中心に扱う） 多変数関数の定義と性質、点列・関数の極限、関数の連続性 第 3～6 週 多変数関数の微分とその応用 偏微分・偏導関数の定義と公式、高次偏導関数、（全）微分、微分形式 テーラー展開、停留点の分類と極大・極小問題への応用 陰関数定理、逆関数定理 第 7～9 週 多変数関数の積分とその応用 重積分の定義と公式、変数変換とヤコビアン、広義積分 線積分とベクトル解析入門 第 10 週 その他の話題 微分方程式の基礎、フーリエ展開などの話題を時間に応じて適宜取り上げる。				
成績評価の方法	3～4 回程度のレポートと期末試験の結果をあわせて評価する。 また毎回授業開始時に前回授業内容に応じた小テストを実施し、学習状況を点検する。 試験・レポートは評価の内容・観点が異なるのでそれらの結果に応じて総合的に成績を判定する。				
教材・教科書・参考書等	教科書：「理工学基礎 微分積分学」 石橋幸男（培風館） 授業資料は適宜配布する。ただしオンライン公開分については各自でプリントアウトしてもらう。 他の参考書は授業や下記ホームページで紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	図書館情報専門学群「基礎数学 II」を履修している、あるいはそれに相当する知識を有していることが前提となる。 他のすべての数学・数理科目の基礎となる。				
授業外の学習内容・方法	レポート提出はもとより、きちんと授業内容を復習（及び予習）しておくこと。 毎回実施する小テストの結果に応じて、学習方法を点検・修正すること。				
備考 講義のホームページ等	http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~hiraga/analysis2/ （予定） 授業に関する連絡、授業資料の公開等はこの Web ページを通して行う。 情報メディア創成学類「GC11201 解析 II」と共通。				

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	宇陀 則彦	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D210		
授業概要	総合科学としての図書館情報学の全体像と、その知識情報学への発展を論ずる。知識情報学は、図書館情報学を「メディアを介した知識共有とその社会的・文化的・技術的仕組み」という視点の中でとらえ直し、より一般的な枠組に発展させるべく構想されるものである。この視点から、図書館情報学を、個人、知識情報資源、社会のそれぞれのレベルで展開される知識のサイクルとして組み替えて解説する。図書館情報学（とその発展としての知識情報学）は人間、知識情報資源、社会の各レベルでの固有の課題と、各レベルでの技術的課題、及びレベル間の相互作用をカバーする総合的領域であることに目配りをしながら解説する。				
学習・教育目標	1. 知識情報・図書館学類の対象主題領域（図書館情報学とその知識情報学への発展）の概要を理解する。 2. この領域の学問的特性、歴史的発展、方法的特徴を理解する。				
授業計画	Ⅰ 知識共有の基礎過程 コミュニケーション、知識と知識共有、情報と情報メディア等 Ⅱ 知識の形成と共有 知識の表現と解釈、知識形成におけるドキュメント等 Ⅲ 知識情報資源の構成 知識情報資源、知識情報資源の組織化、計量情報学等 Ⅳ 知識情報と資源の技術 知識共有の情報技術、知識情報の蓄積・検索技術、知識情報システムを支える思想と論理、知識発見の技術等 Ⅴ 社会における知識情報資源の構成と制度 知識・情報共有の社会的制度、図書館の制度と経営、デジタル知識情報資源と知識共有等 Ⅵ 知識情報資源の文化 知識表現の文化的側面、知識情報資源とその制度の文化的側面等 附 図書館情報学と関連領域の発展				
成績評価の方法	期末試験による（出席状況が悪い場合はマイナス要因として加味する）。				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配付する。また、授業の中で参考書等を紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との関連等					
授業外の学習内容・方法	授業後の復習として、毎回の授業内容を A4 用紙数枚程度にまとめて整理する。試験は小論文形式で授業内容を記述する方式とするので、復習をきちんと積み重ねておくこと。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 火曜日 5・6 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	葉袋 秀樹	オフィスアワー と研究室	火 4 限 7D310		
授業概要	図書館とは何かについて概説し、これからの図書館のあり方を考える。最初に、図書館の現状と動向について述べ、図書館の定義と構成要素、機能、社会的意義、知的自由と図書館、図書館及び公立図書館の歴史、館種別図書館と利用者、図書館職員の役割、資格と養成、類縁機関・関係団体、図書館の課題と展望について論ずる。図書館とは何かについて概説し、これからの図書館のあり方を考える。				
学習・教育目標	・社会において図書館が果たすべき役割、果たしてきた役割を理解する。 ・日本の図書館の現状を理解し、図書館を取り巻く社会との関係を考える。 ・社会の変化に対応する図書館の新しいモデルについて考える。				
授業計画	1. 図書館の現状と動向 2. 図書館の定義と構成要素 3. 図書館の機能 4. 図書館の社会的意義 1 5. 図書館の社会的意義 2 6. 知的自由と図書館 7. 図書館の歴史 8. 公立図書館の成立と展開 9. 館種別図書館と利用者のニーズ 1 10. 館種別図書館と利用者のニーズ 2 11. 図書館職員の役割 12. 図書館職員の資格と養成 13. 図書館の類縁機関・関係団体 14. 図書館の課題と展望				
成績評価の方法	試験が中心であるが、あわせて、レポート、出席、授業中の意見発表も考慮する。				
教材・教科書・参考書等	教科書に順ずる文献を指定する。教材として、講義概要を配付し、関連文献を紹介するほか、関連する新聞・雑誌記事のコピーを配布する。 参考書：『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～（報告）』				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	毎日、新聞をよく読むことが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	教科書に順ずる文献、配付資料、関連文献を読む。 授業中に紹介する図書館を見学する。毎日、新聞を読む。				
備考 講義のホームページ等	担当教員 ホームページ： http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~himinai/ つくばリポジトリ： http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/handle/2241/91043/browse-title				

学期曜時限	1 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	大庭 一郎	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D113		
授業概要	この講義では、図書館の経営や情報システムの構築に必要な、経営概念、経営管理、意思決定、組織、人間行動等についての基礎を概説する。経営管理機能は、一般に人々が共通の目標を達成するために協同で活動する場合に、常に存在する機能である。そこで、この講義では、経営管理一般についての入門的解説に重点を置いて講義を展開し、あわせて、経営管理論の視点から図書館や情報システムのとらえ方について解説する。				
学習・教育目標	・図書館の経営や情報システムの構築に必要な、経営概念、経営管理、意思決定、組織、人間行動等についての基礎知識を理解することができる。 ・人々が協同で活動する際の組織（企業と図書館）とそれを取り巻く環境について、経営学の視点から考察することができる視野を養うことができる。 ・「経営学検定試験（初級）」に自学自習で取り組めるような、経営学の入門知識を身につけることができる。				
授業計画	1. 「図書館経営論 I」のガイダンス 2. 経営管理とは 3. 経営組織体としての図書館や情報システム 4. 企業と図書館における経営の計画 5. 企業と図書館における組織化 6. 企業と図書館における組織の運営 7. 企業と図書館における経営コントロール 8. 企業と図書館における経営と情報 9. 「図書館経営論 I」の総まとめ(1) 10. 「図書館経営論 I」の総まとめ(2)：経営学検定試験 11. 「学期末試験」・「授業評価」				
成績評価の方法	・出席状況と授業参画度（発表）（約 20%）、課題レポート（約 30%）、学期末試験（持込不可）（約 50%）によって総合的に判定する。ただし、いずれかの評価項目の成績が著しく低い場合には、減点評価の対象とする。				
教材・教科書・参考書等	・教科書：塩次喜代明ほか著. 経営管理. 新版. 東京, 有斐閣, 2009.4, xviii,308p. (有斐閣アルマ) ・教科書：野中郁次郎, 紺野登. 知識経営のすすめ：ナレッジマネジメントとその時代. 東京, 筑摩書房, 1999.12, 238p. (ちくま新書, 225)				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	・2 年次以上の学生のみ対象。 ・履修希望者は、TWINS で早めに履修申告をして下さい。				
授業外の学習内 容・方法	・授業内容を必ず復習する。 ・教科書や課題文献の指定箇所を必ず読む。 ・新聞を毎日読む。 ・課題レポートに取り組む。				
備考 講義のホームページ等	・第 1 回目の講義開始までに、必ず教科書を購入し、講義に出席すること。 ・毎回新しいテーマを扱い、欠席するとその後の講義を理解する上で障害になるので、全て出席する覚悟で受講すること。第 1 回から出席することを前提に講義は組み立てられているので、出席していないと不利になります。課題レポートの提出の遅れは、認めないので注意すること。				

学期曜時限	1 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	鵜田 拓哉	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	知識資源（印刷資料，非印刷資料，電子資料とネットワーク上の資源を含む）の組織化全体を概観するとともに，主に効果的かつ効率的な利用を目的として行われる広義のメタデータを用いた組織化について学習する。具体的には，対象とする知識資源の分析や記述に基づく組織化について基本的な考え方を学ぶ。				
学習・教育目標	知識資源の組織化に関する基本的な考え方，および，メタデータ，固有名称管理，分類，索引，要約など組織化のための様々な手法・技術について理解する。				
授業計画	1. 知識資源組織化の概要（意義と理論） 2. 図書館目録のメタデータ（書誌コントロールと標準化，書誌記述法，作成と流通の実態） 3. 固有名称管理（典拠コントロール） 4. ダブリンコア・メタデータ 5. 検索システム（OPAC，その他のメタデータ検索システムの仕組み） 6. 主題分析ツール 1（分類法の体系） 7. 主題分析ツール 2（デューイ十進分類法） 8. 主題分析ツール 3（アメリカ議会図書館分類法，コロン分類法） 9. 主題分析ツール 4（シソーラス，件名標目表の体系） 10. 主題分析方法（分類，索引，要約）				
成績評価の方法	レポート（30%），筆記試験（70%）。レポート評価の観点は指示事項について妥当な処理が行われているか，考察は十分に展開されているかなど なお，著しく低い出席状況については加味（減点）することもある				
教材・教科書・参考書等	教材として，適宜プリントを配布する [参考書] 谷口祥一，緑川信之『知識資源のメタデータ』勁草書房，2007 緑川信之『本を分類する』勁草書房，1996				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業内容の再確認による復習，参考書などの内容確認による復習 レポートは，1～2 回程度課す予定				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	岩澤 まり子	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D304		
授業概要	情報探索の基本的な方法・理論を、情報の分析・加工・蓄積・探索・アーカイブなど情報探索に関わる組織化、および再発見の両プロセスについて、利用者の探索行動の特性および情報要求と関連付けながら学ぶ。また、情報探索戦略については、図書館情報学分野の代表的なデータベースなど各種情報源の解説と評価を行い、さらに情報源の特質と利用法を考慮した実践的な方策を解説する。				
学習・教育目標	情報探索の基本を、情報検索サービスの理論と方法を通して、理解する。 各種情報源の選定を含む、情報探索戦略を策定できるようになる。 卒業研究に必要な先行研究論文が、調査できるようになる。				
授業計画	1. 情報探索とは 2. 情報探索の歴史 3. 情報検索システムとサービス 4. 情報の組織化と再発見のプロセス 5. シソーラス 6. 情報探索に関わる規格 7. 情報探索の流れ 8. プレサーチインタビュー 9. 情報源の評価と情報探索戦略の策定 10. 検索結果の評価				
成績評価の方法	出席状況、小レポートおよび学期末試験の成績により、総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料はプリントとして配布する。また参考書および関連文献は、講義の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	復習を行ない、理解できなかった点を明らかにして、授業に出席して下さい。情報探索に対する理解を深めるために、図書館情報学分野のデータベースを使用した情報探索を、三回程度、宿題として課します。また宿題の一部は、小レポートとして提出していただきます。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	吉田 右子	オフィスアワー と研究室	火 2 限 7D116		
授業概要	生涯学習の歴史的展開を踏まえつつ、生涯学習の概念や意義を理解し、学習活動を援助する政策と制度について考えていく。また日本および諸外国の生涯学習施設とプログラムを幅広く見ていくとともに、生涯学習における図書館の位置づけについて詳しく論じる。さらに生涯学習プログラムを計画・実施していくための基本的スキルを修得する。				
学習・教育目標	(1) 講義を通して、生涯学習活動に関わる基本的な知識を修得する。 (2) 生涯学習者を取り巻く現代的課題を踏まえて、生涯学習プログラムを計画・実施していくための基本的スキルを修得する。				
授業計画	・はじめに ・生涯学習論の理念・意義・歴史：海外における生涯教育の展開、日本における社会教育の展開 ・社会教育行政の意義と施策：教育に関する法律・生涯学習振興施策・自治体の行財政制度 ・生涯学習施設の運営管理：専門的職員、施設、プログラムの実施方法、学習情報の提供・学習相談 ・生涯学習をめぐるトピック：家庭教育・学校教育・社会教育との連携、ボランティア、プログラムの評価 ・海外の生涯学習：歴史、意義、活動、施設、プログラム ・生涯学習と図書館：日本、北米、イギリス ・生涯学習と図書館：北欧 ・まとめ				
成績評価の方法	授業の進行に合わせて出題するレポートを中心に評価する。最終的には受講態度などを考慮して総合的に評価する。レポートは形式および内容から評価する。受講態度（30%）とレポート（70%）で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業で使う資料はウェブサイトに掲載する。参考資料については、授業中に示す。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	予習：次回の教材に目を通し、概要をつかんでおく。 復習：授業で紹介したウェブサイトを通覧する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	春日講堂	2 年	2 単位
担当教員	松縄 正登 村井 麻衣子	オフィスアワー と研究室	木 15:15～16:15 7D502 火 15:00～16:00 7D506		
授業概要	知的財産に関する法制度を主要な概念や法理に基づいて学ぶ。著作権法、特許法を中心に、不正競争防止法、商標法、意匠法、実用新案法など、知的財産諸法についての基礎的な知識を身につけ、知的財産法の法技術的な特色を理解する。				
学習・教育目標	知的財産諸法についての基礎的な知識を身につけ、現代における望ましい制度のあり方について考察し、情報の保護と利用についてのバランス感覚や、問題解決能力を身につけることを目的とする。				
授業計画	・ 知的財産法概論 ・ 法律を学ぶための基礎知識（法令・六法、判決について） ・ 不正競争防止法の概要 ・ 著作権法の概要 ・ 商標法の概要 ・ 意匠法の概要 ・ 実用新案法の概要 ・ 特許法の概要				
成績評価の方法	主に、小テスト・出席による予定。				
教材・教科書・参考書等	参考書：田村善之、知的財産法 第5版、有斐閣、2010 六法（詳細については授業で指示する） 青山紘一、特許法第12版、法学書院、2010 松縄正登、特許審判－法理と実務－、朝倉書店、2008 中山信弘、特許法、弘文堂、2010				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「法律学」を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	・ 予習として：参考書などを読み、内容を把握する ・ 復習として：授業内容を参考書等に照らして確認する、授業で示された論点を自分なりに検討する、判決原文にあたって理解を深める				
備考 講義のホームページ等					

P21 1912

P21 1922

プログラミング演習 I -1,-2

Computer Programming : Lab I-1, -2

学期曜時限	2 学期 木曜日 1・2 時限 2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7C102	1 年	2 単位
担当教員	松村 敦 時井 真紀	オフィスアワー と研究室	木 6 限 7D212 火 5・6 限 7D203		
授業概要	コンピュータ・プログラミングの基礎を学習する。具体的にはプログラミング言語と幾つかの基本的なアルゴリズム、処理の流れを習得するプログラミング演習を行う。最終的にはプログラムが自分で書けることを目標にする。				
学習・教育目標	・ 逐次実行の仕組みと多くのデータを繰り返しや場合分けで処理する仕組みを理解する。 ・ プログラムの有用性と必要性を理解する。 ・ 単純な処理を行うプログラムを自力で書ける。				
授業計画	1. 導入：自作プログラムでコンピュータを操ることを体験する。 2. プログラミング基礎 ・ 変数，配列，文字列，クラス ・ 制御構造（繰り返し、条件分岐） ・ メソッド 3. 応用問題による演習				
成績評価の方法	演習中の課題，レポートと試験を総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて教材としてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	情報基礎実習で学ぶコンピュータの基本的な操作方法に習熟していることを前提とする。				
授業外の学習内容・方法	配布テキストの予習と復習、数回のレポート課題				
備考 講義のホームページ等	http://klis.tsukuba.ac.jp/klib/				

P21 2012

P21 2022

プログラミング演習Ⅱ-1,-2

Computer Programming : Lab II-1, -2

学期曜時限	3 学期 木曜日 1・2 時限 3 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7C102	1 年	2 単位
担当教員	真栄城 哲也 松村 敦	オフィスアワー と研究室	水 1・2 限 7D409 木 6 限 7D212		
授業概要	プログラミングの基礎知識を前提として、マルチメディアデータを使うようなより実践的なプログラミング技術を身につける。最終的に問題解決手段としてのプログラミングが行えることを目標にする。				
学習・教育目標	・ 実際のデータ（テキスト、マルチメディア等）を扱うプログラムが書ける。 ・ 大きな問題を切り分けることができ、切り分けた問題に対するプログラムが書ける。 ・ プログラムの分かりやすい説明が書ける。				
授業計画	1. 導入：自作プログラムで自在にデータを操ることを体験する。 2. 実データの処理 ● ファイル入出力 ● テキストデータ処理 ● マルチメディア表現とその処理 3. GUI(グラフィカルユーザインタフェース)プログラム作成 4. 応用問題による演習				
成績評価の方法	演習中の課題とレポートを総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	プログラミング演習Ⅰでの学習内容に習熟していることを前提とする。				
授業外の学習内 容・方法	配布テキストの予習と復習、数回のレポート課題				
備考 講義のホームページ等	http://klis.tsukuba.ac.jp/klib/				

学期曜時限	1 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A205 7C102	2 年	2 単位
担当教員	手塚 太郎	オフィスアワー と研究室	月 5・6 限 7D215		
授業概要	データベースは情報化社会を支える基本技術のひとつである。企業等において情報システムを開発するにあたって、データベースの知識は必須となる。本授業では特に関係データベース（RDB）に焦点をあて、データがどのように管理されるか、またどのようにデータベースの設計が行われるかについて、基礎となる事項を述べる。				
学習・教育目標	・ 情報システムにおけるデータベースの役割が理解できる。 ・ 関係データベースデータベースの概要が理解できる。 ・ データベース設計の基本的な考え方が理解できる。				
授業計画	1. データベース の概要 2. 関係データベース 3. SQL (1) 4. SQL (2) 5. ER モデル 6. 正規化 7. トランザクション管理 8. データベース管理システム 9. 発展的なデータベースシステム 10. まとめ				
成績評価の方法	試験				
教材・教科書・参考書等	授業に必要な資料を提供するが、以下の参考書を読むのも良い。 （参考書）データベース（新世代工学シリーズ）」，西尾・植村・上林，オーム社 （参考書）データベース（IT Text），速水・宮崎・山崎，オーム社				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	なし				
授業外の学習内容・方法	授業の内容が難しいと感じた場合は参考書を読むこと。				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A205 集合				

学期曜時限	1 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A106	2 年	2 単位
担当教員	小高 和己	オフィスアワー と研究室	火 7 限 7D216		
授業概要	人と「情報」との関わりを出発点として情報とは何かについて学ぶ。具体的には種々の情報処理技術と情報表現法との関連について講義する。情報の単位・測度，アナログ情報とデジタル情報の等価交換法，情報の利用過程（蓄積や伝送等）に適した情報表現法等に関する情報理論的側面，コンピュータ処理に相応しいデータ・文書表現法に関する規約的側面，文字・音声・画像等のデジタル表現に関するメディア处理的側面の3つの側面から講義する。様々な概念を具体的に把握するため，机上演習・デモンストレーションを援用する。				
学習・教育目標	1.「情報の表現」とは何か，情報処理技術に応じた多様な表現の世界を理解すること。 2.「情報の表現」の数理的考え方を理解するとともに，机上演習等を通してその概念を具体的に把握すること。 3.関連科目を受講して更に深く学ぼうとする諸君には基礎事項を，それぞれの専門科目を直接目指す諸君には情報表現の「全体像」を早期に身に付けることを目指す。				
授業計画	第 1～4 週 ・情報理論的側面（人と情報，情報の測度，エントロピー，情報利用の過程（蓄積や伝送等）と情報表現） 第 5 ～ 8 週 ・規約的側面（文字コード・文書・データ構造の表現法（HTML,XML など）） 第 9～10 週 ・文字・画像等のメディア处理的側面（アナログ・デジタル情報の表現と等価交換） ・演習（机上演習・簡単な処理プログラムの作成等）				
成績評価の方法	定期試験により評価する。				
教材・教科書・参考書等	小澤一雅著，「情報理論の基礎」，国民科学社，を参考書として，また，高橋麻奈著，「やさしいXML」，ソフトバンククリエイティブ，を教科書として使用する．その他講義において適宜指示する。				
履修要件 前提知識，他科目との関連等	特になし				
参考図書・配布資料等の指定された事項を復習・予習すること．	参考図書・配布資料等の指定された事項を復習・予習すること．				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	佐藤 哲司	オフィスアワー と研究室	水 7 限 7D205		
授業概要	情報化社会を迎えて、私たちは様々な形のコンピュータに取り囲まれている。本講義では、1 台のコンピュータの組成、複数のコンピュータを接続するネットワーク、様々な生活の場面で活用されている社会情報システムを概観し、そこで実現されている機能や役割を理解する。 情報システムを理解し説明するためには、様々な専門用語を必要とすることから、個々の用語について歴史的な経緯を含めて、それが示す概念を深く理解する。				
学習・教育目標	店頭でパソコンを購入するにも、多様な性能を示す様々な用語を知らなければならない。本授業では、豊かな情報化社会を過ごすために不可欠となった情報システム・社会システムに関する基礎的な知識を修得し、より高度なシステム設計や構築、プログラミングなどへの礎とする。 授業は、1 台のコンピュータの成り立ちを学ぶ計算機アーキテクチャ、複数のコンピュータを接続して相互に機能させるためのインターネットプロトコル、社会に組み込まれて機能している社会情報システムの 3 パートからなり、情報システムを体系的に理解することを目標とする。				
授業計画	1. 計算機アーキテクチャ (1) ガイダンス、パソコンカタログの見方 (2) 計算機としてのコンピュータ (3) データ管理のためのコンピュータ (4) 管理するコンピュータ 2. インターネットプロトコル (5) イーサネットと TCP/IP (6) ネットワークサービス (7) サーバソフトウェアと認証 3. 社会情報システムの事例 (8) 生活の中に浸透する情報通信技術 (9) 社会インフラとなるクラウドコンピューティング (10) まとめ				
成績評価の方法	期末試験およびレポート等による総合評価。各回とも小テストあり				
教材・教科書・参考書等	主要部分についてテキストを配布します（配布方法は備考欄を参照のこと）。 参考書：コンピュータ・アーキテクチャの基礎、柴山潔著、近代科学社				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	情報システムに関しての新しい用語、説明がたくさん出てくるのでそれらを使用する場面、文脈、使われ方について復習をしましょう。自分の利用環境について調べて次週までに報告する等の課題も何回か出題されます。				
備考 講義のホームページ等	テキストは http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~satoh/index-j.html から辿れるようにしますので、各自で所定の様式に印刷して持参してください。詳細は第 1 回に説明します。				

学期曜時限	3 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	関 洋平	オフィスアワー と研究室	水 10:30～11:45 7D213		
授業概要	コンピュータが人間の日常言語（自然言語）を理解することができれば、私たちの生活に革命 的な変化をもたらすことは間違いありません。しかし、自然言語はプログラミング言語のように 形式化されていないため、現状では、コンピュータによる完全な処理は空想に過ぎません。他方 において、かな漢字変換、機械翻訳、情報検索、音声認識などのアプリケーションにおいて、自 然言語解析の理論が応用されて一定の成果をあげていることも事実です。本講義は、自然言語解 析に関する基礎理論やモデルについて、伝統的な内容から最新事情までを講義します。				
学習・教育目標	・ 自然言語解析とは何であるかを理解する。 ・ 自然言語解析の基礎理論とモデルについて理解する。				
授業計画	・ 自然言語解析の概要 ・ 形態素解析 ・ 統計的言語モデル ・ 形式文法 ・ 構文解析 (1) ・ 構文解析 (2) ・ 意味解析 ・ 機械学習と自然言語解析の応用 ・ 最新の自然言語処理技術				
成績評価の方法	筆記による中間試験と期末試験の結果を同等に考慮して成績を評価します。				
教材・教科書・ 参考書等	Speech and Language Processing (Second Edition) D. Jurafsky (Stanford), J. H. Martin (Boulder), Pearson Education, Inc., 2008.				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	講義時間に説明した内容や演習問題を次回の講義までに復習する。				
備考 講義のホームページ等	http://cu.slis.tsukuba.ac.jp/~seki/nla2012 （予定）				

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A104	1 年	2 単位
担当教員	森継 修一	オフィスアワー と研究室	月 17:30～19:30 7D214		
授業概要	図書館情報学の基礎となる数学のうち、線形代数の初歩を講義する。 連立 1 次方程式の解法であるガウスの消去法を基礎として、抽象的な理論と具体的な計算の結びつきを示しながら、諸概念を論じる。内容の確実な理解のために演習を課すが、その際、「技巧的・場当たりの」な解法を排除し、「アルゴリズム的」な解法が身に付くよう指導する。これは、プログラミングを学ぶ際の基礎的な思考訓練でもある。				
学習・教育目標	● 高校数学の確実な理解を土台として、線形代数における基本的諸概念を理解する。 ● 問題解決のための計算が確実に実行できるようにする。 ● 数学の答案の記述法およびレポートのまとめ方を身に付ける。				
授業計画	1. ガウスの消去法 連立 1 次方程式の代表的な解法であるガウスの消去法を用いて、連立 1 次方程式が確実に解けるようにする。「軸選択」の手順を通して、「すべての場合に適用できる一般的な手続き」のための思考方法を指導する。 2. 実数ベクトル空間と線形写像，行列 ベクトルの 1 次独立性・行列の正則性・逆行列・行列の階数とゼロ空間の次元などの概念を論じる。具体的な計算はすべて、ガウスの消去法に帰着させる。 3. 行列の固有値・固有ベクトル，行列式 まず、固有値・固有ベクトルを定義に基づいて直接求める方法を示し、固有値を特性方程式の根として位置づけるために、行列式 の概念を導入する。行列式の計算においても、ガウスの消去法に基づいた方法を用いる。 内容の確実な理解のため、各自における講義時間以外の演習を重視する。				
成績評価の方法	複数回のレポートと試験の結果をあわせて評価する。				
教材・教科書・参考書等	教科書：村田健郎 『線形代数と線形計算法序説』 サイエンス社 (1986) 教科書：岡本和夫 『行列と 1 次変換』 実教出版 (1998) 教科書：佐藤文広 『数学ビギナーズマニュアル』 日本評論社 (1994)				
履修要件 前提知識，他科目との関連等	● 高校数学 I,A,II,B までの知識が確実に使いこなせることを前提とする。				
授業外の学習内容・方法	授業内容に関連する課題をほぼ毎週示す。期末試験を受けるためには、それまでのすべてのレポートが提出済みで、かつ合格点を得ている必要がある。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 水曜日 1・2 時限	教 室	7A205	1 年	2 単位
担当教員		オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	関数や微積分は、必ずしも数学・物理などの自然科学に限られたものではなく、統計処理や情報学、グラフィックスなど様々なところで必要となっている。本講義では、図書館情報学・知識情報学の基礎となる、解析学の初歩を行う。授業では、数学的厳密さを求めるのではなく、これらの数学を使いこなせるように平易に解説するつもりである。また、解析的な解法だけでなく、数値計算に関する解法も時間があれば紹介する				
学習・教育目標	1 関数の概念を理解し初等関数を使いこなせるようにする。 2 微積分の概念を理解し、それらに関する具体的問題解決の応用力をつける。 3 実際の計算を通して、基礎的な計算力や技術（工夫）を身につける。				
授業計画	1 オリエンテーション 2 実数の概念・実数の連続性・実数の性質・数列の極限 3 関数（連続関数・逆関数・指数関数・対数関数・三角関数） 4 微分・初等関数の微分・平均値の定理・テーラー展開・微分法の応用 5 数値微分の例 6 積分・初等関数の積分・広義積分・積分法の応用 7 数値積分の例 8 無限級数				
成績評価の方法	試験および小テスト等により評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義に合わせて資料を準備する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	前提知識は特に必要としないが、高校の数Ⅱ程度の知識を習得している方が望ましい。高校で数Ⅲを履修した者には、復習的な内容である。				
授業外の学習内容・方法	必ずノートを作り、毎回、予習復習をする必要がある。授業中に理解し得なかった部分を各自で調べ理解することも必要である。				

学期曜時限	1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	鎮目 浩輔	オフィスアワー と研究室	水 3 限 7D314		
授業概要	数学の基礎であり情報科学にも直接的な応用を持つ記号論理、集合と写像、ベクトルと行列の入門的な部分を講義する。基礎的な概念とともに簡単な応用例にも触れる。また数学では手を動かしての習得が不可欠なので、練習問題を多く入れ、授業中にもある程度演習を行う。				
学習・教育目標	・ 数学的・論理的な考え方を論理の形式論を通してきちんと身につける。 ・ 集合と写像の基礎概念を理解し基本的な演算ができるようになる。 ・ ベクトルと行列の関係を理解し、行列計算ができるようになる。				
授業計画	I. 論理学の基礎 命題論理、ブール代数、述語論理 II. 集合と写像 集合の概念、集合演算、写像、写像の合成と逆写像等 III. ベクトルと行列の演算 幾何学的ベクトルと行列、行列の定義、行列の演算（和、差、積、逆行列）、ベクトルの線形変換（回転、拡大など）				
成績評価の方法	試験による。必要に応じてレポートも課す。				
教材・教科書・参考書等	プリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	前提知識 高校数学 A の「論理と集合」 また高校数学 B の「ベクトル」の入門的な事項				
授業外の学習内容・方法	プリントに練習問題を多く入れるので、それを解きつつプリントやノートで復習すること。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 月曜日 5・6 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	中山 伸一	オフィスアワー と研究室	月 1・2 限 7D410		
授業概要	我々が知的活動を行っていく上において、課題やその解決法の発見は欠くことのできない要素であり、その能力を開発する事は、研究や社会生活をおくる上で有用である。この授業においては、創造性の科学について概観するとともに、各種の創造性開発技法を紹介し、その実践を行うことにより、問題発見や課題解決における創造的思考を身につけさせる。				
学習・教育目標	・ 創造性とは何かを理解する ・ 創造的な問題発見や課題解決の方法を身につける ・ 創造的な心を養う				
授業計画	1：創造とは 2：創造性の科学 3：創造性の測り方 4：自由連想法（ブレインストーミング）とその実践 5：強制連想法（チェックリスト法）とその実践 6：類比法（シネクティクス法）とその実践 7、8：KJ 法とその実践 9：PERT 法とその実践 10：その他の技法				
成績評価の方法	出席および実践への取り組み状況、レポート、試験をそれぞれ等価に評価する。なお、レポートは技法毎に提出させるが、技法の理解を中心に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：『創造的能力：開発と評価』佐藤三郎, 恩田彰共編. 東京心理, 1978. 『発想法』川喜田二郎著. 中央公論社, 1967 (中公新書:136). 『続発想法』川喜田二郎著. 中央公論社, 1970 (中公新書:210).				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	各種技法については、あらかじめどのようなものを調べさせる。授業中に実践を行うが、そのまとめを授業後に行わせる。これらについては5回程度をレポートとして提出させる。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 4 時限	教室	7A207	2 年	2 単位
担当教員	原 淳之	オフィスアワー と研究室	火 4 限 7D406		
授業概要	西洋における図書館の歴史について、この分野の教育や研究で使われる文献資料（教科書、教養書、専門書、参考ツール、専門雑誌）を紹介し、それらの読み方や活用法などを説明する。内容としては、19 世紀におけるアメリカやイギリスの公共図書館（パブリック・ライブラリー）の成立が中心となる。				
学習・教育目標	・ この研究分野の教科書、教養書、専門書、参考ツールなどの種類と特徴を理解する。 ・ 専門書についてはその読み方の基礎を理解し、実践できるようになる。 ・ 外国語で書かれた原書については、その利用法や読み方の基礎を理解する。				
授業計画	授業前半は、この研究の分野について、以下のような内容を扱う。 (1) 研究の方法や過程、(2) 教科書、教養書、専門書の種類と特徴、(3) 専門雑誌の構成、(4) 参考ツールの種類と扱い方、(5) 原書と翻訳書 授業後半では、アメリカやイギリスにおける研究を中心に、その代表的な専門書などについて、内容を紹介し、読み方の基礎を具体的に紹介する。（取り上げる文献については未定であるが、次のような代表的な研究者のものを考えている。） J・H・シェラ、シドニー・ディッツィオン、マイケル・ハリス、トーマス・ケリー、ブラック・アリスティア、新しい潮流を示す著作（出版や読書の社会史との関係など）				
成績評価の方法	出席、レポート（日本語で書く）				
教材・教科書・参考書等	教科書は使用しない。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	講義内容を聴くだけでなく、興味をひかれた文献（教科書、教養書、専門書、翻訳書や原書）を実際に自分で読むことで授業の理解が促進される。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 3 時限	教室	7A206	2 年	2 単位
担当教員	白井 哲哉	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D407		
授業概要	この授業では、江戸時代から明治時代にかけての記録資料（アーカイブズ）をテキストとして、それらの読み方や内容理解のトレーニングを行う。 記録資料とは、個人や組織が作成・収受したさまざまな文書・記録類の総称で、官公庁の行政文書、地域社会に残された古文書、作家など個人の書簡や取材ノートまでを幅広く含む。地域資料として、これらの記録資料を所蔵する図書館も少なくない。 授業では、あわせて記録資料の変遷と、内容理解のための知識および方法を学ぶ。				
学習・教育目標	・日本の記録資料についての基礎知識を得る。 ・記録資料の読み方（音読）を覚える。 ・記録資料の記載内容及び成立の背景について理解する。 ・図書館の地域資料の観点から、記録資料についての理解が広がる。				
授業計画	1, 記録資料についての基礎知識 2, 記録資料を読んでみる（翻刻文を講読） 3, 記録資料の本物に触れてみる 5, 記録資料を読んでみる（原文を講読） 6, 記録資料の取り扱い方 7, その他				
成績評価の方法	出席状況及びレポート（コメントペーパー）による。出席重視なので遅刻しないこと。 授業では記録資料の原文解読をおこなうが、それ自体を成績評価の対象とはしない。				
教材・教科書・参考書等	教科書の購入は初回授業で指示する（2,500 円程度）。 参考書：大石学監修『改訂新版 古文書解読事典 文書館へ行こう』東京堂出版（2000）				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	記録資料の翻刻文を講読する際は、復習することが望ましい。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	吉田 右子	オフィスアワー と研究室	火 2 限 7D116		
授業概要	図書館コレクションをめぐるさまざまな問題を取り上げ、それらを図書館内部（図書館界での議論）と図書館外部（出版界などでの議論）の両面から考えていく。また現在、図書館コレクションが直面している課題について関連資料を示しながら言及する。さらにアメリカの先進的事例についても随時紹介し、図書館コレクションへの理解を深める。				
学習・教育目標	(1) コレクション形成の基本的な知識を修得する。 (2) コレクション形成に関する様々な資料から、コレクションをとりまく状況を総合的に理解する。				
授業計画	・はじめに ・図書館資料の種類 1：印刷資料、非印刷資料、電子資料、ネットワーク情報資源の特徴 ・図書館資料の種類 2：地域資料、行政資料、灰色文献、人文・社会・自然科学分野の情報資源とその特徴、生活分野の情報資源とその特徴 ・コレクション形成のプロセス：資料の選択・収集 ・資料の選択と収集：コレクション形成方針・資料選択ツール ・資料の蓄積と保存：資料の受入、除籍、保存、管理、装備、補修、排架、展示、点検 ・コレクションの評価 ・出版制度と図書館 ・コレクション形成と図書館の自由 ・まとめ				
成績評価の方法	授業の進行に合わせて出題するレポートを中心に評価する。最終的には受講態度などを考慮して総合的に評価する。レポートは形式および内容から評価する。受講態度（30%）とレポート（70%）で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業で使う資料はウェブサイトに掲載する。参考資料については、授業中に示す。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	予習：次回の資料に目を通し、概要をつかんでおく。 復習：授業で紹介したウェブサイトを通覧する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A104	2 年	2 単位
担当教員	大庭 一郎	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D113		
授業概要	レファレンスサービスは、図書館や情報サービス機関等において、情報を求めている利用者に対して、レファレンス担当者によって提供される人的援助である。現代の図書館では、各種のレファレンス資料（冊子体、オンラインデータベース、パッケージ型電子メディア、インターネット上の情報、等）を活用しながら、多様なレファレンスサービスを展開することが求められている。この講義では、広義のレファレンスサービスを対象として、レファレンスサービスの目的、構成、方法、各種情報源の利用法、参考調査図書館の組織と運営、等について総合的に解説する。				
学習・教育目標	・レファレンスサービスの目的、構成、方法、各種情報源の利用法、参考調査図書館の組織と運営、等についての基礎知識を理解することができる。 ・「国立大学法人等職員採用試験」や「各種の図書館職員採用試験」を受験する際に必要な基礎知識を身につけることができる。				
授業計画	1. 「レファレンスサービス論」のガイダンス 2. レファレンスサービスの概念 3. レファレンスサービスの歴史と発展段階 4. レファレンスサービスの構造と機能 5. レファレンスサービスの種類 6. レファレンスプロセス 7. レファレンスサービスのための情報源 8. レファレンスサービスの組織と運営 9. 「レファレンスサービス論」の総まとめ(1) 10. 「レファレンスサービス論」の総まとめ(2)：課題解決支援の展開 11. 「学期末試験」・「授業評価」				
成績評価の方法	・出席状況と授業参画度（発表）（約 20%）、課題レポート（複数回）（約 30%）、学期末試験（持込不可）（約 50%）によって総合的に判定する。ただし、いずれかの評価項目の成績が著しく低い場合には、減点評価の対象とする。				
教材・教科書・参考書等	・教科書：渋谷嘉彦ほか共著. 情報サービス概説. 改訂. 東京, 樹村房, 2004.3, xi,174p. (新・図書館学シリーズ, 4) ・教科書：加藤秀俊. 取材学：探求の技法. 東京, 中央公論社, 1975.10, iii,184p. (中公新書, 410)				
履修要件 前提知識、他科目との関連等	・3 年次以上の学生のみ対象。 ・履修希望者は、TWINS で早めに履修申告をして下さい。				
授業外の学習内容・方法	・授業内容を必ず復習する。 ・教科書や課題文献の指定箇所を必ず読む。 ・新聞を毎日読む。 ・課題レポートに取り組む。				
備考 講義のホームページ等	・第 1 回目の講義開始までに、必ず教科書を購入し、講義に出席すること。 ・毎回新しいテーマを扱い、欠席するとその後の講義を理解する上で障害になるので、全て出席する覚悟で受講すること。第 1 回から出席することを前提に講義は組み立てられているので、出席していないと不利になります。課題レポートの提出の遅れは、認めないので注意すること。				

学期曜時限	1 学期 木曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	松林 麻実子	オフィスアワー と研究室	金 4 限 7D111		
授業概要	学術情報は、その構造や生産流通の仕組みという面において特殊な存在である。本講義では、学術情報やその流通に特有の仕組みを整理し、それを担う研究者という存在について学ぶことで、科学知識の生産と利用について考えることを目的とする。特に、研究者とメディアとの関係に焦点を当てて考えていきたい。本講義が対象とするのは研究者や彼らが扱う学術情報という特殊な事象であるが、ここでは一般の人々とメディアとの関係について考えることの延長上にあるものととらえ、考えていきたい。				
学習・教育目標	本講義の受講を通して、下記のような能力の獲得を目指す。 ・研究者の生態を知り、彼らに内在する問題について考えることができる ・学術情報流通に関わる専門用語や概念を一通り説明することができる ・電子ジャーナルなどの登場による学術情報流通システムの変化について考えることができる				
授業計画	1. ガイダンス：講義の全体像について 2. 研究活動プロセス 3. 研究者の倫理 4. 科学コミュニケーションモデル 5. 学術論文の構造 6. e-print archive について 7. 電子ジャーナルについて 8. メディアの電子化が研究者にもたらす影響 9. 研究者とオープンアクセス運動 10. まとめ				
成績評価の方法	学期中に 2～3 回課す予定のレポートによる。レポートの採点基準は、1)論理的な文章を書けているかどうか、2)学術情報の基本的な構造を理解できているかどうか、3)指定された形式にしたがっているかどうか、である。出席状況を加味するかどうかは受講生と相談の上で決定したい。				
教材・教科書・参考書等	参考書：倉田敬子. 学術情報流通とオープンアクセス. 勁草書房, 2007, 196p. 参考書：日本図書館情報学会編. 学術情報流通と大学図書館. 勉誠出版, 2007, 217p.				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	レポートを複数回課す予定。分量はどれも A4 判 2～3 枚程度のものとする。ただし、第 1 回レポートの出来や講義における受講生の反応などを見ながら、第 2 回以降のレポートの内容や分量を変更する可能性もある。				
備考 講義のホームページ等	大学図書館や学術情報流通に関心を持っている人はもちろんのこと、一般の人々とメディアとの関係について学びたいと思っている人にとっても有意義な授業にしたいと考えています。多様な方向性を持つ学生の受講を希望します。				

P41 0612

情報組織化演習-1,-2

P41 0622

Information Organization : Practice-1, -2

学期曜時限	1 学期 火曜日 1・2 時限 1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7C102	2 年	2 単位
担当教員	呑海 沙織・阪口 哲男 呑海 沙織・鈴木 伸崇	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	知識資源の組織化とそのメタデータ作成，検索システム構築などの概要理解を目的として，知識資源に対するメタデータ（図書館目録用書誌レコード，ダブリンコア・メタデータなど）の作成演習と，作成したメタデータの検索システム構築演習を行う。				
学習・教育目標	・ 標準的な書誌レコード（図書館目録用）の作成法について理解し，書誌レコードと著者名典拠レコードの作成が行えること ・ ダブリンコア・メタデータの作成法について理解し，同メタデータ作成が行えること ・ 書誌レコード用のデータベースを構築できること ・ 構築したデータベースに対する検索システム（検索インタフェース）を構築できること				
授業計画	1. 書誌レコード作成 (1)：日本目録規則および演習用適用細則、レコード入力システムの理解、図書を対象とした書誌レコード作成 2. 書誌レコード作成 (2)：図書を対象とした書誌レコード作成（続き）、著者名典拠レコード作成 3. 書誌レコード作成 (3)：録音資料、電子資料を対象とした書誌レコード、著者名典拠レコード作成 4. 書誌レコード作成 (4)：書誌階層にかかわる書誌レコード、著者名典拠レコード作成 5. ダブリンコア・メタデータの作成：ネットワーク上の資源に対するメタデータ作成 6. OPAC 構築 (1)：OPAC 構築用サーバ上のプログラム開発環境の習得 7. OPAC 構築 (2)：OPAC 構築用データベース管理システムの習得 8. OPAC 構築 (3)：OPAC データベース構築と OPAC 機能設計 9. OPAC 構築 (4)：Web から利用可能なシステム構築技術(CGI)の習得 10. OPAC 構築 (5)：OPAC 機能の実現				
成績評価の方法	レポート（100%）。レポート評価の観点は指示事項について妥当な処理が行われているか，考察は十分に展開されているかなど なお，著しく低い出席状況については加味（減点）することもある				
教材・教科書・参考書等	教科書：北克一，村上泰子著『資料組織演習：書誌ユーティリティ、コンピュータ目録（改訂 2 版）』エム・ビー・エー，2008.3 そのほかの教材・資料は授業内で配布する				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	2 年 1・2 クラスは火曜クラス，3・4 クラスは水曜クラスを受講すること （ただし，1・2 クラスで情報基礎を履修する者は水曜クラスを受講して良い。） 1)「知識資源組織化論」を履修している（履修中である）ことが望ましい。2)「データベース概説」を履修している（履修中である）ことが望ましい。3)「プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ」を履修し，Ruby 言語でプログラミングできることを前提に進める。				
授業外の学習内 容・方法	指示された演習課題の処理 レポートは 3 回程度課す予定				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A104	2 年	2 単位
担当教員	横山 幹子	オフィスアワー と研究室	火 5 限 7D405		
授業概要	哲学的観点から、「知識」についての問題を取り扱い、「知識」の捉え方の歴史をふまえたうえで、「知識」についての現代の多様な考え方の一部を紹介する。				
学習・教育目標	哲学において、「知識」がどのように捉えられてきたかを理解することを目的とする。さらに、現代哲学において、「知識」に関して何が問題であるかの一端を理解することも目的とする。				
授業計画	1) 知識の古典的な定義 2) 基礎付け主義 1 3) 基礎付け主義 2 4) 基礎付け主義から外在主義へ 5) 外在主義 6) 哲学的懐疑論 7) 懐疑論への対応 1 8) 懐疑論への対応 2 9) 認識論の自然化 1 10) 認識論の自然化 2				
成績評価の方法	出席と学期末の筆記試験による。授業の 2 / 3 以上は出席することを前提とする。				
教材・教科書・参考書等	『知識の哲学』 戸田山和久著、産業図書、2002				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	教科書の熟読、及び、授業内で示す参考図書のうち、興味を引かれたものを読む。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	松林 麻実子	オフィスアワー と研究室	金 4 限 7D111		
授業概要	情報行動とは、コミュニケーションやメディアの利用など、人間が情報と関わる行為全般を指す。すなわち情報行動とは、人間が日常的に行っている様々な行為のうち、特に重要なものの一つである。本講義では、そのような人間の行為がこれまでどのように研究されてきたのか、ということ概観するとともに、自分が日頃行っている情報行動を様々な方向から解釈してみることを目的とする。昨今、様々な文脈で話題になる新規メディア（Google や SNS など）を題材にするなど、出来る限り身近な事例を取り上げながら分析を進めていきたい。				
学習・教育目標	本講義は下記のような知識や能力を身につけることを目標とする。 ・図書館情報学領域で発展してきた情報行動研究の系譜を知っている ・自らの行動をモデル化（＝構成要素とその関係に分解）してとらえることができる ・論理的に思考することや学術的な文章を書くことができる				
授業計画	1. ガイダンス：情報行動とは 2. 情報通信モデルとコミュニケーションモデル 3. 情報行動の契機となる要素／情報行動を表現したモデル 4. 認知的観点からとらえる情報行動 5. 社会的観点からとらえる情報行動 6. 情報行動を様々な視点から解釈してみる 7. 技術決定論的メディア観からみる人間とメディアの関係 8. 社会に埋め込まれたメディア観からみる人間とメディアの関係 9. 人間とメディアの関係を様々な視点から解釈してみる 10. まとめ				
成績評価の方法	授業期間中に課す 3 回程度のレポートによる。レポートの採点基準は、1)学術的な文章を書けているかどうか、2)自分の行動を概念図や専門用語を使って説明することができているかどうか、3)指示した形式にしたがっているかどうか、である。提出期限は厳守するものとし、指定した期限までに提出されなかったレポートが一つでもあった場合、授業を放棄したものとみなす。出席状況を評価に加味するかどうかは初回の授業において受講生と相談の上決定する。				
教材・教科書・参考書等	教科書は特に指定しない。ただし、毎回、次の授業までに読んでおくべき関連文献を指示するので、それを読んだ上で授業に臨んでもらいたい。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	レポートを 1 ヶ月に 1 本程度のペースで課す予定。分量はどれも A4 判 2～3 枚程度のものとする。ただし、第 1 回レポートの出来や講義における受講生の反応などを見ながら、第 2 回以降のレポートの内容や分量を変更する可能性もある。				
備考 講義のホームページ等	現象学、心理学、認知科学、社会学など多様な領域の考え方を駆使しながら、人間の情報行動について考える講義です。図書館情報学に限らず、様々なバックグラウンドを持った学生を歓迎します。				

学期曜時限	3 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A106	3 年	2 単位
担当教員	芳鐘 冬樹	オフィスアワー と研究室	月 5 限 7D414		
授業概要	情報の生産，流通，蓄積，提供，利用の諸側面における情報評価の意義と方法論について，学術情報を中心に学ぶ。また，研究評価や図書館に関連する評価の実際についても幅広く学ぶ。				
学習・教育目標	● 「情報」の中でも，特に，学術文献を中心とする文献を対象として，その生産，流通，蓄積，提供，利用の各フェーズにおける評価手法について理解する。 ● 個々の評価手法について学ぶとともに，情報評価という行為を，評価対象（被評価者/物）・評価者のタイプ，評価の目的といった視点から俯瞰的に整理して理解する。 ● 情報評価に関わる実際の分析・研究の批判的検討を通して，評価の問題点・限界と，それらを考慮した上での評価の意義について理解する。				
授業計画	1. 「情報」の中での「学術情報（文献）」の位置付け 2. 評価対象，評価者，評価の目的 3. 文献の生産から利用までの流れ 4. 各フェーズにおける具体的な評価手法・指標 5. 量的評価と質的評価 6. 評価手法に対する批判的検討				
成績評価の方法	レポートにより成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業時間に提示する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業で紹介する参考書を適宜参照し，授業内容に関する理解を深める。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A106	2 年	2 単位
担当教員	野本 祐二	オフィスアワー と研究室	木 3 限 7D308		
授業概要	公共経営の在り方、特に近年における地方自治を取り巻く環境の変化を踏まえた、自治体経営の在り方を取り扱う。地方自治制度、地方税財政制度の基本的理解を踏まえた上で、地方分権、市町村合併、NPM の考え方や地方行革などを取り上げる。				
学習・教育目標	・ 地方自治制度全般に関する基本的理解 ・ 地方自治体を取り巻く環境の変化 ・ 自治体経営改革の具体的取組				
授業計画	・ イン트로ダクション ・ 地方自治制度の概要 ・ 地方税財政制度の概要 ・ 地方行財政の運用～図書館による実例～ ・ 地方分権の進展 ・ 市町村合併や道州制の動き ・ 新しい公共経営の理論 ・ 指定管理者、PFI 等の取組 ・ 市場化テスト、政策評価等の取組 ・ 構造改革特区、地域再生等の取組 (※特定のテーマを扱ったケーススタディを実施することもあり得る。)				
成績評価の方法	期末試験を実施する。その他、授業への出席及び積極的参加を加点要素とする。				
教材・教科書・参考書等	教科書は特に指定しない。授業毎にレジメ・参考資料を配布予定。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	初歩的な法学、行政学の知識があることが望ましいが、イントロダクションの一環として授業の理解に必要な基本的概念は講義を行う予定。				
授業外の学習内容・方法	授業毎に配布するレジメ等に関連した参考文献、参考 HP 等を紹介する予定。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A207	2 年	2 単位
担当教員	市川 恵理	オフィスアワー と研究室	木 3 限 7D307		
授業概要	公立図書館は教育機関の一つとして様々な法規と関わりをもって活動している。ここでは、法の視点から公立図書館へのアプローチを試み、社会教育・学校教育や教育委員会制度等などの関係法規、審議会答申と施策、現状と課題などに触れるとともに、図書館と関わりの深い部分の法制度について事例を交えながら講義していく。				
学習・教育目標	・ 社会の中の図書館の位置づけを再認識する。 ・ 教育行政の構造を理解する ・ 関係する法令から図書館の運営上の課題を考える。				
授業計画	・ 憲法、行政法の概念 ・ 教育基本法、社会教育法、学校教育法について ・ 審議会答申と生涯学習振興法、教育振興基本計画について ・ 図書館法、図書館の設置及び運営上の望ましい基準について ・ 他館種の図書館に関する法律について ・ 文部科学省設置法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律等について ・ 著作権法と図書館 ・ プライバシーの権利と表現の自由・知る自由をめぐる諸問題 ・ 行政改革と図書館をめぐる諸問題 ・ 図書館政策（国・地方公共団体）について その他、関連する法令を適宜講義していきたい。				
成績評価の方法	出席、レポート、小テストにより総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は随時配布します。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	授業注に紹介した参考書・文献などを読んで、復習してください。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 木曜日 1・2 時限	教室	7A104	2 年	2 単位
担当教員	葉袋 秀樹	オフィスアワー と研究室	月 6 限 7D 310		
授業概要	市民に最も身近な図書館である市町村立図書館、都道府県立図書館からなる公共図書館を中心に、わが国の図書館の基本的な問題点や課題について概説する。図書館の概念、機能、意義、政策動向、法令・行政、歴史、各種のサービス、評価等に関する重要なテーマについて考える。特に、図書館の運営に関するさまざまな考え方と最近の図書館の改革の取り組みを重視する。				
学習・教育目標	・ 社会において図書館が果たすべき役割、果たしてきた役割を理解する。 ・ 日本の図書館の現状を理解し、基本的な問題点や課題を考える。 ・ 社会の変化に対応する図書館の新しいモデルについて考える。				
授業計画	1. 学習の観点と方法：理論と実際 2. 公共図書館の環境 3. 公共図書館の概念・種類 4. 公共図書館の機能・構成要素 5. 公共図書館の意義・効果（2 回） 6. 公共図書館の政策動向 7. 公共図書館の法令と行政（2 回） 8. 戦後公共図書館の発展段階 9. 貸出・リクエストサービス 10. レファレンスサービスと電子情報 11. 課題解決支援サービス 12. 資料選択と蔵書構成 13. 障害者サービス 14. 公共図書館の測定・利用・評価 15. 公共図書館サービスの理念 16. 行政サービスとしての公共図書館				
成績評価の方法	試験が中心であるが、あわせて、レポート、出席、授業中の意見発表も考慮する。				
教材・教科書・参考書等	教科書に順ずる文献を指定する。教材として、講義概要を配付し、関連文献を紹介するほか、関連する新聞・雑誌記事のコピーを配布する。 参考書：『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～』				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	毎日、新聞をよく読むことが望ましい。				
授業外の学習内 容・方法	教科書に順ずる文献、配付資料、関連文献を読む。 授業中に紹介する図書館を見学する。毎日、新聞を読む。				
備考 講義のホームページ等	担当教員 ホームページ： http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~himinai/ つくばリポジトリ： http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/handle/2241/91043/browse-title				

学期曜時限	3 学期 月曜日 5・6 時限	教室	7A106	3 年	2 単位
担当教員	白井 哲哉	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D407		
授業概要	日本の図書館は、地域資料として古文書・公文書等を収蔵し利用に供する施設が少なくない。この講義では、「図書館員をめざす諸君のためのアーカイブズ（記録資料：古文書・公文書等）論」を基本コンセプトに、情報メディアの視点からみた記録資料の歴史、図書館・文書館等における記録資料の取り扱い、整理、保存、利用活用などの方法を学ぶ。過去の遺物と見なされがちな情報メディア＝記録資料を、現在及び未来に向けた視野から捉え直していきたい。				
学習・教育目標	・情報メディアとしての記録資料（古文書・公文書等）の意義・歴史・機能を理解する。 ・地域社会における記録資料（古文書・公文書等）の意義を理解する。 ・アーカイブズ学に基づく記録資料（古文書・公文書等）の基礎理論を理解する。 ・記録資料（古文書・公文書等）を取り扱う上での基礎知識を習得する。				
授業計画	1. 情報メディアとしての文字と紙の意義を考える 2. 日本における記録資料の歴史（１）―国家アーカイブズの成立と展開 3. 日本における記録資料の歴史（２）―地域アーカイブズの成立と展開 4. 日本における記録資料の歴史（３）―近代公文書と民間アーカイブズの展開 5. アーカイブズ学の理論 附：なぜ図書館に古文書があるのか 6. 日本におけるアーカイブズ施設（文書館・公文書館） 7. 記録資料の蒐集・受入・整理 8. 記録資料の利用提供・活用 9. 記録資料の保存 附：東日本大震災における資料救出活動 10. 記録資料の電子化とMLA連携				
成績評価の方法	出席状況・提出物（主にコメントペーパーによる）、試験によって総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は、プリントを適宜配布する。参考書は講義の中で紹介する。 なお、アーカイブズ学の観点をもった古文書の入門書として、大石学監修，改訂新版古文書解読辞典 文書館へ行こう，東京堂出版，2000。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	配付資料を中心に講義内容の復習を行うこと。講義内容の理解を深めるため、各地の図書館の地域資料室の実態や文書館施設の活動実態について調べ、できれば一度は足を運び、収蔵資料を自らの目で確かめるのが望ましい。				
備考 講義のホームページ等	授業及び試験において古文書解読の知識は不要である。				

P42 0212

P42 0222

レファレンスサービス演習-1,-2

Reference and Information Services : Practice -1, -2

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限 2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7C102 7A102	3 年	2 単位
担当教員	原 淳之・芳鐘冬樹 原 淳之・辻 慶太	オフィスアワー と研究室	教員一覧参照		
授業概要	本授業では図書館における情報サービスの設計と評価を視野に、レファレンスコレクションの整備と効果的な利用方法について学ぶ。まず前半では冊子体、オンラインデータベースなど図書館のレファレンスサービスに必要な各種情報源の概要や使い方を学ぶ。後半では HTML、CSS 及び Web での公開方法の基本を学び、かつ前半で習得した知識技能を生かしながら、いくつかのテーマに関するパスファインダーを作成し評価する。レファレンスサービスには(1)利用者が求める情報・資料の直接的提示、(2)利用案内、(3)二次資料の作成・評価、などが含まれるが、本授業の前半部分はこれら全体の基礎に関連し、後半部分は主に(3)に関連することになる。				
学習・教育目標	本授業では主に以下の知識・技術の習得を目指す： ・レファレンスサービスの基本となる各種情報源の概要及び利用方法 ・パスファインダーの定義・内容と日本における概況 ・HTML、CSS、Web 公開に当たっての基礎的知識				
授業計画	(1) レファレンスサービスの基本となる各種情報源の概要 (2) 各種情報源の利用法 1 (図書・叢書の情報源) (3) 各種情報源の利用法 2 (新聞・雑誌の情報源) (4) 各種情報源の利用法 3 (言語・文字、事物・事象の情報源) (5) 各種情報源の利用法 4 (歴史・日時、地理・地名、人物・人名の情報源) (6) パスファインダーの目的・定義 (7) パスファインダーの評価法 (8) 印刷体パスファインダーの作成 (9) Web 版パスファインダーの作成 (HTML の理解) (10) Web 版パスファインダーの作成 (CSS の理解)				
成績評価の方法	出席と授業参画度 (30%)、レポート (40%)、試験 (30%)。レポートについては、出題意図と必要とされるツールの理解、様式がポイントとなる。				
教材・教科書・参考書等	授業開始時に指示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	教科書、参考書、配布資料掲載ツールの確認とレポート作成				
備考 講義のホームページ等	初回は 7C102 集合				

学期曜時限	1 学期 月曜 3・4 限	教室	7A101	3 年	2 単位
担当教員	植松 貞夫	オフィスアワー と研究室	月 10:30～12:00 7D415		
授業概要	建築はある目的に使われるために建設される。図書館建築は図書館の活動、サービスが展開される場として建設される。従って建設の事前に、どのような活動・サービスが展開されるべきであるか、それに対応した建築はどのような内容や姿・形であることが相応しいかの両面について計画する必要がある。本講義では、建築の立場から活動・サービスを捉え、図書館建築の構成要素をどのように捉え、組み立てていくかという建築計画の実際を通じて、図書館建築が図書館のサービスや利用者の行動に与える影響とそれら行動を踏まえた計画論の基本を学ぶ。				
学習・教育目標	(1) 図書館建設を担当する立場になった時に、自館のあるべき姿について構想できる。 (2) 自分の勤務する図書館の建築が活動・サービスに即した十分な性能を発揮しているか、不十分な点がないかについて認識できる。 (3) 図書館利用者として、利用している図書館の建築を評価できる。				
授業計画	(1) 図書館建築とは：図書館の活動・サービスと建築 (2) 図書館サービスの考え方と図書館建築の変遷について (3) 図書館の地域計画 (4) 図書館建築計画の骨格、構成要素とは (5) 主要スペースの計画の考え方 (6) 家具や室内環境の計画の考え方 (7) 複合施設内図書館での計画、既存施設の転用計画 (8) 事例に学ぶ図書館建築計画				
成績評価の方法	試験＋出席 評価のポイントは細かな知識の修得ではなく、本講義を通じた図書館建築計画の基本的な考え方についての理解度や、自分なりの考え方を獲得したかに主眼を置く。				
教材・教科書・参考書等	必要な資料は適宜配付する。 参考書：『建築から図書館をみる』（勉誠出版、1999 年、植松貞夫） 『建築設計資料集成（教育・図書）』（丸善、2003 年、日本建築学会編）				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	公共図書館や大学図書館を定常的に利用し、図書館利用者としての空間感覚や他の利用者の利用行動について、実感として捉えたり注意しているようにして欲しい。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 木曜日 1・2 時限	教室	7A105	3 年	2 単位
担当教員	歳森 敦	オフィスアワー と研究室	水 9:30～11:30 7D114		
授業概要	数量的なモデル分析を通じて共同体における知識・情報の利用とそれにもとづく様々な活動について学ぶ. 主として地域コミュニティと図書館サービスを取り上げながら, サービスを構成し, 展開していく上での意思決定とそれを支える利用統計, 利用者調査など数値的な指標の分析, モデル化, 推定の実際 (SPSS を用いた演習を含む) について論じる.				
学習・教育目標	利用者がサービスを利用・選択する行動を説明する行動モデルの基礎を理解する. サービスの配置・資源配分に関する基本的な数理モデルの理論と方法を理解する.				
授業計画	1) コミュニティに対する情報サービス 2) サービス利用者の把握 3) 広域的な資源配置計画 4) 専門家の意思決定 5) サービス価値の計測 6) 利用者の選好意識 (1) 7) 利用者の選好意識 (2) 8) ロジットモデル 9) サービス提供と政策評価 10) まとめ				
成績評価の方法	レポートによる				
教材・教科書・参考書等					
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	複数回の課題を課す.				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A104	3 年	2 単位
担当教員	鈴木 佳苗	オフィスアワー と研究室	木 5 限 7D112		
授業概要	本講義では、メディアリテラシーの概念や、学校教育におけるメディア教育の歴史と現状などについて概説する。また、メディア教育の教材やプログラムを実際に体験し、その評価を行う。これらの点を踏まえて、メディア教育の課題について考える。				
学習・教育目標	・児童青少年を取り巻くメディア環境を理解する ・メディア・リテラシーの概念を理解する ・メディア教育の歴史と現状、実践とその効果を理解する ・メディア・コンテンツの評価の観点、メディア教育の計画の立て方を学ぶ ・メディア教育の課題について考える				
授業計画	授業では、以下の順番に説明する。 1. 青少年とメディア 2. メディア・リテラシーの概念 3－5. 日本のメディア教育の歴史と現状 6－7. メディア教育の教材とプログラム 8－9. 海外のメディア教育の歴史と現状 10. メディア教育の課題				
成績評価の方法	期末試験，授業中の課題，出席状況により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料を配布する。				
履修要件 前提知識，他科目との関連等	2 年次以下の履修を認めない。				
授業外の学習内容・方法	授業後に発展的な学習ができるように，授業中に参考文献を紹介する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 木曜日 1・2 時限	教室	7A104	3 年	2 単位
担当教員	逸村 裕	オフィスアワー と研究室	水 1 限 7D313		
授業概要	大学における教育研究活動と学術情報流通の仕組みを踏まえ、大学図書館の役割、機能、電子ジャーナルと各種電子情報源サービス、情報リテラシ教育、機関リポジトリその他の諸活動、ネットワーク、経営管理について、学術情報基盤、という概念のもとに総合的に学ぶ。				
学習・教育目標	大学構成員皆がなんらかの形で関わっている大学図書館と学術情報基盤についての理解を深め、今後のあるべき姿について考究する。				
授業計画	1. 学術情報流通の変革と学術情報基盤としての大学図書館 2. 大学を中心とする学術情報経営組織の動向とガバナンス 3. 学術情報基盤の歴史的展開 4. 学術情報流通に関するサービス 5. 利用者から見た学術情報(2回) 6. 評価の視点から見た学術情報組織 7. オープンアクセスと機関リポジトリ 8. 情報リテラシ教育 9. 史料管理 10. 今後の展開.				
成績評価の方法	出席状況と授業参画度(10)、小テスト(10)、レポート (15*2)、試験 (50) の総合評価。 レポートについては出題意図の理解と要件の記述がポイントとなる。				
教材・教科書・参考書等	教科書：逸村裕,竹内比呂也共編.変わりゆく大学図書館. 勁草書房. 2005. 参考 WWW：大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について（審議のまとめ） http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1282987.htm				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	教科書及び掲載関連資料、授業で紹介するウェブサイトの確認と理解、二度のレポート作成				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A102 7C103	3 年	2 単位
担当教員	岩澤 まり子 阪上 光庸	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D304 －		
授業概要	産業財産権制度（特許、実用新案、意匠、商標）の概要について解説する。 とくに特許に焦点をあて、特許の出願から権利取得、そして期間満了にいたる、特許の流れについて解説する。またこの過程で発生する特許情報について、種類および特徴等について説明する。特許データベースを使用した情報検索演習を行い、特許情報についての理解を深める。				
学習・教育目標	興味ある技術分野の特許を調査し、さらに自分の研究成果の特許として出願できるようになるために、日本の特許制度を理解することを目標とする。				
授業計画	特許情報に関する講義を行なうとともに、特許情報を提供するデータベースを使用した検索演習を行なう。 1. 日本の産業財産権制度と特許制度 2. 特許権取得の流れ（出願から登録まで） 3. 特許情報の流通とデータベース 4. 特許明細書の構成 5. 特許請求の範囲と権利 6. 実体審査と最終処分 7. 特許分類とパテントマップ 8. 特許調査 9. 外国での特許取得と国際特許出願 10. 日本・米国・欧州の特許制度の比較 11. 特許庁見学				
成績評価の方法	出席状況、検索演習に関わるレポートおよび学期末試験により、総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	無償配布予定の「産業財産権標準テキスト（特許編）」および講義時間中に配布するプリントを使用する。また参考書および関連資料は、講義の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との関連等	情報検索の基礎知識を有していることを前提に講義を行なう。				
授業外の学習内容・方法	復習を行ない、理解できなかった点を明らかにして、授業に出席して下さい。検索演習をはさんで授業を行ないますので、検索演習を通じて知識の再確認を行なって下さい。時間内に検索が終了しなかった場合は、宿題として課すことがあります。				
備考 講義のホームページ等					

P42 1201

P52 0201

知識資源の分析

Analysis of Knowledge Resources

学期曜時限	1 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A102	3 年	2 単位
担当教員	緑川 信之	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	知識の組織化および知識資源の組織化の中で、対象世界の構造を分析し、表現することに焦点を当てる。対象世界の構造を分析し表現することの代表的な例は分類である。分類は、対象がどのような構成要素からなり、それら構成要素間の関係がどのようになっているのかを明らかにして、それを表現することを行う。対象世界の構造の分析・表現は、分類以外にも様々な形で行われている。図書館情報学の中では、索引もそのひとつである。また、会社や工場の作業工程を構成要素に分け、それらの間の関係を分析することでより効率的な作業工程を見つけたり、作業工程のモデリングを行うことも、対象世界の構造分析・表現といえる。対象世界の構造を表現・モデリングしたものをオントロジーとよぶことにする。分類表やシソーラスはオントロジーの一種といえる。				
学習・教育目標	・様々な場で行われている対象世界の分析、表現・モデリングをオントロジーという視点から統一的に把握する。 ・オントロジーの代表として分類表と Web オントロジーを取り上げ、その考え方を理解する。				
授業計画	1. オントロジー概説 1.1 知識・知識資源の分析ツールとしてのオントロジー 1.2 古典的なオントロジー（学問分類，生物分類） 1.3 図書館情報学のオントロジー（図書館分類，シソーラス） 1.4 知識工学のオントロジー（人工知能，オントロジー工学，セマンティック Web） 2. 分類表 2.1 区分 2.2 体系化 2.3 表示 2.4 自動分類 3. Web オントロジー 3.1 RDF 3.2 RDF スキーマ 3.3 OWL 3.4 SKOS				
成績評価の方法	試験およびレポート				
教材・教科書・参考書等	資料を配付する。参考書：緑川信之『本を分類する』勁草書房，1996 谷口祥一，緑川信之『知識資源のメタデータ』勁草書房，2007				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	「情報組織化論」を履修済みであること				
授業外の学習内容・方法	適宜，レポートを課す。				
備考 講義のホームページ等					

P42 1301

用語管理論

P52 0301

Vocabulary Control for Information Retrieval

学期曜時限	3 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A 102	3 年	2 単位
担当教員	辻 慶太	オフィスアワー と研究室	水 12:00～13:00 7D512		
授業概要	本講義では知識資源の用語を適切に管理・集積する方法を学ぶ。用語管理の代表的ツールとしてシソーラスや件名標目表があるが、本講義では特にシソーラスについて、その意義・構造・使用法及び自動作成の方法を学ぶ。				
学習・教育目標	まず用語管理の基本ツールであるシソーラスや件名標目表，各種用語集の実際例を見ながら，その意義・構造・使用方法を理解する。また近年シソーラスを自動構築する研究が行われているが，テキストから用語を自動的に抽出し関連付けるにはどのような方法や問題点・解決策があるかを学ぶ。具体的にはキーワード抽出（自動索引），専門用語抽出，また用語間の同義関係・階層関係・日英の対訳関係等の抽出方法について理解する。				
授業計画	(1) シソーラス・件名標目表の概要及び有効性 (2) シソーラス・件名標目表の歴史 (3) シソーラス・件名標目表における用語の関係付け (4) シソーラス・件名標目表の構造・表示 (5) シソーラス・件名標目表の構築と更新 (6) テキストからのシソーラス自動構築の概要 (7) 専門用語自動抽出 (8) 同義関係 (9) 階層関係 (10) 対訳関係				
成績評価の方法	期末試験（90％）とレポート（10％）で成績を評価する。				
教材・教科書・参考書等	教材は授業時間に配布する。教科書は特にない。参考書としては Jean Aitchison ら（1989）『シソーラス構築法』丸善が役に立つ。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	シソーラスや件名標目表の実例を確認し，レポートを作成する。				
備考 講義のホームページ等					

P42 1601

日本図書学

Japanese Bibliography

学期曜時限	3 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A104	3 年	2 単位
担当教員	綿抜 豊昭	オフィスアワー と研究室	水 7 限 7D511		
授業概要	図書館司書として、図書館に所蔵される和古書の取り扱いについて学習し、和古書の目録の作成ができる知識を身につける。そのために、和古書に関する基本用語について、和古書の情報の所在の特質などについて講義する。また保存についても講義する。				
学習・教育目標	- 日本の本について理解する。 - 和古書の目録が作成できる能力を身につける。				
授業計画	1 和古書とは 2 基本用語について(1) 本の種類 3 基本用語について(2) 装釘 4 目録作成(1) 目録 5 目録作成(2) 手順 6 目録作成(3) 大学図書館の場合 7 調査項目(1) 情報の所在 8 調査項目(2) タイトルについて 9 調査項目(3) 出版等について 10 まとめ				
成績評価の方法	出席状況、レポート、試験など総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	日本図書学、桂書房、2007年				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	講義ですすめた図書を読む				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 4 時限	教室	7A206	3 年	2 単位
担当教員	綿拔 豊昭	オフィスアワー と研究室	水 7 限 7D511		
授業概要	古来、日本では多くの和歌集が編纂された。その中で日本の伝統文化にもっとも影響を与えたものの一つが藤原定家の編んだ「小倉百人一首」である。その「百人一首」をテキストとして、収録和歌および選集そのものの解釈などを通じて、言葉および意味などの視点から、メディアの読解などに関する基礎的なトレーニングを行う。				
学習・教育目標	編纂者の視線を理解 享受者の視線を理解 日本文化の一特質の理解				
授業計画	1 「百人一首」について 2～5 巻頭・巻尾について 6～9 春の和歌について 10～13 秋の歌について 14 日本の季節感について 15～20 恋について 21 試験				
成績評価の方法	出席状況、レポート、試験など総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教科書 「百人一首集Ⅱ」桂書房、1, 500円				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	使用テキストには現代語訳、作者略歴、語注などはないので、そうしたものを講義が始まる前に予習する。復習は、予習事項と講義中の説明との違いなどを整理する。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A104	3 年	2 単位
担当教員	松本 浩一	オフィスアワー と研究室	火 2 限 7D301		
授業概要	漢籍の種類、形態、印刷・出版、蒐集、保存、漢籍の目録法などについて学ぶ。また我が国の主要な漢籍所蔵館と漢籍目録の電子化の現状と課題、その意義について学ぶ。				
学習・教育目標	・近代以前の中国における書物の形態の変遷、各時代の図書事業（出版・流通、整理事業、蔵書）の実態について基本的な知識を得る。 ・漢籍（特に古典）を手にとったとき、基本的な目録データをそこからとることができるようになることを目標にする。				
授業計画	1. 写本時代の図書と図書整理事業 2. 印刷術の発明とその影響 3. 宋代以降の出版・流通状況 4. 宋代以降の蔵書と図書整理事業 5. 日本における漢籍の受容と出版 6. 漢籍（古典）目録の変遷と現状 7. タイトル（書名）・巻数の記述 8. 責任表示（著者名）の記述 9. 出版に関する事項の記述 10. 漢籍目録作成のための工具書				
成績評価の方法	筆記試験と出席（成績がボーダーラインにある際の判断に使用）				
教材・教科書・参考書等	授業に際してはプリントを配布する。 参考書は授業の中で紹介する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	「情報組織化論」を履修していることが望ましい。 「日本図書学」と併修することが望ましい。				
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2・3 学期 金曜日 3 時限	教室	7A207	3 年	2 単位
担当教員	松本 浩一	オフィスアワー と研究室	火 2 限 7D301		
授業概要	漢文テキストの解釈を通じて、言語および意味の視点から、メディアの読解に関する基礎的なトレーニングを行う。				
学習・教育目標	標準的な漢文を、日本独自の読み方である訓読の方法によって読解する能力、および漢文読解のための基本的なツールを使いこなす能力を身につけると同時に、この方法によって日本語と構文が異なる漢文をどのように理解し解釈していったかを学ぶ。				
授業計画	漢籍の編纂・整理に偉大な業績を残した人たちの伝記を、『漢書』などの正史から選び読み進めていく。テキストとしては、訓点付きの和刻本を参考にしながら、中華書局版の句点付きのテキストを使用する。どの伝を取り上げるかについては、いくつかの候補を用意し、希望を聞いて決める。始めに受講者それぞれの担当部分を決めておき、授業では担当者が、はじめに訓読で読み、その後現代日本語で解釈するという順序で進めていく。そのため受講者は、次の授業で読み進める部分を予習しておく必要がある。				
成績評価の方法	基本的に出席を重視する。さらに授業における発言と、最後に担当した部分についてのレポートによって評価する。				
教材・教科書・参考書等	テキストはプリントを配布する。 漢和辞典は必須アイテムであるが、手持ちのものでよい。漢文の文法書や参考書については、授業の中で紹介する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	担当した部分についての下調べが必要である。				
備考 講義のホームページ等					

P42 2101

P52 0501

メディア論

Media, Culture and Society

学期曜時限	3 学期 金曜日 3・4 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	後藤 嘉宏	オフィスアワー と研究室	金 2 限 7D513		
授業概要	すべての物事にメディアとしての側面を見いだしていくマクルーハンのメディア論の示唆を受けながら、この授業ではまず、人がなぜメディアという情報の「運び屋」「記録屋」を求めてきたかを考えようとしします。さらにメディアの伝達方向を垂直性（後の時間に伝える機能や死者や神への伝達機能）と水平性（同時代に伝える機能や同じような立場の人への伝達機能）に分けて分析し、それにあわせて色々な社会事象をメディア論的な事象の把握方法を踏まえ、分析します。さらに垂直性と水平性の概念を用いつつ、マス・コミュニケーション媒体の特性を比較していきます。またこれらの議論の合間に、マクルーハンや中井正一の議論を織り交ぜていきます。				
学習・教育目標	図書館情報学を学ぶ前提として、メディアの諸特性を把握し、それらの相違と共通性を理解することが大切ですが、この授業によってそのことが、ある程度明確になります。				
授業計画	盛り沢山で全てを話し切るのは困難。よって受講生の意向を聞きつつ、省く項目も生じます。 第1週 1. メディアを理解するのに必要な社会や文化の理論の概説 2. McLuhan からの示唆－実体ではなく関係性でメディアを捉える 第2週 3. メディアの定義（広義、狭義）と諸相（隣接概念との関係） 4. メディアは何を伝えるのか？ 5. 二元論とメディア 第3週 6. 人の命の短さと情報媒体（宗教、遺伝、教育、権力その他とメディアのかかわり） 7. 記録の記録媒体の垂直方向と水平方向について 8. 暦、時計、時間とメディア 第4週 9. 時間の流れのなかにある言葉を記録する媒体－紙 10. 本の垂直性 第5週 11. 雑誌と本との対比 第6週 12. 新聞の特性（1） 第7週 13. 新聞の特性（2） 第8週 14. ラジオ、テレビの諸特性 第9週 15. インターネットのメディア特性 第10-11週 16. メディアと誤報 17. 文化資本とメディア 18. メディア・リテラシー				
成績評価の方法	最終試験は、最終レポートにします。出席率、発言・報告等の多寡等、平常点も大いに考慮されます。最終レポートを課す場合、例年複数題（10 題以上）から1－2題選択して答えることになります。レポートの評価の観点、授業内容の適切な要約がなされているか否かと、授業内容への批判の鋭さや適切性、あるいはそれらを補足し発展させる際の説明の独自性等です。				
教材・教科書・参考書等	教科書を使う場合3学期初めに知識情報・図書館学類掲示板で指示します。使う場合の教科書は、伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2009年）です。教科書を使わない場合、基本的に授業直前に配付資料を http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ にアップしますが、あくまでも参考で、基本は板書です。後藤は板書魔です。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	標準履修年次は3年ですが、この分野に関心のある学生であれば、1・2年生の履修も認めます。「社会学」を既修あるいは履修中であることが望ましいですが、義務ではありません。				
授業外の学習内容・方法	単位の実質化に向けて以下の計画があります。1. 授業で説明した専門用語の簡単な説明のための小テストをときどき行う予定です。これは必ずしもペーパーテストの形式に限らず、出欠表で任意に当てた受講生に、答えさせる方式も想定できます。2. 授業の進捗状況によっては、配付資料の一定部分を事前に受講生に読んでおいて頂き、受講生数名ずつグループを組んで貰って、特定のテーマについて討論して貰い、その結果を授業時間内に発表して頂きます。				
備考 講義のホームページ等	「教材・教科書・参考書等」の項にも記しましたが、本授業科目の配付資料等を http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ （学内のみ）にアップの予定です。				

P42 2401

図書館文化史

P52 0801

Cultural Influences in Library History

学期曜時限	1 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A104	3 年	2 単位
担当教員	呑海 沙織	オフィスアワー と研究室	月 5 限 7D403		
授業概要	図書館の現在を語る上で、図書および図書館の歴史についての理解は不可欠である。本講義では、図書館とかかわりの深い情報メディアの歴史を理解するとともに、外国（主として欧米）および日本の図書館の歴史的発展、またその文化史的意義について学ぶ。				
学習・教育目標	本講義では、下記のような知識を身につけることを目標とする。 1. 情報メディアの歴史とその文化史的意義 2. 外国（主として欧米）の図書館の歴史的発展とその文化史的意義 3. 日本の図書館の歴史的発展とその文化史的意義				
授業計画	1. 情報メディアの歴史とその文化史的意義 a. 情報メディアとコミュニケーション b. 紙・図書・印刷術の発明 c. 大量印刷の時代・新聞・雑誌 d. メディアの多様化 2. 外国（主として欧米）の図書館の歴史とその文化史的意義 a. 図書館の源流 b. 中世の図書館 c. 近世の図書館 d. 公共図書館の成立 3. 日本の図書館の歴史とその文化史的意義 a. 前近代における日本の図書館 b. 近代図書館の誕生 c. デモクラシーと図書館 d. 戦後改革と図書館 e. 戦後の図書館				
成績評価の方法	レポート等の提出物，授業態度によって，総合的に決定する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は，プリントとして適宜配布する。 主な参考書は，下記の通り。 (1) 日本図書館協会編『図書及び図書館史』日本図書館協会，2008 (2) 岩猿敏生著『日本図書館史概説』日外アソシエーツ，2007				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	なし				
授業外の学習内容・方法	授業内容に応じた参考書を随時紹介するので，予習・復習を行うこと。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 木曜日 5・6 限	教室	7A106	3 年	2 単位
担当教員	田村 肇	オフィスアワー と研究室	水 10:00～11:30 7D311		
授業概要	現在の情報社会を捉えるための視点は種々存在すると思うが、この授業では経済学的観点から捉えるとどうなるかを明らかにする。具体的には、情報社会を分析するための経済学の分析ツールを解説し、それを用いて具体的にどのようなことがどの程度まで明らかになっているかを説明する。				
学習・教育目標	現代社会を、情報という視点から、経済理論によって説明するための基礎的知識が身につく。経済学の入門的知識が身につく。				
授業計画	第1週 経済学は「情報」とどう取り組んできたか（1） 第2週 経済学は「情報」とどう取り組んできたか（2） 第3週 「情報社会」をマクロ経済学的に捉えるために必要となる予備知識 第4週 「情報社会」をマクロ経済学的に分析する 第5週 「情報社会」をミクロ経済学的に捉えるために必要となる予備知識（1） 第6週 「情報社会」をミクロ経済学的に捉えるために必要となる予備知識（2） 第7週 「情報社会」をミクロ経済学的に分析する 第8週 インターネットの経済学とは 第9週 「情報」から「知識」へ（「知識経済学」とは？） 第10週 まとめ				
成績評価の方法	レポート（30％）、試験（70％）の割合で評価する。出席は足切りに用いる。				
教材・教科書・参考書等	教科書は使用せず、プリントを配布する。 参考書は、授業中に適宜紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業中に指定しない限り予習は必要ないが復習はしっかり行って欲しい。具体的には、授業中に紹介した参考書・論文はできるだけ読んで欲しい。またレポートは2回課す。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A101	3 年	2 単位
担当教員	溝上 智恵子	オフィスアワー と研究室	金 3 限 7B 棟 3F 秘書室		
授業概要	この授業では、民族という視点から、ナショナル・アイデンティティや文化的アイデンティティの形成について学ぶ。教育の目的の 1 つに、これらアイデンティティの育成があることを踏まえ、アメリカとカナダを事例に学校、図書館や博物館等に焦点をあて、北米地域の歴史と文化の概要を学ぶ。北米地域の各時代を特徴づける思想との関連から、教育政策や文化政策の変遷について学ぶ。なお、比較の観点から日本の教育文化についてもあわせて考える。				
学習・教育目標	・ 北米地域の文化史について、基礎的な知識を身につける。 ・ 教育の目的を広く理解する。 ・ 博物館や図書館などの教育文化施設の社会的役割を理解する。				
授業計画	1 イン트로ダクション：ナショナリズム 2 北米の文化と思想：歴史 3 北米の文化と思想：多文化主義 4 北米の文化と思想：人種差別と教育 5 アメリカの人種問題と図書館 6 グループ発表 7 万国博覧会と民族 8 戦争とミュージアム 9 史跡と記念碑 10 まとめ				
成績評価の方法	授業における発表、レポート課題や試験による総合的評価を行うが、毎回の小レポート 20%、レポート 40%、試験 40%の配分である。レポートはきちんとした文献調査を求める。				
教材・教科書・参考書等	指定文献と資料は授業中に配布するが、参考書は溝上智恵子『ミュージアムの政治学』東海大学出版会、2003。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業で配布した指定文献は事前に必ず読んでくること。さらに授業時の配布資料の検討を復習として行うとともに、グループ発表に伴う資料の作成やレポートの作成はすべて授業時間外に行う。作業量はグループにより異なる。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A104	3 年	2 単位
担当教員	石井 夏生利	オフィスアワー と研究室	木 5 限 7D509		
授業概要	情報技術の変化は、法の世界にも大きな変化をもたらしましたが、「情報法」はいまだ新しい法分野です。とりわけ、1990 年代中葉以降、急速に発展したインターネットによって、情報と法をめぐる新しい問題は日々生じ続けています。そこで、本授業では、「情報」に関する法的諸問題について、プライバシー・個人情報保護、著作権や不正競争行為などの知的財産権の侵害、不正アクセスなどのサイバー犯罪、アダルトサイト、自殺サイトなどの違法・有害コンテンツ、スマートフォンのセキュリティ等、個別テーマを取り上げつつ、現行法の状況と課題等について講義を行います。				
学習・教育目標	情報化社会で直面する法的諸問題に対する基本的な理解を深めるとともに、問題を考える際の視点やバランス感覚を身につけることを目標とします。 情報通信環境の発達により、「表の側面」として、社会のあらゆる場面における利便性が向上しました。その反面、「負の側面」として、様々な弊害や法的諸問題が出現しました。こうした新しい問題への対応を考える際には、表面的な事柄にとらわれることなく、問題の本質を見据えた検討を行う必要があります。そこで、この授業の中では、各事象の何が問題であるかを議論しつつ、自己責任を原則とするネットワーク利用のあり方を認識するとともに、安全かつ安心にネットワークを利用するための観点を身につけることを目指します。加えて、他の科目の応用的な知識を習得することをも狙いとしています。				
授業計画	1. 情報法基礎 2. 情報公開・個人情報保護法 3. 通信の秘密とプロバイダ責任制限法 4. 著作権法、営業秘密の保護 5. インターネット取引と消費者保護 6. インターネットと刑事法 7. 図書館と情報法 8. 事例研究又は IT 関連の新法解説 9. 事例研究又は IT 関連の新法解説 10. まとめ				
成績評価の方法	定期試験により評価する。				
教材・教科書・参考書等	教材は各回の配布資料を用いる。教科書は、小向太郎『情報法入門 デジタル・ネットワークの法律』(NTT 出版、第 2 版、2011 年)。				
履修要件 前提知識、他科目との関連等	ネットワーク社会における諸問題を法的な側面から講義を行うため、「情報社会と法制度」を受講していることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	各回の授業の後に、教科書又は参考書の中の関連箇所を読んで復習すること。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 集中 (7/10～7/13)	教室	共同研究会議 室 1, 7A104	3 年	2 単位
担当教員	武者小路 澄子	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	‘知識’がどのように形成されていくのかについて、これを捉える様々な立場や研究領域ごとの相違を整理しつつ、知識形成の過程やそこに関わる現代的な問題点を概説する。さらに、‘知識を形成していく’というそのこと自体について、批判的な検討を加え考察する。 知識の形成を理解する上では、＜個＞の知識を対象とするか、＜社会＞において共有される知識を対象とするかによって視点が異なる。前者については、「わたし」という個の視点における知識形成を、自己についての知識形成、また生後間もない頃からの知識形成や、人間の認識の進化についてふれる。後者については、身近な生活世界における知識形成や、コミュニティ・社会における知識形成を扱う。最後に、図書館情報学においては近代西洋における‘knowledge’の訳語としての‘知識’の形成中心にこれまでの研究がなされてきているが、その新たな展開を模索するため、東洋思想やニューサイエンスにおける考え方を取り上げて、今後の知識形成に関する研究の展開を考察していきたい。				
学習・教育目標	・ 「知識」および「知識形成」についての基礎的・概要的知識を習得する ・ 「知識」および「知識形成」について、異なる研究領域の考え方を秩序立てて理解する ・ 「知識」および「知識形成」について、批判的に評価できる視点を身につける ・ 知識形成に関する具体的諸問題を検討することによって、知識の専門家としての論理的思考能力を身につける				
授業計画	以下の課題を取り上げる予定である。 1 個人の知識の形成 1. 1 「わたし」の知識の形成 1. 2 子どもの知識形成 1. 3 認識の進化論 1. 4 自己・他者・コミュニケーション 2 コミュニティ・社会における知識形成 2. 1 日常生活世界の知識形成 2. 2 グローバル社会における知識形成 3 ＜知識形成＞比較論 3. 1 ニューサイエンスの視点と比較して 3. 2 東洋思想の視点と比較して 日程と教室 7/10 1-4 限 共同研究会議室 1* 7/11 1-6 限 7A104 7/12 1-5 限 7A104 7/13 1-5 限 7A104 * 春日エリア 情報メディアユニオン 3F				
成績評価の方法	出席および小テストとレポート				
教材・教科書・参考書等	プリントおよびプリント中で挙げる参考資料				
履修要件 前提知識、他科目との関連等					
授業外の学習内容・方法	授業内容の理解だけでなく、自分で「知識」「知識形成」に関する様々な考え方を批判的に検討し、自分の考えを打ち立ててください。さらに、“自らの知識形成について反省的に捉える”ことを試みてください。				
備考 講義のホームページ等	初日は 8:40 に春日エリアの情報メディアユニオン 3F 共同研究会議室 1 に集合				

学期曜時限	2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	歳森 敦	オフィスアワー と研究室	木 9:30～11:30 7D114		
授業概要	質問紙調査（いわゆるアンケート調査）の方法論と，結果の分析のための一連の統計的手続きを学ぶ．具体的には，調査の計画，標本抽出の方法，調査票の設計，調査の実施から，データの入力，結果の集計，調査結果の報告に至る一連のプロセスを，演習を交えつつたどる．				
学習・教育目標	一般的な量的調査の方法を理解し，その結果を批判的に評価できる． 量的調査の企画と実行のための基礎知識を身につけ，適切な指導の下で調査ができる． 調査結果の情報処理手順を理解し，定型的な報告書を作成することができる．				
授業計画	1) 質問紙調査の方法 2) 標本の抽出方法 3) 調査テーマの設定 4) 調査票の作成 5) 調査票の作成 6) 結果の入力 7) 結果の単純集計・グラフ化 8) 結果の集計・分割表 9) 結果の集計・相関 10) まとめ				
成績評価の方法	試験				
教材・教科書・参考書等	原純輔，浅川達人，改訂版 社会調査，放送大学教育振興会，2009，250p.				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	より高度な分析のために「多変量解析」の履修を，関連科目として「質的調査法」の履修を勧める				
授業外の学習内容・方法	毎回，教科書の指定箇所までを予習してくること．復習のための宿題あり．				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	川澄 厚志	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	社会調査には、数量的データを扱う「量的調査」と、数量的には表すことのできないデータを扱う「質的調査」が存在する。どのような調査方法を使用するかは、その研究目的、対象者などに応じて選択されることになる。質的調査法は、社会の複雑な事象を重層的に示すことができる一方で、調査や分析における“客観性”や“妥当性”が問われることも多いため、こうした問題を整理して、研究成果の提示方法についても検討をしていく必要がある。 本講義は、人文・社会科学における調査方法としての質的調査法について、その基本的考え方と手法を理論的・実践的に学ぶ。この調査法を使用した具体的な調査・分析方法にも触れながら、その特徴、意義や目的、プロセス、技法、調査倫理など、総合的に学ぶことを目指す。またレポート課題を通し、質的調査法を実際に使用して調査・分析を行ってみることにより、質的調査を企画・実施し分析する力を身につけることを目指す。				
学習・教育目標	・ 質的調査法とは何か、その基本的立場や考え方について理解する ・ 具体的な諸手法について学び、これらを用い方・有効性・用いる上での留意点（調査倫理）などの基礎知識を身に付ける ・ 自らの調査課題について、具体的に諸手法の適用・応用を検討する ・ 実際の調査実施の際に、質的調査法を生かした調査を行うことができる				
授業計画	以下の課題を順に取り上げる。 1. 質的調査法とはどのような方法か 2. 調査方法とその実践計画、具体例 （インタビュー調査、参与観察、エスノグラフィ、ライフヒストリーとオーラルヒストリー、ドキュメント分析等、フィールドワークにおける代表的調査方法を取り上げる） 3. 調査に関する基本用語、調査上にあたっての理論的背景と立場 4. 分析方法とその方法論的立場、具体例 （データとその解釈、コーディング、会話分析、談話分析、映像資料の分析等と方法論的立場を取り上げる） 5. 質的調査法による研究成果の提示 （研究の評価基準、倫理的問題、プレゼンテーションに関して取り上げる） 6. 質的調査の選択と意義				
成績評価の方法	期末レポート、授業への積極的な参加				
教材・教科書・参考書等	授業中に配布するプリントおよびプリントにて参照する文献				
履修要件 前提知識、他科目との関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	プリントと講義中に説明したことについて考えてください。特に、卒業研究で質的調査を用いる場合、自分だったらどうするかを必ず考え、そのために準備段階として必要な知識・技能を上記の教材を基に出来る限り実践して身につけてください。				
備考 講義のホームページ等	プリント以外に講義で説明することがあるので講義ノートを取るようにしてください。				

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A101 7C103	3 年	2 単位
担当教員	真栄城 哲也	オフィスアワー と研究室	水 1・2 限 7D409		
授業概要	情報の発信や利用に関する諸現象を計量的に解析するための手法とその実例，そこから導かれる特徴について紹介する．また，応用としてこれらの結果に基づく情報サービスへの展開について紹介する．				
学習・教育目標	情報を計量する方法，様々な物事とそれらの関係を全体的に捉える方法，これらの方法を用いた学術論文やインターネット上の情報，文章を分析する方法，を習得し，分析から得られる結果を説明できる．また，分析結果を応用する方法について説明できる．				
授業計画	1．量の計測，通信理論，ネットワーク理論 2．言語・文章の特徴，暗号，書き手の特徴，文章の比較 3．学術論文の生産・利用の定量的な特徴 4．学術論文の生産性，共著分析，共著ネットワーク，学術論文の引用ネットワークの特性 5．WEB ページ，ブログネットワークの特性 6．その他				
成績評価の方法	出席状況，レポートおよび質問により総合的に評価する．				
教材・教科書・参考書等	教材：必要に応じてプリントを配布する． 参考書：村上，「真贋の科学」，朝倉書店 Watts，「スモールワールド」東京電機大学出版局 必要に応じて紹介する				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	配布テキストの予習と復習、およびレポート課題				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A101 集合				

P42 4001 テクニカルコミュニケーション論

Technical Communications

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A102 7C102	3 年	2 単位
担当教員	三波 千穂美 平湯 あつし	オフィスアワー と研究室	月 13:30～16:00 7D302 －		
授業概要	専門情報を正確にわかりやすく伝えることを意図した、文書の企画・構成・表現設計等に必要とされる知識・技術・考え方を、マニュアル制作などを題材に学ぶ。また、実際の専門職としてのテクニカルコミュニケーターの業務や活動を知り、関連する演習を行う。				
学習・教育目標	以下を学習する。 1. 専門情報と社会の関係の変化 2. テクニカルコミュニケーションとは 3. マニュアル制作などを例とした、文書の企画・構成・表現設計 4. 専門職としてのテクニカルコミュニケーター				
授業計画	1. 専門情報と社会の関係の変化、テクニカルコミュニケーションとは 2. マニュアルとはどんなものか？（演習） 3. マニュアルの企画・構成・表現設計 4. マニュアルの文章、技術情報を伝える文章（演習） 5. マニュアル制作の工程、マニュアルの評価・管理 6. 雑誌やネットの文章（演習） 7. ビジュアル表現、関連する知識・技術 8. レイアウトデザイン（演習） 9. 電子マニュアル 10. 企画の考え方、構成の考え方（演習）				
成績評価の方法	レポート、演習課題、授業の参加状況、授業時の取り組み方等を統合し、評価する。レポートには、対象・目的を的確に把握した、十分な情報と適切な構成・文章表現を求める。				
教材・教科書・参考書等	参考書は授業時に適宜、紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との関連等	履修希望者が 36 名を超えた場合は初回に受講調整を行います。受講調整を行った場合、初回欠席者は受講できません。				
授業外の学習内容・方法	自らの日常生活やメディアの報道等において、テクニカルコミュニケーションを意識する。				
備考 講義のホームページ等	講義は 7A102 で、演習は 7C102 で実施。初回は 7A102 に集合				

P42 4101

P52 0901

学校経営と学校図書館

School Management and Libraries

学期曜時限	3 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A104	3 年	2 単位
担当教員	平久江 祐司	オフィスアワー と研究室	月 3・4 限 7D404		
授業概要	学校図書館における教育・学習情報の生産、流通、利用の全般について解説し、学校教育における学校図書館活動の在り方を考える。学校図書館については、その現状と経営についての基本的事項を解説し、学校教育と学校図書館活動の有機的な連携の在り方を考える。				
学習・教育目標	「授業計画」に掲げた 10 項目についての基礎的知識や重要な概念を習得するとともに、それらについて考察し、自己の見解や主張を形成する。				
授業計画	1. 生涯学習社会と学習情報 2. 学校教育と学校図書館経営 3. 学校図書館の現状と課題 4. 地方の教育情報ネットワークと学校図書館 5. 学校図書館法の制定とその改正運動 6. 米国の学校図書館制度 7. 学校図書館経営の計画 8. 学校図書館運営の実際 9. 学校図書館経営の評価 10. 学校図書館担当者の役割				
成績評価の方法	期末試験，レポート，出席等により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配布する。また教科書・参考書等については開講時に説明する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	司書教諭科目や教職科目関連科目を履修していることが望ましい。 履修希望者が 90 名を超える場合は、初回に受講調整を行います。				
授業外の学習内容・方法	レポートの詳細については学期の中頃に発表する。レポートの分量は原稿用紙 6 枚程度で，期末試験時に提出する。				
備考 講義のホームページ等					

P42 4201

P52 1001

学習指導と学校図書館

Teaching and School Libraries

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A104	3 年	2 単位
担当教員	平久江 祐司	オフィスアワー と研究室	月 3・4 限 7D404		
授業概要	学校図書館及び学校図書館メディアを効果的に活用する学習指導計画の立案，教師や児童・生徒に対する司書教諭の支援の在り方等の基本的事項について解説し，学校図書館における情報リテラシー育成のための学習指導の在り方について理解を図る。				
学習・教育目標	「授業計画」に掲げた 10 項目についての基礎的知識や重要な概念を習得するとともに，それらについて考察し，自己の見解や主張を形成する。				
授業計画	1. 学習指導における学校図書館の役割 2. 学習指導における情報・メディアの活用 3. 学校図書館における利用指導の変遷 4. 学校図書館における情報提供サービス 5. 学校図書館における情報リテラシーの育成 6. 学校図書館における利用指導の理論的展開 7. 学校図書館メディアの利用指導計画の立案 8. 学校図書館メディアの利用指導計画の展開 9. 学校図書館メディアの利用指導計画の評価 10. 学習支援における司書教諭の役割				
成績評価の方法	期末試験，レポート，出席等により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配布する。また教科書・参考書等については講義の初回に説明する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	司書教諭科目や教職関連科目を履修していることが望ましい。 履修希望者が 90 名を超える場合は，初回に受講調整を行います。				
授業外の学習内容・方法	レポートの詳細については学期の中頃に発表する。レポートの分量は原稿用紙 6 枚程度で，期末試験時に提出する。				
備考 講義のホームページ等					

P42 4301

P52 1101

学校図書館メディアの構成

School Libraries and Media

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	三波 千穂美	オフィスアワー と研究室	月 13:30～16:00 7D302		
授業概要	この授業では、学校図書館メディアの意義と役割、種類と特性をふまえ、メディア構築のための選択・収集及び組織化について解説する。				
学習・教育目標	受講生が学校図書館メディアについて自分なりの考えをまとめていく機会を持てるよう授業を構成し、以下のような目標を達成する。 (1) 学校図書館メディアに関わる基本的な知識を修得する。 (2) 学校図書館メディアに関わる様々な資料から学校図書館の持つ課題を理解し、司書教諭の役割と結びつけて考えられるようになる。				
授業計画	(1) 学校図書館メディアの構成、メディア専門職としての司書教諭 (2) メディアの種類、メディアにかかわる情報源 (3) コレクション形成の方針 (4) コレクション形成の計画 (5) メディアへのアクセス支援 (6) 学校図書館メディアの組織化① (7) 学校図書館メディアの組織化② (8) 学校図書館メディアの組織化③ (9) 学校図書館メディアの組織化④ (10) 学校図書館メディアの組織化⑤				
成績評価の方法	授業の進行に合わせて出題する数回のレポートを中心に、受講態度なども考慮し、総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業時に紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	司書教諭科目を全て履修することが望ましい。 履修希望者が 100 名を超える場合は、初回に受講調整を行います。				
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等					

P42 4401

P52 1201

読書と豊かな人間性

Reading and Human Development

学期曜時限	2 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	鈴木 佳苗	オフィスアワー と研究室	月 4 限 7D112		
授業概要	読書は、児童・生徒の学力や社会性の発達を促すものとして期待されており、学校教育、社会教育の中でも読書活動が推進されている。本講義では、児童・生徒の読書の現状、学校や公共図書館での読書活動の実態、読書と児童・生徒の発達に関する理論、発達段階に応じた読書指導読書活動の方法について概説する。また、学校や公共図書館での具体的な読書活動の実践についても紹介する。				
学習・教育目標	・児童・生徒の読書の現状、学校や公共図書館での読書活動の実態を理解する ・読書と児童・生徒の発達に関する理論についての理解を深める ・発達段階に即した読書指導や読書活動の工夫について考える				
授業計画	授業では、以下の順番に基づいて説明する。 1. 読書の意義と目的 2. 児童・生徒の読書の現状 3. 児童・生徒への読書の影響 4. 読書活動の方法 -1 5. 読書活動の方法 -2 ・読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク ・朝の 10 分間読書 6. 学校図書館における読書活動の実践 7. 公共図書館における読書活動の実践 8. 発達段階に応じた読書指導と計画 ・読書興味の発達 ・読書能力の発達 9. 児童・生徒向けの図書資料 ・各種図書資料 ・図書資料の評価 10. 読書環境の整備と読書活動の推進 ・学校図書館での読書環境の整備 ・家庭・公共図書館・地域関連機関との連携と協力				
成績評価の方法	試験、授業中の課題、出席状況により総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料を配布する。 参考書：「新学校図書館学」編集委員会編『読書と豊かな人間性』，全国学校図書館協議会，2006 『読書と豊かな人間性』，朝比奈大作著，樹村房，2002. 『児童図書館サービス論（新訂版）』 赤星隆子・荒井督子編著，理想社，2009.				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	履修希望者が 100 名を超える場合は、初回に受講調整を行います。				
授業外の学習内容・方法	授業後に発展的な学習ができるように、授業中に参考文献を紹介する。				
備考 講義のホームページ等					

P42 4501

P52 1301

情報メディアの活用

Use of Information Media

学期曜時限	1 学期 木曜日 5・6 限	教室	7A106 7C102	3 年	2 単位
担当教員	大澤 文人	オフィスアワー と研究室	火 11:00～12:00 7D115		
授業概要	今日では、学校図書館が所蔵する活字メディアや視聴覚メディア、教育用ソフトウェアなどに加えて、外部のデータベースやインターネット情報資源から多種多様な情報メディアが利用可能であるが、それぞれの特性を踏まえながら、これらを教育の現場で活用していく方法を解説する。				
学習・教育目標	各種メディアの特性を理解し、さらに、メディア教育の場で利用できるコンピュータ活用に関する知識の習得を目標とする。				
授業計画	1. 情報社会と情報メディア 2. 情報メディアの歴史 3. 教育と情報メディア 4. 学校図書館と情報メディア 5. 情報検索とデータベース 6. 図書館資料の検索 7. 情報リテラシーとメディアリテラシー 8. 教育の情報化 9. 学校図書館と著作権 10. 情報倫理とフィルタリング、コンピュータの基礎知識、インターネットセキュリティ				
成績評価の方法	出席（50％）、レポート課題（50％）による。				
教材・教科書・参考書等	参考書：「情報メディアの活用と展開（学校図書館図解・演習シリーズ）」中山 伸一 青弓社				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	司書教諭科目をすべて履修することが望ましい。また、何れかの教科教育法を履修中であることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	毎回、A4 判 1 枚のレポートを課します。				
備考 講義のホームページ等					

P42 4622

P52 5722

専門外国語Ⅲ-2A

English for Specialized Subjects III-2A

学期曜時限	1・2 学期 金曜日 4 時限	教室	7A103	3 年	2 単位
担当教員	芳鐘 冬樹 上保 秀夫	オフィスアワー と研究室	金 3 限 7D414 木 4・5 限 7D408		
授業概要	1 学期 専門科目や卒業研究に必要な英語読解力を専門書の講読等を通じて習得する。 図書館情報学分野の英語で書かれた学術雑誌の論文を教材として用いる。学術論文は特有の構成を持つ文章であるので、まずそれを踏まえた理解の方法について解説する。 2 学期 本講義では、主に口頭発表の動画を構成別に視聴することで、英語のプレゼンテーションから専門知識を習得する方法を学ぶ。				
学習・教育目標	● 英語で書かれた学術論文を理解できる読解力を身に付ける。 ● 国際会議の口頭発表やチュートリアルの内容が理解できる。 ● 英語のリスニング能力を向上させる。 ● 今後の英語学習の具体的な目標を立てられる。				
授業計画	1 学期 1. ガイダンス：授業の進め方 2. 学術論文の読み方，図書館情報学分野の英語雑誌の解説 3. 輪読による発表とそれに基づく議論と解説，小テスト（全 9 回） 4. 1 学期のまとめ（最終回の最後に） 2 学期 5. ガイダンス 6. テーマ、ストーリー、メッセージの理解（第 1 回） 7. 英語字幕作成（第 1 回） 8. テーマ、ストーリー、メッセージの理解（第 2 回） 9. 英語字幕作成（第 2 回） 10. テーマ、ストーリー、メッセージの理解（第 3 回） 11. 英語字幕作成（第 3 回） 12. テーマ、ストーリー、メッセージの理解（第 4 回） 13. 英語字幕作成（第 4 回） 14. まとめ				
成績評価の方法	1 学期：輪読の発表を 55%，小テストを 45%として総合的に判定する。 2 学期：期末試験に代え、試験週間の月・火・金の各 5・6 限に TOEIC-IP を実施する。受講者はいずれかの試験日（原則として受講曜日）に受検すること。 成績は TOEIC-IP のスコア（50%）と出席票のコメント（50%）を元に評価する。				
教材・教科書・参考書等	授業時間に提示する。英和辞典は各自が用意すること。				
授業外の学習内容・方法	各回の発表者は、予め分担論文を日本語に訳したレポートを作成する（全訳・逐語訳である必要はなく自分の理解に基づいて概要をまとめたものを作成すること）。発表者以外も、発表内容に関する議論に加われるように論文を読んでおくこと。				
備考	講義のホームページ等				

P42 4642

専門外国語Ⅲ-2B

P52 5742

English for Specialized Subjects III -2B

学期曜時限	1・2 学期 月曜日 4 時限	教室	7A103	3 年	2 単位
担当教員	若林 啓	オフィスアワー と研究室	水 5・6 限 7D207		
授業概要	専門科目の理解に必要な英語文章読解力を得るためには、英語で書かれた文章を日本語に訳して理解するのではなく、英語の文章のままで理解する方法を習得することが一番役に立つ。また、専門分野の文章を理解するには専門用語の理解が欠かせないため、専門用語を英語のままで理解するための基本的枠組みを習得する。この 2 つの方針に基づいて、英語で書かれた教科書、解説、原著論文を読んで理解する練習を各自が行う。教科書、解説、原著論文は石塚が選ぶ。				
学習・教育目標	・専門科目に関する基本的な内容を英語の文章のままで理解する方法を習得する。 ・英語の語彙の意味論のごく基本の考え方を習得することによって、専門用語と一般用語との相違点、専門用語の意味の基本的枠組みを理解する。 ・教科書レベルを超える専門知識を英語の文章のままで理解するための基本的方法を知り、またその方法を行うために必要な能力を習得する。				
授業計画	1. はじめに この科目の目的、専門英語が必要な理由、一般の文章と専門分野の文章は別世界、翻訳と理解も別世界、本科目内容の概要 2. 言語（日本語と英語）とその背景に在る「常識」「ものの考え方」 3. 英語の枠組み：term, syntax, semantics 4. 英語の語彙の意味論のごく基本の考え方を習得することによって、専門用語と一般用語との相違点、専門用語の意味の基本的枠組みを理解する。 5. 専門分野の文献：教科書、解説、論文の共通点、相違点 6. ～ 9. 教科書を読んで理解する練習 (1), (2), (3), (4) 10. 教科書を読んで理解する練習 (5), 1 学期の授業のまとめ 11. 2 学期の授業に関する基本的な考え方と授業の枠組み 12. ～13. 専門分野の最新の情報や知識を得て内容を理解するにはどうすれば良いか？ 14. ～16. 解説を読んで理解する練習 17. ～19. 解説の関連文献：原著論文、他の解説、教科書を読んで互いの役割を理解する練習 20. 解説を読んで理解する練習 (4), 本授業のまとめ				
成績評価の方法	期末試験の成績による。試験問題の出題、採点の際は上記の学習・教育目標を重視する。 2 学期の期末試験に代え、試験週間の月・火・金の各 5・6 限に TOEIC-IP を実施する。受講者はいずれかの試験日（原則として受講曜日）に受検すること。				
教材・教科書・参考書等	教科書・参考書は使用しない。必要に応じて、資料を配布する。 辞書は各自が用意する。辞書は語源または原義が乗っている英和中辞典クラスのもの（電子辞書でよい）が良い。英英辞書でも可。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	2 年次以下の履修を認めない				
授業外の学習内容・方法	講義ノート、配布資料などをよく復習すること				
備考 講義のホームページ等					

P42 4652

P52 5752

専門外国語Ⅲ-2C

English for Specialized Subjects III-2C

学期曜時限	1・2 学期 火曜日 4 時限	教室	7A103	3 年	2 単位
担当教員	松縄 正登 村井 麻衣子	オフィスアワー と研究室	火 15:15～16:15 7D502 木 15:00～16:00 7D506		
授業概要	専門科目や卒業研究に必要なとなる英語読解力を，専門書の購読などを通じて習得することを目的とする。				
学習・教育目標	本講義では，下記のような知識やスキルを身につけることを目標とする。 1. 英語の専門書や論文を読む上で必要な知識・スキル 2. 国際的な活動のために求められる英語の読解力 3. 英語で書かれた専門書の概要を把握するスキル 4. 専門用語に関する知識				
授業計画	1. 専門用語の習得 2. 専門書の精読				
成績評価の方法	1 学期の成績は課題，小テスト，授業態度等によって，総合的に決定する。 2 学期の期末試験に代え、試験週間の月・火・金の各 5・6 限に TOEIC-IP を実施する。受講者はいずれかの試験日（原則として受講曜日）に受検すること。 2 学期の成績は TOEIC-IP のスコアと課題，小テスト，授業態度等によって，総合的に決定する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は，プリントとして適宜配布する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	なし				
授業外の学習内容・方法	専門用語などについての小テストを行うので，必ず復習すること。 事前に配布された課題については，予習しておくこと。 授業には，辞書を携帯すること。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A105 7C103	3 年	2 単位
担当教員	岩澤 まり子	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D304		
授業概要	医療に関わる情報の発生、蓄積、提供、検索、分析について講義する。 はじめに研究デザイン等の医学研究における基礎知識、さらにこれらの研究成果を蓄積する方法について講義する。とくに用語の標準化並びにシソーラスを使用した用語の統制について、その特徴を解説する。また根拠に基づく医療を実現するための「科学的な根拠」に着目し、その提供および検索方法について解説する。				
学習・教育目標	医療に関わる情報の発生、蓄積、提供、検索、分析について理解し、科学的な根拠を有する情報を検索・選択するための基礎知識を獲得することを目標とする。				
授業計画	医療情報に関する講義を行なうとともに、医療情報を提供するデータベースを使用した検索演習を行なう。 1. 医学研究と医療情報 2. 研究デザイン 3. 情報の蓄積と索引、標準化 4. シソーラスの構成・機能 5. 医学中央雑誌データベース＜演習＞ 6. J MED Plus データベース＜演習＞ 7. MEDLINE データベース＜演習＞ 8. MeSH と MEDLINE データベース＜演習＞ 9. 根拠に基づく医療と情報 10. 患者と医療情報				
成績評価の方法	出席状況、検索演習に関わるレポートおよび学期末試験により、総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料は、プリントとして配布する。また参考書は、授業の中で紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「情報検索論」の単位取得者に限る。				
授業外の学習内容・方法	復習を行ない、理解できなかった点を明らかにして、授業に出席して下さい。検索演習をはさんで授業を行ないますので、検索演習を通じて知識の再確認を行なって下さい。時間内に検索が終了しなかった場合は、宿題として課すことがあります。				
備考 講義のホームページ等					

P42 5501

P52 2601

メタデータ

Metadata

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7C103	3 年	2 単位
担当教員	鈴木 伸崇	オフィスアワー と研究室	金 6 限 7D204		
授業概要	本講義の前半では、データの表現について、XML のデータモデルとスキーマ言語、メタデータの基礎とその記述方法などについて説明する。後半では、データの処理に関して、まず XPath のデータモデルについて説明した後、XPath や XQuery による XML データの検索・加工に関して述べる。				
学習・教育目標	1. XML のデータモデルを理解する 2. メタデータの基礎を理解する 3. XML の検索言語を習得する				
授業計画	1. 前半：データの表現(5 回) - XML データの基礎 - XML のスキーマ言語(DTD, XML Schema) - メタデータの基礎 - RDF によるメタデータの記述 2. 後半：データの処理(4 回) - XPath のデータモデル - XPath による XML データの検索 - XQuery による XML データの処理 3. 予備(1 回)				
成績評価の方法	出席状況・小テスト(30%)およびレポート(70%)				
教材・教科書・参考書等	授業時に資料を配布する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法	配布資料をよく読み、内容の理解に努める必要がある。また、授業時に課題を指示する。				
備考 講義のホームページ等					

P42 5601

P52 2701

コンテンツ表現と形成の技術

Contents Representation and Formation

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A106	3 年	2 単位
担当教員	西岡 貞一	オフィスアワー と研究室	随時 7D501		
授業概要	コンピュータは感動を伝えたり深い理解を生み出すためのメディアとして使われている。 本講義ではメディアとしてのコンピュータが取り扱うコンテンツ（情報の中身）を産業的な視点から議論する。映画、放送における開発事例を中心にコンテンツの企画や制作について概説する。				
学習・教育目標	コンテンツの概念や意味を理解する。 コンピュータを応用し新しいコンテンツ表現を考案する方法論を身につける。 研究テーマ設定に必要な、未来のメディア環境を学ぶ。				
授業計画	1. コンテンツの定義 ビジネス, 表現, 技術 2. コンテンツビジネス コンテンツ産業動向, クロスメディア 3. コンテンツ産業を支える技術 Digital Cinema, Color Management System 4. コンテンツ制作とプロデューサー コンテンツ制作のワークフロー, プロデューサーの仕事 5. コンテンツの過去・現在・未来 ヴィンテージ・コンテンツ, テクノロジー・ロードマップ 6. コンテンツ分野の人材育成 創造性育成のためのクリエイティブ・ワークショップ メディア・リテラシー 7. コンテンツ制作研究 Emerging Technology, コンテンツ論文 8. 次世代コンテンツⅠ バーチャルリアリティを用いた文化の可視化, Museum Informatics 9. 次世代コンテンツⅡ ユビキタス・コンピューティング, 屋外型メディア 10. まとめ, レポート課題説明				
成績評価の方法	講義毎のミニレポートと, 学期末の課題レポートを基に総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	・「デジタル・ストーリーテリング」ジャネット・H・マーレー (国文社) ・「デジタルコンテンツ白書」2005 年 デジタルコンテンツ協会編 ・「2006 年版情報メディア白書」電通総研編 (ダイヤモンド社) ・「表現のビジネス」濱野保樹 (東京大学出版会) ・「変貌するコンテンツ・ビジネス」総務省情報通信政策研究所 (東洋経済新聞社) ・「コンテンツ・ビジネスが地域を変える」長谷川文雄・水島川和夫 (N T T 出版) ・「映像コンテンツ産業の政策と経営」山崎茂雄 (中央経済社)				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等					

P42 5701

P52 2801

経営情報システム

Management Information System

学期曜時限	2 学期 集中 (9/1, 8, 15, 29 の 1～5 限)	教室	7A208	3 年	2 単位
担当教員	岩丸 良明	オフィスアワー と研究室	—		
授業概要	企業や組織がどのように情報技術 (IT) を活用しているかについて、事例を参考にしながら学習する。企業や組織が基本的に備えておくべき経営管理機能やそれを支援する情報システム (IS) と、ネットワークを活用した情報システムについて学習する。 情報の活用が進めば進むほど、情報の取扱い方が大切になってくる。個人情報保護と情報セキュリティを中心にした課題について確認し、対応について考える。 情報システムを職業とする人々 (専門家) への期待・役割と人材像, 専門家としての法と倫理などについて確認する。また、今後、情報システムの専門家として一層の自己研鑽, 継続学習を続けていくための指針について確認し、講義のまとめとする。				
学習・教育目標	経営の観点から見た情報システムの概要を理解する。 経営にかかわる情報システムの概要と、その具体例として、身近な小売業で POS (販売時点管理) システムがどのように使われているか、どのようなことを狙って導入されているかを学ぶ。企業経営の視点から情報システムへの期待を実感するとともに、POS で集めた情報をどのように加工して経営に活用していくか、そのためには何が必要かを学習する。 また、政府の電子政府構築や業務・システム最適化への取り組み、インターネットを活用した e ビジネス、顧客情報の効果的な活用とそれに関連する課題と対応などについても学習する。				
授業計画	4 日間の集中講義とし、試験は日を改めて行う。講義の予定は概ね次のとおり。: ・ 第 1 日 ①オリエンテーション、②社会と情報システム、③経営管理と情報システム、④流通情報システム ・ 第 2 日 ⑤社会の中の情報システム、⑥データの有効活用、⑦銀行の情報システム、⑧情報サービス産業 ・ 第 3 日 ⑨電子政府、⑩情報システムの計画・構築・運用の手順、⑪インターネットと電子認証、⑫個人情報保護 ・ 第 4 日 ⑬情報化と知的財産、⑭情報システム専門家の倫理・法、⑮情報システム専門家の自己研鑽、⑯まとめ				
成績評価の方法	・ 平常点 (出席状況および授業への参加度等)、レポート (2 回予定)、試験の結果を総合的に評価する。平常点並びにレポートが約 50%, 試験が約 50%の重みを持つ。 ・ 総合点 60 点以上を合格とする。				
教材・教科書・参考書等	教科書は使用せず、プレゼンテーション用の資料を提示する。 参考書は、プレゼンテーション用の資料に記載する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし。				
授業外の学習内容・方法	社会の動きに敏感になってもらうため、新聞 (紙) を読んで情報システムについて論じる報告課題を出題する。				
備考 講義のホームページ等	本科目は経営学(Management Science)分野の科目である。				

P42 5801

P52 2901

情報サービスシステム

Information Service Systems

学期曜時限	1 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7C102 7B206	3 年	2 単位
担当教員	松村 敦	オフィスアワー と研究室	木 6 限 7D212		
授業概要	インターネット上で運用されている様々な情報サービスシステムを実際に体験しながら、その仕組みと効果を理解する。特に、利用者の視点に立ち、よりよい情報サービスシステムのあり方について考察する。				
学習・教育目標	・ 現在ある情報サービスシステムを構成する情報処理技術を理解する。 ・ 利用者にあったサービスを多面的に設計していく能力を磨く。				
授業計画	・ 情報サービスシステムについて ・ 情報サービスシステムの種類 ・ 情報サービスシステムの技術 ・ 情報サービスシステムの例 ・ 利用者の思考とシステム設計者の思考 ・ 利用者のための情報サービスシステムとは				
成績評価の方法	複数回出題する課題を総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	特になし。参考情報等は適宜 Web 上に掲載する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	・ 授業中に出題する課題を行う。 ・ 実際の情報サービスシステムを積極的に利用し、情報サービスについて考える。				
備考 講義のホームページ等	講義補助のための Web ページ： http://klis.tsukuba.ac.jp/klib/ 初回は 7C102 集合				

P42 6106

P52 3201

学術情報システム

Academic Information Systems

学期曜時限	3 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A105	3 年	2 単位
担当教員	宇陀 則彦	オフィスアワー と研究室	水 2 限 7D210		
授業概要	ディジタルライブラリが包含する世界、すなわち、電子図書館、電子文書館、電子美術館、電子博物館について、主にサービスの視点から解説する。特に、電子サービスが最も高度化している学術情報サービスを題材に、技術とマネジメントの両面から論じる。クライマックスは筑波大学附属図書館が提供する電子図書館 TULIPS の裏側を知ることができることであり、欧米の電子図書館と比較して、どのくらいのレベルにあるのかを知ることができる。				
学習・教育目標	● 図書館サービスにおける電子図書館の位置づけが理解できる。 ● インターネットにおける電子図書館の位置づけが理解できる。 ● 電子図書館は資料を単純に電子化したものでないことが理解できる。 ● 電子図書館は単なるホームページでないことが理解できる。 ● 電子図書館はシステムの側面よりサービスの側面が強いことが理解できる。				
授業計画	1. 電子図書館の歴史とその影響 ―図書館業務システムから電子図書館システムへー 2. Web2.0 と Library2.0 の世界 ―Google と図書館 ― 3. ドキュメントデリバリの変革 ―電子ジャーナルとリンキングシステムー 4. 機関リポジトリ ―図書館の逆襲あるいは幻想ー 5. 電子図書館のデザイン (1) ―図書館ポータルの限界ー 6. 電子図書館のデザイン (2) ―電子図書館の評価ー 7. 知的生産環境としての電子図書館 ―非定型学習とオープンコースウェアー 8. デジタルアーカイブ ―その似て非なるものー 9. 文化情報資源の共有化 ―メタデータの多様化ー 10. 電子図書館マネジメント ―知識創造型図書館に向けた経営戦略ー				
成績評価の方法	レポート				
教材・教科書・参考書等	資料を配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	様々なディジタルライブラリを観察し、評価すること。他の授業との関連を図にすること。				
備考 講義のホームページ等	講義のページ http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~uda/lecture/ 初回は 7A105 集合				

P42 6201

P52 3301

テキスト処理

Text Processing

学期曜時限	1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A101 7C103	3 年	2 単位
担当教員	佐藤 哲司	オフィスアワー と研究室	水 7 限 7D205		
授業概要	電子出版，ウェブでの情報発信など，デジタル化によって書籍の出版・流通・利用の形態が大きく変容してきている状況を視野に入れ，編集や検索，翻訳など，テキストを有効利用するための要素となるテキスト処理技術と，これらの技術を応用した様々なシステムについて理解を深めます．				
学習・教育目標	テキスト処理の要素技術を習得し，様々なシステムの中で実現されている機能を理解することで，テキストの作成・管理・流通を効率よく行う基礎知識を習得する．より高度なテキスト処理技術への発展や，新規な機能を有するシステムを研究開発するための基本スキルを身につけことを目標とします．				
授業計画	(1) ガイダンス (2) 文字コードの成り立ちとコード変換 (3) 統計的性質と文字コード識別 (4) テキストの構造理解・形態素解析 (5) テキスト流通とデスクトップパブリッシング (6) 文書の構造化 (7) 正規表現と文字列照合 (8) 文字列照合の高速化アルゴリズム (9) 文書からの索引構成法 (10) 文書の特徴量と文書間の類似性判別				
成績評価の方法	筆記試験・受講状況などによる総合評価．				
教材・教科書・参考書等	主要部分についてテキストを配布します（配布方法は備考欄を参照のこと）． 参考書：情報検索アルゴリズム，北研二 他著，共立出版				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	各回の講義後半は演習問題に取り組みます．講義時間中には解法の筋道を示すことに重点を置くので，授業外の時間を活用して具体的なデータで実践してください．				
備考 講義のホームページ等	講義で使用するテキストは http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~satoh/index-j.html から迎れるようにしますので，各自で所定の様式に印刷して持参してください．詳細は第 1 回に説明します（7A101 集合）．				

P42 6401

P52 4201

情報デザイン

Information Design

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A101 7C102	3 年	2 単位
担当教員	時井 真紀	オフィスアワー と研究室	火 5・6 限 7D203		
授業概要	人間とマシンの間でのコミュニケーションをいかに人間にとってわかりやすくするかについて概説する。たとえば、様々な観測、計算等から得られた数値データは、グラフや画像として可視化することによって、はじめてそのデータの中に潜む情報が直観的に読み取れるようになる。また、グラフィカルなユーザインタフェースを用いることによって、人とマシン間の情報の取得と提供をスムーズに行うことができる。このようなグラフィックスを用いた技術について概説する。				
学習・教育目標	データの可視化技術について学び、主として数値データを可視化する技術を身につける。 サービスを提供するためのシステムにおけるユーザインタフェースの役割について学び、作成する技術を身につける。				
授業計画	1. 数値データの可視化技術の紹介 2-4. (演習) 数値データの可視化 ● 数学ソフト Mathematica, gnuplot を使い、様々なグラフを作成し、数値データを視覚化する 5-6. グラフィカルなユーザインタフェースの紹介 ● インターフェイスの役割を考える 7-10. (演習) GUI の作成、評価実験				
成績評価の方法	授業中の課題とレポートを総合して評価する				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて教材としてプリントを配布する				
履修要件 前提知識、他科目との関連等					
授業外の学習内容・方法	配布した資料の復習とレポート課題				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A101 集合				

P42 6501

P52 4301

デジタルドキュメント

Digital Documents

学期曜時限	2 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A106	3 年	2 単位
担当教員	松村 敦 宇陀 則彦	オフィスアワー と研究室	木 6 限 7D212 水 2 限 7D210		
授業概要	デジタルドキュメントとしては PDF, Web ページ, CD-ROM による電子本などがある。この講義ではそれらのデジタルコンテンツを紹介し, その特徴と構成・機能・手法を説明する。また, デジタルドキュメントの基盤となる文書構造(ドキュメント構造)の概念を解説し, ドキュメント構造の表現手法であり, ドキュメント・データベースの技術でもある XML(Extensible Markup Language)による記述について解説する。そして, デジタルライブラリや電子出版との関係も明らかにする。				
学習・教育目標	デジタルドキュメントに関する以下の事項を理解する。 ・ドキュメントの構造とその表現手法 ・デジタルドキュメントの構成と機能 ・デジタルドキュメントの構築とその技術 ・デジタルライブラリにおけるデジタルドキュメントの位置づけ				
授業計画	1. はじめに デジタルドキュメントとは, 電子出版との関係, デジタルライブラリとの関係 2. 各種デジタルドキュメント その特徴と機能, デジタルドキュメントとビューアまたはブラウザとの関係, デジタルドキュメントの構成と手法 3. 文書(ドキュメント)構造 4. ドキュメント構造の表現手法: XML 5. ドキュメント構造表現の規格: ISO 12083 6. ドキュメント構造表現の規格: TEI(Text Encoding Initiative)など 7. 電子出版 8. デジタルドキュメントの観点から見たデジタルライブラリ 9. おわりに代えて: 将来展望				
成績評価の方法	レポートによる。				
教材・教科書・参考書等	使用しない。必要に応じて, 資料を配布する。				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	2 年次以下の履修を認めない 情報基礎は履修済みであること				
授業外の学習内容・方法	講義ノート、配布資料などをよく復習すること				
備考 講義のホームページ等					

P42 6701

P52 4801

多変量解析

Multivariate Analysis

学期曜時限	3 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A103	3 年	2 単位
担当教員	田村 肇	オフィスアワー と研究室	水 10:00～11:30 7D311		
授業概要	情報社会を生き抜いていくために我々に必要となる基本的な能力の一つとして、客観的なデータに基づく分析能力がある。本授業では、データ分析に用いられる有力な手法の一つである多変量解析について解説する。授業は講義によって行うが、あまり理論的になりすぎないように配慮し、さまざまな多変量解析の手法が、現実のどのような問題にどのように適用可能であるかということの解説を中心に行う。また、分析を行う際に必要となる実証的な知識も解説する。				
学習・教育目標	なんらかの現象（特に社会現象）が、何故、どのように生じているかを客観的に記述し説明するための基礎的な知識と技術が身につく。また、分析を通じて予測を行うための能力も得ることができる。原則的に演習は行わないが、分析のためのツール（ソフトウェア）の使用方法についての解説は授業で行い、実際に課題をツールを用いて解き、レポートとして提出してもらうので、実証的なデータ分析の技術も身につく。				
授業計画	第1・2週 多変量解析を理解するために必要となる主に統計学の知識の復習 第3週 多変量解析をパソコンで行うための各種ツールの使い方の紹介 第4週 回帰分析と判別分析 第5週 主成分分析と因子分析 第6週 クラスター分析と潜在クラス分析 第7週 事例研究1（現実の問題をどのように多変量解析で分析するか） 第8週 事例研究2 第9週 より進んだ話題（アソシエーションルール） 第10週 さらに進んだ最近の話題				
成績評価の方法	成績は、レポート、試験、出席によって総合的に決定する。ウェイトはレポート50％、試験50％であり、出席は足切りに用いる。レポートはデータをコンピュータで分析し、結果をまとめてもらう。				
教材・教科書・参考書等	基本的にプリントを配布する。 参考書としては、「Rによるデータサイエンス」（金明哲著 森北出版）を紹介しておく。レポートの課題を解くときに役に立つ。その他の参考書などは授業中に紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	授業中に指定しない限り予習の必要はない。レポート課題を3～4回課す予定なので、それを作成するためかなりの労力を要すると思う。（1回15～20時間程度）				
備考 講義のホームページ等					

P42 6801

P52 4901

クラスタリング

Clustering

学期曜時限	2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A106	3 年	2 単位
担当教員	中山 伸一	オフィスアワー と研究室	月 1・2 限 7D410		
授業概要	知識を生み出すのは、人間の本質的な機能である。しかし漠然とデータを見ていても、そこに内在する関係を見いだす事は難しい。ここではデータを分析・評価する手法、およびそれから知識を創出するための様々な手法について述べる。				
学習・教育目標	・ 図表表示法の特徴を説明できる ・ 類似度と距離の概念を説明できる ・ 非階層のおよび階層的なクラスタリングを実際に行える				
授業計画	1：知識構造化とは 2：データの特性について 3：図表表示法 4：探索的データ解析 5：様々な類似度・距離の考え方 6：非階層的クラスタリング 7：階層的クラスタリング（融合法） 8：階層的クラスタリング（分裂法） 9：競合学習と自己組織化マップ 10：主成分分析と数量化Ⅲ類・Ⅳ類				
成績評価の方法	出席および授業中の作業への取り組み状況、レポート、試験をそれぞれ等価に評価する。なお、レポートは、その結果と作業内容の理解を中心に評価する。				
教材・教科書・参考書等	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書『探索的データ解析入門』渡部洋ほか著.朝倉書店, 1985. 『クラスター分析』J.A.Hartigan 著.マイクロソフトウェア, 1983. 『パターン情報処理』長尾真著.コロナ社, 1983. 『多変量統計解析法』田中豊ほか著.現代数学社, 1983.				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	各種の知識構造化の考え方について、あらかじめどのように行えば良いかを考えさせる。授業で解説した方法についての実践を授業後に行わせる。これらについては5回程度をレポートとして提出させる。				
備考 講義のホームページ等					

P42 6901

P52 5001

データマイニング

Data Mining

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A101 7C103	3 年	2 単位
担当教員	長谷川 秀彦	オフィスアワー と研究室	月 14:00～16:00 学類長室		
授業概要	大量のデータから未知の規則性を探し出すための手法として、相関ルール抽出、帰納学習などのデータマイニングの典型的な考え方と方法について学ぶ。元々、「マイニング」とは鉱脈から金などを掘り出すことを意味する言葉であり、データマイニングは、大量データの中から有用な情報を引き出す技術として、企業のマーケティングや戦略決定など様々な場面で用いられている。本講義では、基礎知識、用いられる手法、アルゴリズムなどを紹介し、実際にコンピュータ上でそれらを使って処理をすることでデータマイニングの総合的な理解を目指す。				
学習・教育目標	データマイニングに必要な基礎知識を理解する 代表的な手法の使い方を習得する コンピュータ上のソフトウェアに慣れる				
授業計画	1. データマイニングの概要（データマイニングとは何か、どのような応用例があるか） 2. データ解析の基礎（データマイニングの背景となる知識など） 3. データマイニングの手法（判別・予測するための様々な手法、高速化のアルゴリズムなど） ・クラスタリング ・決定木 ・SVM・判別分析 ・相関ルール ・帰納学習 4. 数理的手法：Latent Sematic Indexing, Page Rank 5. MATLAB を利用したコンピュータ実習				
成績評価の方法	2 回程度の課題と期末テストによって評価する 採点方針は未定				
教材・教科書・参考書等	元田浩，津本周作，山口高平，沼尾正行著，データマイニングの基礎，オーム社を参考に授業をすすめる				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	コンピュータを利用したデータ解析ができることが望ましい (Excel や MATLAB を利用したり，プログラミングをしたり，自分に合った道具が使えること)				
授業外の学習内 容・方法	課題を完成させるには，コンピュータを利用した試行錯誤が不可欠である 課題をまとめるためには，各種文献にあたらなければならない				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A101 集合				

P42 7001

P52 6001

コンテンツプロデュース論

Content Producing

学期曜時限	1 学期 金曜日 3 時限	教室	春日講堂	3 年	1 単位
担当教員	鈴木 誠一郎	オフィスアワー と研究室	木 4 限 7D514		
授業概要	マルチメディア時代におけるコンテンツ制作は映像、音声、音楽、文章などを表現手段として映画、テレビ、アニメ、携帯など様々なジャンル、表現舞台が渾然一体となって展開されます。そうしたコンテンツのプロデュースに関する基礎を学びます。又、様々なコンテンツの原点ともいべき芸術領域（絵画・写真・音楽・パフォーミングアートなど）についても考察し、コンテンツへの理解を深めます。				
学習・教育目標	コンテンツの企画や制作に必要な発想法が身につく様な講義を目指します。また講義全体を通じてコンテンツ制作には様々な共同作業者とのコミュニケーション能力が必要であることを学習します。				
授業計画	1 コンテンツの現状 2 映画、アニメ、テレビの変遷と表現（1） 3 映画、アニメ、テレビの変遷と表現（2） 4 映画、アニメ、テレビの変遷と表現（3） 5 映画、アニメ、テレビの変遷と表現（4） 6 芸術作品を読む（1） 7 芸術作品を読む（2） 8 コンテンツと風土 9 音・音楽と表現 10 イベント・空間・環境のプロデュース				
成績評価の方法	出席・レポートにより評価します。				
教材・教科書・参考書等	教科書はなし。参考資料は講義時に配布、ならびに紹介します。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等	数回に一回の割合でコンテンツ表現に関する練習テーマやリポートを課します。				

P42 7101

P52 6101

グラフィックデザインⅠ

Graphic Design I

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A106	3 年	2 単位
担当教員	金 尚泰	オフィスアワー と研究室	火 16:00～18:00 7D510		
授業概要	発信者からのメッセージをコンテンツ化し、オーディエンスに提供するだけではなく、コンテンツとオーディエンスの間にどのようなやり取りが行われるかまで含む全てのプロセスであり、ここではこれを情報デザインと位置づける。				
学習・教育目標	世の中の情報デザインコンテンツがどのように作られているかを知る。どのような技術，テクニックを使うことができるのかといった表現上のポイントだけでなく，どのような内容，方法でメッセージを表現しているかなど，デザインから見た情報コンテンツへの根本的な知見を獲得することを目標とする。これらを参考に，情報の構成を考えることで，効果の期待できる情報デザインコンテンツを目指すことが可能となる。				
授業計画	1. 〈オリエンテーション〉評価方法，ガイドライン，用語説明 2. 〈デザインと情報Ⅰ〉データ，情報，そしてナレッジグラフィックス 3. 〈デザインと情報Ⅱ〉データから情報，知識，知恵への仕組み 4. 〈デザインと情報Ⅲ〉コンテンツデザインとメッセージ 5. 〈情報と表現Ⅰ〉コンピュータメディアにおける「文，式，絵，図」 6. 〈情報と表現Ⅱ〉表現・発想の事例 7. 〈情報と表現Ⅲ〉黄金分割，色彩表現，Typography 8. 〈情報と表現Ⅳ〉スタティック（Static 静的）・ダイナミック（Dynamic 動的）デザイン 9. 〈情報と表現Ⅴ〉情報の視覚化 Information Visualization 10. 〈まとめ〉マルチダイナミックドキュメンテーション（MDD）の事例紹介				
成績評価の方法	出席とレポートにより評価する。				
教材・教科書・参考書等					
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法					
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A205	3 年	2 単位
担当教員	池内 淳	オフィスアワー と研究室	火 3・4 限 7D413		
授業概要	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説する。				
学習・教育目標	本講義を通じて、図書館サービスの基礎を理解することをめざす。				
授業計画	(1) 図書館サービスの考え方と構造 (2) 図書館サービスの変遷（図書館法制定以降） (3) 資料提供サービスの基本（利用案内・貸出・予約サービスの流れと相互の関係） (4) 情報提供の形態と機能（レファレンスサービス、情報発信、講座・セミナー） (5) 図書館サービスの連携・協力（図書館ネットワークの意義と形態） (6) 課題解決支援サービス (7) 障害者サービス (8) 高齢者サービス、多文化サービス (9) 図書館サービスと著作権 (10) 利用者に対する接遇・コミュニケーション、広報				
成績評価の方法	出席・平常点と学期末試験によって総合的に評価します。				
教材・教科書・参考書等	教科書：なし 参考書：高山正也ほか『改訂 図書館サービス論』東京，樹村房，2005，183p.（新・図書館学シリーズ 3）				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法					
備考 講義のホームページ等					

P42 7301

P52 6201

レファレンスサイエンス

Reference Science

学期曜時限	3 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A204	3 年	2 単位
担当教員	上保 秀夫	オフィスアワー と研究室	木 4・5 限 7D408		
授業概要	This course is concerned with the phenomenon of <i>guiding</i> . Guiding is a common form of knowledge sharing that can be found in our every-day life. A tour of a famous place, map in a park, menus in a web page, or doctor's medical recommendation are all instances of guiding. The success of guiding depends on an effective communication between end-users and intermediaries, appropriate organization and presentation of reference knowledge, and finally, awareness of contextual factors. This course introduces Reference Science and studies the theories and applications relevant to effective guiding.				
学習・教育目標	• Students will gain a basic understanding of scientific approaches and theories. • Students will gain an understanding of the phenomenon of guiding and implications from related areas in Knowledge and Information Sciences. • Students will develop skills to learn relevant knowledge from spoken English lectures. • Students will demonstrate a synthesized understanding of key elements in Reference Science.				
授業計画	• Course guidance • Introduction: Guiding services and applications in our daily life • Tasks: Task category, task process, task complexity • Information Need: Levels of information needs, relevance feedback, ostension • Organisation and Presentation: Classification, faceted navigation, diversity • Evaluation: Effectiveness, efficiency, usability • Personalisation and Socialisation: User profiling, recommendation, networking • Group Dynamics: Collaboration, social loafing, division of labour • Context: Context-aware services and applications • Wrap-up: Summary and Q&A				
成績評価の方法	Lecture reports (70%) and term-end report (30%).				
教材・教科書・参考書等	Textbook: None. Relevant material will be available in each lecture. Reference book: Ingwersen and Järvelin. <i>The Turn: Integration of Information Seeking and Retrieval in Context</i> . Springer. 2005. (訳書『情報検索の転回』、丸善、2008)				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	Reference Science: Try to find examples of guiding services and applications in your day-to-day life and consider 1) what sort of knowledge enables it and 2) how you would improve it. Learning skills: Watch the videos available from iTunes U, videolectures.net, or academicearth.org at least once a week to improve your skills to gain new knowledge from spoken English contents.				
備考 講義のホームページ等	Lectures are conducted in English.				

学期曜時限	2 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7C102	3 年	2 単位
担当教員	村井 麻衣子	オフィスアワー と研究室	木 15:00-16:00 7D506		
授業概要	ネットワーク社会における著作権を中心に、知的財産権全般について学ぶとともに、図書館活動や各種の情報活動の観点から、知的財産権が持つ意義について学ぶ。主に著作権法に関連する判決や論点等について調査・検討を行うことにより、知的財産法の理解を深め、自分なりの見解を構築することを目指す。受講人数に応じて、個人またはグループでの研究、発表を行う予定。				
学習・教育目標	・ 知的財産法についての基礎的な知識を確認する。 ・ 知的財産に関する判決・文献等に触れ、内容を理解する。 ・ 知的財産に関わる諸問題について、自ら検討を行う。				
授業計画	1 知的財産概論の復習：著作権法の概要 2 判決の割り当て 1、知的財産法の調べ方：判決や評釈について 3 調査・研究、資料作成 1－1 4 調査・研究、資料作成 1－2 5 発表会 1－1 6 発表会 1－2 7 判決の割り当て 2、調査・研究、資料作成 2－1 8 調査・研究、資料作成 2－2 9 発表会 2－1 10 発表会 2－2				
成績評価の方法	主に、研究発表・出席により成績評価を行う予定。				
教材・教科書・参考書等	参考書：『著作権判例百選』（有斐閣）他（授業時に指示します。） （知的財産概論の教科書（六法、田村善之『知的財産法』を持っている場合は、参照すること。）				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「知的財産概論」の単位を修得済みであること。 （単位未修得の場合、レポートの提出が必要になります。事前に相談してください。） 「情報社会と法制度」を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	発表の準備を十分に行うこと：判決や評釈・論文・概説書等の文献の購読・内容理解、関連する論点の検討、発表資料の作成等				
備考 講義のホームページ等	第二回目に受講人数に応じてグループ分け、及び担当判決の割り当てをする予定のため、第一回・第二回には、必ず出席してください。				

学期曜時限	3 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7C103	3 年	2 単位
担当教員	松縄 正登	オフィスアワー と研究室	木 15:15～16:15 7D502		
授業概要	知的財産法に対する理解を深め、知的財産権に関する具体的な見解を構築することを目指す。特許法を中心とした産業財産権法に関する講義のほか、例題、事例、判決等を題材とした検討を行う。必要に応じて、事例等に関する研究発表を行う。				
学習・教育目標	- 知的財産法についての知識の確認を行う。 - 知的財産権がもつ意義を学ぶ。 - 知的財産に関する事例等について考察し、問題解決能力を身につける。				
授業計画	- 知的財産法総論 （権利の主体、保護の対象と手法、一般不法行為による保護の可能性、正当化根拠等） - 知的財産権・特許権の概要 - 特許法各論（1）（出願手続等） - 特許法各論（2）（審査・審判手続） - 特許法各論（3）（事例研究・判例紹介） - 特許管理 - 特許情報検索 - 知的財産法（事例研究等）				
成績評価の方法	課題レポート（内容による評価）他（70%）、出席（30%）				
教材・教科書・参考書等	教科書：教材は、授業時に提示する。 参考書：小泉直樹等編、ケースブック知的財産法 第2版、弘文堂、2008 判例六法、有斐閣、2012 青山紘一、特許法 第12版、法学書院、2010 青山紘一、不正競争防止法 第5版、法学書院、2009 中山信弘、特許法、弘文堂、2010 松縄正登、特許審判－法理と実務－、朝倉書店、2008 工業所有権法逐条解説（18版）、発明協会				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	「知的財産のしくみ：特許編（総合科目）」「知的財産概論」「知的財産権論A」ほか、知的財産法関係の科目を履修していることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	（1）参考書等で、内容を把握すること。 （2）授業で行った内容を復習すること。 （3）判決は原文を読んで理解を深めること。 （4） 適時、特許庁HP等を閲覧して、特・実審査基準、審判便覧等を参照すること。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A205	2 年	2 単位
担当教員	阪口 哲男	オフィスアワー と研究室	火 5 限 7D312		
授業概要	コンピュータシステムとネットワークについてその基本構成と動作原理について学ぶ。コンピュータシステムのハードウェア構成要素の概要を示し、それと関連付けながらプログラムやデータ等のソフトウェアについて解説する。またネットワークについてはインターネットを事例とし、コンピュータシステム間のデータ送受の基本的な手順とそのための通信規約の役割について概説する。そして総括としてコンピュータシステムとネットワークを組み合わせた活用事例を紹介する。				
学習・教育目標	以下の事項に関する基本原理と実際について理解する。 ・ コンピュータのハードウェア構成 ・ コンピュータソフトウェア ・ コンピュータネットワークとプロトコル(通信規約)				
授業計画	1. コンピュータの基本構成 2. コンピュータにおける情報の表現とその処理 3. 記憶装置と入出力装置 4. ソフトウェア 5. コンピュータネットワークとプロトコル 6. インターネットとは 7. ネットワーク事例: WWW と電子メール 8. セキュリティなど諸問題				
成績評価の方法	筆記試験				
教材・教科書・参考書等	教科書: 趙華安 著. コンピュータとネットワーク概論. 共立出版. ISBN 4-320-12148-1. 補足資料は随時配布する				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	情報基礎、情報基礎実習、プログラミング演習ⅠおよびⅡについての履修を終えていることを前提として授業を進める				
授業外の学習内容・方法	教科書のほかに授業内容に関する有益な情報資源を紹介し、各自の予習復習を促す。				
備考 講義のホームページ等	講義情報 Web ページ: http://www.sakalab.org/lectures/				

学期曜時限	2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A204	2 年	2 単位
担当教員	森継 修一	オフィスアワー と研究室	火 18:00～19:30 7D214		
授業概要	知識情報システム構築の基礎となる基本的なデータ構造とアルゴリズムについて解説する。 コンピュータ科学の立場から、既修の数学的知識を活用して、効率的アルゴリズムの設計・解析・評価を行うことを目指す。				
学習・教育目標	● 基本的なアルゴリズムとデータ構造を理解する。 ● 与えられたアルゴリズムや解析手法に即したプログラミングができるようになる。 ● コンピュータ科学におけるレポートのまとめ方を身に付ける。				
授業計画	1. アルゴリズムの計算量 計算量の定義とアルゴリズムの評価・高速アルゴリズムの設計法 2. 探索アルゴリズム 2 分探索木・平衡木・B 木・ハッシュ法など。 3. 整列アルゴリズム 特に 2 次記憶上のデータのソートについて。 4. グラフのアルゴリズム オイラーグラフ／通路／回路・2 部グラフにおけるマッチング・ネットワーク 5. 多項式のアルゴリズム 多項式乗算の高速化・FFT の利用				
成績評価の方法	複数回のレポートの総合点による。 (試験でないからといって単位が保証されているわけではない。)				
教材・教科書・ 参考書等	参考書：『岩波講座ソフトウェア科学 3 アルゴリズムとデータ構造』石畑清，岩波書店(1989) 参考書：『岩波講座情報科学 11 データ管理算法』渋谷政昭・山本毅雄，岩波書店(1983) 参考書：『アルゴリズム＋データ構造＝プログラム』Niklaus Wirth, 日本コンピュータ協会(1979)				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	「基礎数学 I」「基礎数学 II」「プログラミング演習 I」「プログラミング演習 II」の単位をすべて取得済みの者に限る。				
授業外の学習内 容・方法	その日の授業内容に関連する課題を毎週示す。すべての提出を義務付けるものではないが、単位が認定されるためには、規定回数以上のレポートで合格点を取る必要がある。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A201 7C103	2 年	2 単位
担当教員	手塚 太郎	オフィスアワー と研究室	水 4・5 限 7D215		
授業概要	企業等で行われる大規模なソフトウェアの開発においては、個人で行うプログラミングとは異なった技術が必要となる。これらの技術的知識を一般化された形で扱うのがソフトウェア工学である。本授業では規模の大きいソフトウェアを設計・構築する上で重要な各種の概念・手法について講義する。取り上げる主題は、要求分析・アーキテクチャ設計・ユーザインタフェース設計・モジュール設計・プログラム検証論・プロジェクト管理等である。				
学習・教育目標	ソフトウェアを開発する上で基礎・指針となる、基礎的な考え方の理解を深める。ソフトウェアを作成するときに、どのように設計すればよいか、どのように具体化すればよいか、の考え方を身につける。本講義で学ぶソフトウェア工学の方法論は今後ソフトウェア開発を行っていく上で、また大規模ソフトウェア開発のマネジメントを行っていく上での指針となるはずである。				
授業計画	1. ソフトウェア工学の概要 2. 要求分析／構造化分析 3. オブジェクト指向分析 4. 形式的仕様記述 5. アーキテクチャ設計／ユーザインタフェース設計 6. モジュール設計 7. プログラミング 8. テストと検証／保守と再利用 9. プロジェクト管理 10. まとめ				
成績評価の方法	レポート				
教材・教科書・参考書等	授業に必要な資料を提供するが、以下の参考書を読むのも良い。 (参考書) 情報工学レクチャーシリーズ ソフトウェア工学, 高橋直久・丸山勝久, 森北出版 ; ISBN: 978-4-627-81061-7 (参考書) プログラム仕様記述論, 荒木啓二郎・張漢明, オーム社 ; ISBN: 978-4-274-13263-3 (参考書) 独習 UML 第4版, テクノロジックアート, 翔泳社 ; ISBN: 978-4-798-11854-3				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	「プログラミング演習 I」を履修していること				
授業外の学習内容・方法	授業の内容が難しいと感じた場合は参考書を読むこと。				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A201 集合				

学期曜時限	2 学期 月曜日 1・2 時限	教室	7A106 7C202	2 年	2 単位
担当教員	永森 光晴 杉本 重雄	オフィスアワー と研究室	月 4 限 7D412 木 11:00～12:00 ほか随時 7D416 (ただしメール予約を強く推奨)		
授業概要	データ交換のための表現形式として様々な分野で活用されている XML (Extensible Markup Language) の基礎と, XSLT (XML Stylesheet Language Transformations) を使った XML 文書の処理について取り上げる。理解を深めるために受講者が自ら実験できるようなプログラム例やアプリケーションソフトウェアの利用例も必要に応じて紹介する。				
学習・教育目標	- XML 文書の作成と応用 - XSLT を利用したデータ変換の基礎 - ネットワーク上で流通している XML 文書 (RSS や Atom 等) の利用 - 実際に自分で手を動かし XML 文書の変換を行う				
授業計画	1. 構造を持つデータの交換 2. XML によるデータ表現の基礎 3. XML 文書の構造の定義 4. 名前空間 5. XSLT を用いた XML 文書の操作 6. XML の応用事例 7. その他				
成績評価の方法	毎週の課題および期末レポート提出による				
教材・教科書・参考書等	講義資料は随時配布する。また, 参考書や関連文献などは講義の中で紹介する。				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	なし				
授業外の学習内容・方法					
備考 講義のホームページ等	受講人数は 70 人程度を上限とする。 初回は 7A106 集合				

学期曜時限	2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A104	2 年	2 単位
担当教員	関 洋平	オフィスアワー と研究室	水 10:30～11:45 7D213		
授業概要	検索システムを使った「調べ物」や「探し物」は今や生活の一部となっています。本講義は、必要な情報を効率良く見つけるための「情報検索システム」について基本原理から応用事例まで幅広く講義します。講義の対象は、データベースのように組織化された情報ではなく、テキストで表される日常言語です。本講義では、人間の日常言語を計算機で形式的に扱う自然言語処理や、ソーシャルメディアを対象とした情報アクセス技術についても概説します。 Web 検索エンジンはどのような仕組みで動いているのか？ 背後にはどのような理論があるのか？ 検索システムの品質はどのように評価するのか？ 情報検索システムは今後どのように発展するのか？ 本講義は、これらの疑問に対する答えを提供します。				
学習・教育目標	情報検索システムの原理，評価方法，情報アクセス技術について理解する。				
授業計画	・ 情報検索のアーキテクチャ ・ クロールとフィード ・ 索引付け/テキスト処理 (1) ・ 索引付け/テキスト処理 (2) ・ 索引によるランキング ・ クエリとインタフェース ・ 検索モデル (1) ・ 検索モデル (2) ・ 検索エンジンの評価 ・ 情報アクセス技術：ソーシャルサーチ				
成績評価の方法	筆記による中間試験と期末試験の結果を同等に考慮して成績を評価します。				
教材・教科書・参考書等	Search Engine - Information Retrieval in Practice. W. B. Croft (UMass), D. Metzler (Yahoo! Research), T. Strohman (Google Inc.), Pearson Education, 2009.				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
授業外の学習内容・方法	講義時間に説明した内容や演習問題を次回の講義までに復習する。				
備考 講義のホームページ等	http://cu.slis.tsukuba.ac.jp/~seki/irs2011/ (予定)				

学期曜時限	3 学期 金曜日 1・2 時限	教 室	7A101	2 年	2 単位
担当教員	松本 紳	オフィスアワー と研究室	月・火 10:00～11:00 7B 棟 3F 秘書室		
授業概要	図書館においても従来の冊子体の文献だけでなく、デジタルドキュメントや、CD, DVD などのマルチメディアコンテンツが扱われている。また実際に我々の生活自身にもマルチメディアは切っても切れないものとなっている。そこで、本講義では、マルチメディア工学の基礎、および実際のデジタル情報の編集加工などについて学ぶ。また、技術的側面だけでなく各種マルチメディアサービスや社会との関連についても学ぶ。				
学習・教育目標	マルチメディアを支える、いろいろなデジタル技術について、その原理等を理解するとともに実際に簡単な例題を行ってみる。また、アプリケーションなどを使い、マルチメディア処理の実際を体験する。この分野は進歩の激しい分野であるが、最新の動向なども調査し、発表を行うことで理解を深める				
授業計画	1 ガイダンス 2 マルチメディアとは 3 音声情報 4 画像情報 文字認識 5 映像情報 6 各種ファイル形式 7 関連技術 大容量記録媒体 8 インターネット上の情報 9 マルチメディアサービス 10 成果発表会（テーマを決めて最新の動向について発表する）				
成績評価の方法	レポートと試験。毎回行うクイズと出席も重視する。				
教材・教科書・参考書等	参考書：「マルチメディア ビギナーズテキスト第2版」松本紳、小高和己 東京電機大学出版局 また、必要に応じて資料を配布する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内容・方法	3 回程度の課題を課す。授業時間以外の時間に、これらの課題を行なう必要がある。				
備考 講義のホームページ等	内容は入門程度であるので、前提知識等は特に必要としない。初歩的な数式を用いることがあるが、その都度説明する。				

学期曜時限	2 学期 木曜日 5・6 時限	教室	7C102	3 年	2 単位
担当教員	中井 央	オフィスアワー と研究室	金 3 限 7D309		
授業概要	コンパイラの構成の仕方を通し、ソフトウェアの構成方法について講義を行う。また、実習室において実際にコンピュータを使用してソフトウェアの構成についての実習も行う。				
学習・教育目標	コンパイラの構成を学ぶことにより、ソフトウェアの構成の方法がわかるほか、プログラムの実行のモデルについてもわかるようになる。				
授業計画	1. 導入 2. 字句解析 3. 構文解析 4. 意味解析 5. 実行時環境 6. 仮想計算機 7. コード生成				
成績評価の方法	試験またはレポート				
教材・教科書・参考書等	授業のテキストは Web で配布予定。参考書には以下のものがある ● 「コンパイラ」、中井央、コロナ社 ● 「コンパイラ」、中田育男、オーム社 ● 「プログラミング言語処理系」、佐々政孝、岩波書店				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	プログラミング演習 I, II を履修していることが望ましい				
授業外の学習内容・方法	テキストの内容を理解するためには実際にプログラムを作成し、動かしてみることが重要であるので、授業時間内にできていない部分などは実際にプログラムの作成を行うこと。また、サンプルプログラムを入力、実行するだけではなく、プログラムを自分で作れるように練習すること。				
備考 講義のホームページ等	http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~nakai/2012/Compiler				

学期曜時限	1 学期 金曜日 1・2 時限	教室	7A101 7C103	3 年	2 単位
担当教員	阪口 哲男	オフィスアワー と研究室	火 4 限 7D312		
授業概要	現在の代表的通信ネットワークのインターネットでは、World Wide Web(Web)の機構を用いて様々な情報提供や取引、人や組織間のコミュニケーション等が行われている。Web 上で情報提供やコミュニケーションの機能を実現するためには、Web のサーバ側プログラミング技術が欠かせない。サーバ側プログラミング技術について基本原理とその実際について学ぶ。またネットワークに関わるプログラミングで重要なセキュリティ問題について解説し、事例を紹介する。必要に応じて Web クライアント(ブラウザ)側のプログラミングについても取り上げる。以上の講義内容の理解を深めるために、プログラミングを中心とした実習も行う。				
学習・教育目標	- Web サーバとサーバ側プログラミングに関する基本原理を理解する。 - Web の機構を用いて情報提供をするようなプログラムを作成できるようになる。 - ブラウザ側のプログラミングの基本原理と実際を理解する。				
授業計画	1. Web の基本原理 2. Web サーバの機能とその拡張手法 3. CGI (Common Gateway Interface)に基づくプログラミング 4. CGI プログラミングとプログラムライブラリ 5. CGI の問題と他手法(サーブレットなど)の比較 6. Web アプリケーションフレームワークとは 7. クライアント側プログラミングと Ajax, Web-API について 8. Web プログラミングとセキュリティ問題 以上について随時実習を行う				
成績評価の方法	実習のレポート(課題のプログラムが完成しているかどうかを評価する) および筆記試験				
教材・教科書・参考書等	資料を配布する。 必要に応じて参考書を随時紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	プログラミング演習 I および II は履修済みであること。 情報組織化演習も履修済みであることが望ましい。				
授業外の学習内 容・方法	プログラミング課題のレポートを出題する。課題の内容としてはサンプルに若干手を加える程度 のものを 2 回程度予定している。				
備考 講義のホームページ等	授業情報 Web ページ: http://www.sakalab.org/lectures/ 初回は 7A101 集合				

学期曜時限	2 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A207 7C103	3 年	2 単位
担当教員	鎮目 浩輔	オフィスアワー と研究室	月 5 限 7D314		
授業概要	ニューラルネット、ファジィ情報処理、遺伝的アルゴリズム等の計算パラダイムの概要及び数学的・技術的基礎を学ぶ。ニューラルネットは脳の神経回路網をヒントに発想されたもので、データから知識を獲得するアルゴリズムの基本的なもの。ファジィ情報処理は、いわゆる名人芸のような「感覚的で、正確な記述が難しい」知識を表すための手段。遺伝的アルゴリズムは生物の進化をまねて、複雑な関数の最大値を求めようというものである。量子情報処理は時間があつたら簡単に触れる程度にとどめる。				
学習・教育目標	・ 伝統的な手続き型アルゴリズムとは異なるアイデアに基づく上記の計算パラダイムについて、そのアイデアの概要を簡単なプログラム例を通して理解する。				
授業計画	1. ニューラルネット ニューロンのモデル ニューラルネットの基本：パーセプトロンとその学習 多層ニューラルネットと逆伝播法 発展 2. ファジィ情報処理 ファジィ集合とその演算、推論のファジィ化 3. 遺伝的アルゴリズム(GA) 基本的アイデア：適応度、選択、増殖の繰り返しによる最適値探索 単純 GA のプログラム例 スキーマ定理と積み木仮説 4. 量子情報処理 0 と 1 の重ね合わせ状態とその応用				
成績評価の方法	レポートを主とする。状況に応じて期末試験を行うこともありうる。				
教材・教科書・参考書等	プリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との関連等	確率統計、およびプログラミングの基礎的な知識を有すること。				
授業外の学習内容・方法	練習問題を出題するので、それをときながら復習をすること。				
備考 講義のホームページ等	初回は 7A207 集合				

学期曜時限	1 学期 木曜日 3・4 時限	教室	7A106	3 年	2 単位
担当教員	井上 智雄	オフィスアワー と研究室	月 11:30～12:30 7D505		
授業概要	コンピュータや情報機器と人間の関係を決定づける、インタフェースやインタラクションという考え方、また人間の作業やコミュニケーションなどへのコンピュータや情報機器の利用について扱う。どのように発展してきたか、何が問題なのか、問題はどのように考えられ、また解決されているのか、といった事柄について講義する。コンピュータや情報機器の、操作手法、情報の入力手法、提示手法などについて具体的手法の紹介と共に、その基礎となる考え方を説明する。				
学習・教育目標	・ 人間とコンピュータの相互作用の発展について分かる ・ 基本的なユーザインタフェース設計の原理や指針が分かる ・ コンピュータ・情報機器への情報の入力手法の基礎が分かる ・ コンピュータ・情報機器による情報の提示手法の基礎が分かる				
授業計画	1. インタラクティブシステム最前線 2. インタラクション設計のための人間の特性 3. インタラクティブシステムのデザイン 4. 入力インタフェース 5. 出力インタフェース 6. 実世界インタラクション				
成績評価の方法	出席、演習、期末試験に基づいて評価する				
教材・教科書・参考書等	授業時に紹介する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	1 学期 月曜日 5・6 時限	教室	7A106 7C202	3 年	2 単位
担当教員	田中 和世	オフィスアワー と研究室	月 7 限 7D206		
授業概要	情報伝達メディアとしての音声の性質を明らかにし、音声の生成過程の仕組みなどを平易に説明する。また、技術面では、音声波形のデジタル信号処理（音響特徴分析、情報圧縮・符号化技術）、および音声認識・音声合成など音声インタフェース関連技術の基礎について講義する。				
学習・教育目標	音声の音響音声学的特性、音声言語知覚や音声生成に関する知見や仕組みを理解する。 音声処理技術の基礎、および音声メディアのデジタル処理応用システムや音声合成・認識システムなどの仕組みや問題点を理解する。				
授業計画	1. 音声と言語（第 1 回） 音声メディアの特性と基礎知識 2. 音声の生成と知覚の仕組み（第 2 回） 人間の音声生成過程とモデル、音声知覚と聴覚特性 3. 音声信号の分析、情報圧縮と符号化（第 3～5 回） 音声信号のデジタル処理技術(実習を含む) 4. 音声合成技術（第 6 回） 音声合成システムの構成と基本技術 5. 音声認識技術（第 7～8 回） 音声認識システムの構成と基本技術 6. 音声処理技術の応用システムおよび演習（第 9～10 回）				
成績評価の方法	レポート、筆記試験、講義出席などを総合的に評価する。				
教材・教科書・参考書等	講義資料を配布する。また授業の中で内容に応じて参考書を紹介する。 講義資料は以下のURLにアクセスし各自で印刷して、授業に持参すること。 http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~ktanaka/kougi/test1.html				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	プログラミングに関する知識・経験（専門基礎科目程度）があることが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	微分・積分・行列・確率・統計などについて基礎的な知識（専門基礎科目レベル）が必要。 授業時間に練習問題や簡単な実習課題を出すので、授業の復習・次回への予習として行って来ること。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	3 学期 月曜日 3・4 時限	教室	7A105	3 年	2 単位
担当教員	小高 和己	オフィスアワー と研究室	金 7 限 7D216		
授業概要	工学的なパターン認識技術の全体像について学ぶ。パターン・カテゴリの概念，認識・学習理論，認識システムの構成法，パターン認識システムの研究開発の歴史，研究実用化を進める上での留意すべき点，などを演習・デモンストレーションを取り入れ，具体的に説明する。				
学習・教育目標	・パターンとは何か，カテゴリとは何かを理解する。 ・ベイズ識別規則など各種認識理論の基礎を理解する。 ・線形（非線形）識別関数の学習規則の枠組みを理解する。 ・特徴抽出法や認識システムの構成法について歴史を含めて具体的に理解する。 ・パターン認識技術の数理的内容をきちんと理解するとともにその本質的課題や応用上の留意点を理解する。				
授業計画	1 パターン・カテゴリ・パターン認識とは 2 パターン照合によるパターン識別 3 統計的決定によるパターン識別 4 視覚パターンの前処理 5 視覚パターンの特徴抽出 6 学習機械 7 OCR,OLCR の研究実用化の歴史 8 パターン認識システムの実例 9 認識システムの創成と本質的課題 10 机上演習・デモ				
成績評価の方法	定期試験により評価する。				
教材・教科書・参考書等	船久保登著，「パターン認識」，共立出版を教科書として使用する．その他講義において適宜指示する。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	線形代数，解析，確率と統計，の確かな理解を前提とする．プログラミング，コンピュータシステムと OS，情報理論などの知識を有することが望ましい。				
授業外の学習内容・方法	・指定された参考図書・論文・配布資料を予習・復習すること．				
備考 講義のホームページ等	講義を主とする。演習も適宜行う。 授業計画は講義内容に応じて変更することがある。				

学期曜時限	2 学期 火曜日 5・6 時限	教室	7A105	3 年	2 単位
担当教員	森田 ひろみ	オフィスアワー と研究室	随時 7D402		
授業概要	我々は、目に映ったもの全てを知覚しているわけではない。目に映ったものの中から自分にとって重要な情報だけを脳内に取り込み、表現し、適切に対処している。したがって、意識に上らずに捨てられてしまう情報も多々存在する。以上を踏まえ、「環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択的に認知し、行動につなげる」という一連の流れに関連する心的過程について、心理学的現象に基づき解説し、脳の情報処理特性についても考察する。				
学習・教育目標	普段は気がつかない、あるいはあたりまえと思っている人間（自分自身）の知覚の特性に気づくこと。その特性に深く関係する心理学的現象や実験的事実を知り、その原因となる知覚のメカニズムを理解すること。				
授業計画	1. 知覚の役割を考える—知覚の機能を失った患者が教えてくれること 2. 分析的知覚と統合的認知 3. 結合問題—なぜ正しい組み合わせを復元できるのか 4. 我々は何を見ているのか1—多義図形や両眼視野闘争の謎 5. 我々は何を見ているのか2—目に映っているのに見えないもの、見たくないのに見てしまう側面 6. 我々は何を見ているのか3—情報の取捨選択メカニズム「選択的注意」 7. 注意のモデル 8. 物体のイメージとは—視覚作業記憶 9. 知覚は行動をどう支援するのか—視覚運動性手続き記憶				
成績評価の方法	授業時間中に作成・提出するミニレポートと学期末試験により評価する予定				
教材・教科書・参考書等	教科書は指定しない。 参考書は講義の中で適宜紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
授業外の学習内 容・方法					
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A103	3 年	2 単位
担当教員	三河 正彦	オフィスアワー と研究室	木 12:15～13:30 7D201		
授業概要	知能ロボットの代表的な形態であるロボットアームと移動ロボットを中心に、機構、運動学、動力学、制御、センシング等から成るロボット工学について解説する。				
学習・教育目標	- ロボットの幾何学的関係を理解するために、2 次元および 3 次元の座標変換を習得する。 - 任意の形状のロボットアームに関する運動学、動力学を導出できるようになる。 - 移動ロボットの基礎的な制御方法をマスターする。 - ロボットに応用されるセンシング手法(特にビジョン関係)を習得する。				
授業計画	- 座標変換 - ロボットアームの機構 - ロボットアームの運動学 - ロボットアームの動力学 - 移動ロボットの機構 - 移動ロボットの行動 - 移動ロボットの制御 - センシング				
成績評価の方法	出席とレポートにより評価する。レポートは、ロボットアームに関する課題と移動ロボットに関する課題の 2 回出題し、調査内容、理解力に基づき評価する。				
教材・教科書・参考書等	最初の授業で指示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし。				
授業外の学習内 容・方法	受講開始前には三角関数および行列の復習を、受講開始後は講義内容（特に数学に関すること）の復習をおすすめる。				
備考 講義のホームページ等					

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7C102	3 年	2 単位
担当教員	森嶋 厚行	オフィスアワー と研究室	月 11:30～12:30 7D507		
授業概要	データベースシステムを実際に構築する際の諸技術と必要知識について、リレーショナルデータベースを主な対象にして、API(Application Program Interface)をとおしたアプリケーションとの連携，スキーマ定義，インデックスの利用と効果などを，演習を交えながら学ぶ。				
学習・教育目標	1. 受講者が，自力でデータベーススキーマの設計やインデックスの設定，Web-DB 連携アプリケーションの構築などを行うために必要なスキルを習得すること． 2. それらの過程で遭遇する諸問題に関して，必要な解決能力を身につけること．				
授業計画	1．リレーショナルデータベース基礎と演習環境の説明 2．SQL 言語と MySQL 処理系 3．リレーショナルデータベースのスキーマ設計 4．リレーショナルデータモデルと正規化 5．PHP 言語とデータベース 6．データベースからのデータ表示 7．データ検索と連続した処理 8．データの追加・削除・更新 9．インデックスとトランザクション 10．システム発表と相互評価				
成績評価の方法	小テスト，毎週のレポート，最終課題(データベースアプリケーション)作成，最終テスト				
教材・教科書・参考書等	教科書は適宜指示する．参考書は，(1)「データベースシステム」北川博之，昭晃堂，(2)「リレーショナルデータベース入門」増永良文，サイエンス社，など．				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	・「データベース」を履修済みであること． ・アプリケーションシステムの構築にあたり，手続き型プログラミングの知識が必要．				
授業外の学習内容・方法	最終課題に向けて，順次レポートを完成させていく．その途中経過を毎週提出する．				
備考 講義のホームページ等	演習機器の関係により，多人数の場合に履修制限をする可能性がある．				

MEMO

索 引

	氏名		職位	研究室	1学期	2学期	3学期	メールアドレス	担当科目	掲載頁
1	いけうち あつし 池内 淳	Ikeuchi Atsushi	准教授	7D413	火3・4限	火3・4限	火3・4限	atsushi@slis	経済学 情報サービス経営論	3 83
2	いしい かおり 石井 夏生利	Ishii Kaori	准教授	7D509	木5限	水4限	火5限	kaoriish@slis	法律学 ネットワーク情報法	2 55
3	いづむら ひろし 逸村 裕	Itsumura Hiroshi	教授	7D313	水1限	水1限	水1限	hits@slis	大学図書館論	43
4	いのうえ ともお 井上 智雄	Inoue Tomoo	准教授	7D505	月11:30～12:30	月11:30～12:30	月11:30～12:30	inoue@slis	マンマシンインタラクション	96
5	いわさわ まりこ 岩澤 まり子	Iwasawa Mariko	教授	7D304	水2限	水2限	水2限	miwasawa@slis	情報検索論 医療情報論 特許情報論	13 69 44
6	うえまつ さだお 植松 貞夫	Uematsu Sadao	教授	7D415	月10:30～12:00	月10:30～12:00	月10:30～12:00	uematsu@slis	図書館建築論	40
7	うだ のりひこ 宇陀 則彦	Uda Norihiko	准教授	7D210	水2限	水2限	水2限	uda@slis	図書館情報学概論 学術情報システム デジタルドキュメント	9 74 77
8	おおさわ ふみと 大澤 文人	Oosawa Fumito	助教	7D115	火11:00～12:00	火11:00～12:00	火11:00～12:00	osawa@slis	情報メディアの活用	65
9	おおば いちろう 大庭 一郎	Ohba Ichiro	講師	7D113	水2限	水2限	水2限	iohba@slis	図書館経営論I レファレンスサービス論	11 29
10	おだか かずみ 小高 和己	Odaka Kazumi	教授	7D216	火7限	金7限	金7限	odaka@slis	情報表現法 画像メディア処理	19 98
11	かわらさき まさとし 川原崎 雅敏	Kawarasaki Masatoshi	教授	7D411	金4限	金6限	月4限	mkawa@slis		
12	きむ さんて 金 尚泰	Kim Sangtae	講師	7D510	火16:00～18:00	火16:00～18:00	火16:00～18:00	pacman@slis	グラフィックデザインI	82
13	ごとう よしひろ 後藤 嘉宏	Goto Yoshihiro	教授	7D513	金2限	木2限	金2限	ygoto@slis	社会学 メディア論	4 51
14	さかぐち かつお 阪口 哲男	Sakaguchi Tetsuo	准教授	7D312	火4限	火5限	火4限	saka@slis	情報組織化演習-1,-2 ネットワークコミュニケーション ネットワークメディアシステム	31 87 94
15	さとう かつし 佐藤 哲司	Satoh Tetsuji	教授	7D205	水7限	水7限	水7限	satoh@slis	情報システム論 テキスト処理	20 75
16	さなみ ちほみ 三波 千穂美	Sannami Chihomi	講師	7D302	月13:30～16:00	月13:30～16:00	月13:30～16:00	sannami@slis	テクニカルコミュニケーション論 学校図書館メディアの構成	60 63
17	しずめ こうすけ 鎮目 浩輔	Shizume Kosuke	教授	7D314	水3限	月5限	水3限	shizume@slis	幾何学 基礎数学入門 量子情報処理	6 24 95
18	じょうほ ひでお 上保 秀夫	Joho Hideo	助教	7D408	木4・5限	木4・5限	木4・5限	hideo@slis	専門外国語III-2A レファレンスサイエンス	66 84
19	しらい かつや 白井 哲哉	Shirai Tetsuya	准教授	7D407	水2限	水2限	水2限	tetsushi@slis	記録資料入門 アーカイブ論	27 38
20	すぎもと しげお 杉本 重雄	Sugimoto Shigeo	教授	7D416	木11:00～12:00(ほか、 随時(メール予約推奨))	木11:00～12:00(ほか、 随時(メール予約推奨))	木11:00～12:00(ほか、 随時(メール予約推奨))	sugimoto@slis	マークアップ言語	90
21	すずき かなえ 鈴木 佳苗	Suzuki Kanae	准教授	7D112	木5限	月5限	月5限	kanae@slis	メディアリテラシー 読書と豊かな人間性	42 64
22	すずき せいいちろう 鈴木 誠一郎	Suzuki Seichiro	教授	7D514	木4限	木4限	木4限	ssuzuki@slis	コンテンツプロデュース論	81
23	すずき のぶたか 鈴木 伸崇	Suzuki Nobutaka	准教授	7D204	金6限	金6限	金6限	nsuzuki@slis	情報組織化演習-1,-2 メタデータ	31 70
24	せき よへい 関 洋平	Seki Yohei	助教	7D213	水10:30～11:45	水10:30～11:45	水10:30～11:45	yohei@slis	自然言語処理 情報検索システム	21 91
25	たなか かずよ 田中 和世	Tanaka Kazuyo	教授	7D206	月7限	月5限	月4限	ktanaka@slis	音声メディア処理	97
26	たむら はじめ 田村 肇	Tamura Hajime	准教授	7D311	水10:00～11:30	水10:00～11:30	水10:00～11:30	tamura@slis	統計情報と研究 多変量解析	53 78
27	つじ けいた 辻 慶太	Tsuji Keita	准教授	7D512	水12:00～13:00	水12:00～13:00	水12:00～13:00	keita@slis	レファレンスサービス演習-1,-2 用語管理論	39 46
28	てづか たろう 手塚 太郎	Taro Tezuka	准教授	7D215	月5・6限	水4・5限	水4・5限	tezuka@slis	データベース プログラミング法	18 89
29	ときい まき 時井 真紀	Tokii Maki	講師	7D203	火5限	火5・6限	火5・6限	tmaki@slis	プログラミング演習I-1,2 情報デザイン	16 76
30	としもり あつし 蔵森 敦	Toshimori Atsushi	教授	7D114	水9:30～11:30	木9:30～11:30	水9:30～11:30	tosimori@slis	コミュニケーション情報論 社会調査法	41 51
31	どんかい さおり 吞海 沙織	Donkai Saori	准教授	7D403	月5限	火5限	火5限	donkai@slis	情報組織化演習-1,-2 図書館文化史	37 52
32	なかい ひさし 中井 史	Nakai Hisashi	准教授	7D309	金3限	金3限	金3限	nakai@slis	プログラミング言語処理系	93
33	ながもり みつはる 永森 光晴	Nagamori Mitsuharu	講師	7D412	金3限	月4限	金3限	nagamori@slis	マークアップ言語	90
34	なかやま しんいち 中山 伸一	Nakayama Shin-ichi	教授	7D410	月1・2限	月4・5限	月1・2限	nakayama@slis	知識発見基礎論 クラスタリング	25 79
35	にしおか ていち 西岡 貞一	Nishioka Teichi	教授	7D501	随時(要メール予約)	随時(要メール予約)	随時(要メール予約)	nishioka@slis	コンテンツ表現と形成の技術	71
36	はせがわ ひでひこ 長谷川 秀彦	Hasegawa Hidehiko	教授	学類長室	月14:00～16:00	月14:00～16:00	月14:00～16:00	hasegawa@slis	データマイニング	80
37	はら あつゆき 原 淳之	Hara Atsuyuki	助教	7D406	火15:00～16:30	火4限	火4限	ahara@slis	西洋図書館史概論 レファレンスサービス演習-1,-2	26 39
38	ひらが ゆずる 平賀 譲	Hiraga Yuzuru	教授	7D209	水10:00～12:30	水10:00～12:30	水10:00～12:30	hiraga@slis	心理学 解析学	5 8
39	ひらく え 平久江 祐司	Hirakue Yuji	教授	7D404	火3・4限	月3・4限	月3・4限	hirakue@slis	学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館	61 62
40	ふじさわ まこと 藤澤 誠	Fujisawa Makoto	助教	7D401	月5限	月5限	月5限	fujis@slis		
41	まえしろ かつや 真栄城 哲也	Maeshiro Tetsuya	准教授	7D409	水1・2限	水1・2限	水1・2限	maeshiro@slis	プログラミング演習II-1,2 計量情報学	17 59
42	まさと しょう 松本 正登	Matsunawa Masato	教授	7D502	火15:15～16:15	月12:15～13:15	木15:15～16:15	macyu@slis	知的財産権論 専門外国語III-2C 知的財産権論B	15 68 86
43	まえばし まみこ 松林 麻実子	Matsubayashi Mamiko	講師	7D111	金4限	金4限	金4限	mamiko@slis	学術情報流通論 情報行動論	30 33
44	まつむら あつし 松村 敦	Matsumura Atsushi	助教	7D212	木6限	木6限	木6限	matsumur@slis	プログラミング演習I-1,2 プログラミング演習II-1,2 情報サービスシステム デジタルドキュメント	16 17 73 77
45	まつもと こういち 松本 浩一	Matsumoto Koichi	教授	7D301	火2限	火2限	火2限	matsuko@slis	中国図書学 漢文講読	49 50
46	まつもと しょう 松本 紳	Matsumoto Makoto	教授	系長室	月10:00～11:30	月10:00～11:30	月10:00～11:30	amy@slis	マルチメディアシステム	92
47	みかわ まさひこ 三河 正彦	Mikawa Masahiko	准教授	7D201	木12:15～13:30	木12:15～13:30	火12:15～13:30	mikawa@slis	知能ロボット	100
48	みづうら ちえこ 溝上 智恵子	Mizoue Chieko	教授	研究 科長室	金3限	金3限	金5限	mizoue@slis	教育文化政策	54

	氏名		職位	研究室	1学期	2学期	3学期	メールアドレス	担当科目	掲載頁
49	みどりかわのぶゆき 緑川 信之	Midorikawa Nobuyuki	教授	7D306				midorika@slis	知識資源の分析	49
50	みない ひでき 森袋 秀樹	Minai Hideki	教授	7D310	月6限	金5限	火4限	himinai@slis	図書館論 公共図書館特論	14 42
51	むらい まいこ 村井 麻衣子	Murai Maiko	講師	7D506	金18:00～19:00	木15:00～16:00	火15:00～16:00	myco@slis	知的財産権論 知的財産権論A 専門外国語III-2C 図書館情報学実習	19 91 73 75
52	もりしま あつゆき 森嶋 厚行	Morishima Atsuyuki	准教授	7D507	月11:30～12:30	月11:30～12:30	月11:30～12:30	mori@slis	先端データベース技術論	110
53	もりた ひろみ 森田 ひろみ	Morita Hiromi	講師	7D402	随時(要メール予約)	随時(要メール予約)	随時(要メール予約)	morita@slis	心理学 知覚情報処理	5 108
54	もりつぐ しゅいち 森維 修一	Moritsugu Shuichi	教授	7D214	火18:00～19:30	火18:00～19:30	月17:30～19:30	moritsug@slis	代数学 基礎数学I データ構造とアルゴリズム	7 26 94
55	よこやま みきこ 横山 幹子	Yokoyama Mikiko	講師	7D405	火5限	火5限	火5限	mikiko@slis	哲学概論 知識論	1 37
56	よしかね ふゆき 芳鐘 冬樹	Yoshikane Fuyuki	准教授	7D414	金3限	水3限	月5限	fuyuki@slis	情報評価 レファレンスサービス演習-1 専門外国語III-2A	39 44 71
57	よしだ ゆうこ 吉田 右子	Yoshida Yuko	教授	7D116	火2限	火2限	火2限	yyoshida@slis	生涯学習論 コレクション形成論	18 33
58	ロー、パトリック Lo, Patrick	Lo, Patrick	准教授	7D315	水1・2限	水1・2限	水1・2限	plo@slis		
59	わかばやし けい 若林 啓	Wakabayashi Kei	助教	7D207	水5・6限	水5・6限	水5・6限	kwakaba@slis		
60	わたぬき 豊昭 綿拔 豊昭	Watanuki Toyoaki	教授	7D511	水7限	水7限	水7限	wata@slis	日本図書館学 古文獻講読	51 52
	いちかわ えり 市川 恵理	Ichikawa Eri	准教授	7D307	木3限	木3限	木3限	eriichi@slis	図書館情報法制度論	41
	いわまる よしあき 岩丸 良明	Iwamaru Yoshiaki	非常勤講師	—					経営情報システム	78
	かわすみ あつし 川澄 厚志	Kawasumi Atsushi	非常勤講師	—					質的調査法	63
	ときた たくや 徳田 拓成	Tokita Takuya	非常勤講師	—					情報組織化論	16
	ののもと ゆうじ 野本 祐二	Nomoto Yuji	准教授	7D308	随時(要メール予約)	金5限	木3限	ynomoto@slis	パブリックガバナンス論	40
	ひょうどう まさし 兵頭 昌	Hyodo Masashi	非常勤講師	—					基礎数学II	23
	ひらや あつし 平湯 あつし	Hirayu Atsushi	非常勤講師	—					テクニカルコミュニケーション論	65
	むしかこうじ すみこ 武者小路 澄子	Mushakoji Sumiko	非常勤講師	—					知識形成論	61

*メールアドレスのドメイン部は「.tsukuba.ac.jp」を省略。例えば「gakumu-k@slis」は「gakumu-k@slis.tsukuba.ac.jp」が正しいメールアドレスです。

非常勤講師へは原則として授業の前後に会うか、学群学務係を経由して連絡してください。

科目名索引

〔あ行〕	生涯学習論.....14
アーカイブ論.....38	情報検索システム.....91
医療情報論.....69	情報検索論.....13
音声メディア処理.....97	情報行動論.....33
〔か行〕	情報サービス経営論.....83
解析学.....8	情報サービスシステム.....73
学習指導と学校図書館.....62	情報システム論.....20
学術情報システム.....74	情報組織化演習－1, －2.....31
学術情報流通論.....30	情報組織化論.....12
画像メディア処理.....98	情報デザイン.....76
学校経営と学校図書館.....61	情報評価.....34
学校図書館メディアの構成.....63	情報表現法.....19
漢文講読.....50	情報メディアの活用.....65
幾何学.....6	心理学.....5
基礎数学Ⅰ.....22	西洋図書館史概論.....26
基礎数学Ⅱ.....23	先端データベース技術論.....101
基礎数学入門.....24	専門外国語Ⅲ－2A.....66
教育文化政策.....54	専門外国語Ⅲ－2B.....67
記録資料入門.....27	専門外国語Ⅲ－2C.....68
クラスタリング.....79	〔た行〕
グラフィックデザインⅠ.....82	大学図書館論.....43
経営情報システム.....72	代数学.....7
経済学.....3	多変量解析.....78
計量情報学.....59	知覚情報処理.....99
公共図書館特論.....37	知識形成論.....56
古文献講読.....48	知識資源の分析.....45
コミュニティ情報論.....41	知識発見基礎論.....25
コレクション形成論.....28	知識論.....32
コンテンツ表現と形成の技術.....71	知的財産権論.....15
コンテンツプロデュース論.....81	知的財産権論 A.....85
〔さ行〕	知的財産権論 B.....86
自然言語処理.....21	知能ロボット.....100
質的調査法.....58	中国図書学.....49
社会学.....4	デジタルドキュメント.....77
社会調査法.....57	データ構造とアルゴリズム.....88

データベース	18	量子情報処理.....	95
データマイニング	80	レファレンスサービス演習－1, －2	39
テキスト処理	75	レファレンスサービス論	29
テクニカルコミュニケーション論.....	60	レファレンスサイエンス	84
哲学概論	1		
統計情報と研究	53		
読書と豊かな人間性	64		
図書館経営論 I	11		
図書館建築論	40		
図書館情報学概論	9		
図書館情報法制度論	36		
図書館文化史	52		
図書館論	10		
特許情報論	44		
〔な行〕			
日本図書館	47		
ネットワークコミュニケーション.....	87		
ネットワーク情報法	55		
ネットワークメディアシステム.....	94		
〔は行〕			
パブリックガバナンス論.....	35		
プログラミング演習 I －1, －2.....	16		
プログラミング演習 II －1, －2.....	17		
プログラミング言語処理系.....	93		
プログラミング法	89		
法律学	2		
〔ま行〕			
マークアップ言語	90		
マルチメディアシステム.....	92		
マンマシンインタラクション	96		
メタデータ	70		
メディアリテラシー	42		
メディア論	51		
〔や行〕			
用語管理論	46		
〔ら行〕			